

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部の設置							
フリガナ 設置者		ガッコウアカジエン トウカイイバク 学校法人 東海大学							
フリガナ 大学の名称		トウカイイバク 東海大学 (Tokai University)							
大学本部の位置		神奈川県平塚市北金目4-1-1							
大学の目的		本学は、人道に根ざした深い教養をもつ有能な人材を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。							
新設学部等の目的		本学部は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、「実践的な人文学」として、意味と価値の探求を推し進めたうえで、得られた知識の活用を、様々な分野の垣根を超え、グローバルな視点とローカルな視点を合わせた「グローカル」な実践を通じて身に付け、柔軟な視点から問題点を発見する力、そして解決していこうとするマネジメント力を養い、変化に対応する力を身に付けた人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	人文学部 [Undergraduate School of Humanities]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	人文学科 [Department of Humanities]	4	180	—	720	学士（人文学） [Bachelor of Humanities]	令和4年4月 第1年次	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
	計		180	—	720				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		別紙のとおり							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	人文学部人文学科	57科目	14科目	4科目	75科目	124単位			

教	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		
員	新	人文学部人文学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	11 (11)
		児童教育学部児童教育学科	9 (7)	5 (5)	6 (5)	1 (1)	21 (18)	0 (0)	20 (9)
組	設	経営学部経営学科	9 (9)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	12 (12)
		国際学部国際学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
		情報理工学部情報メディア学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	6 (6)
		情報通信学部情報通信学科	10 (10)	7 (7)	6 (6)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	10 (10)
		工学部生物工学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	20 (20)
		工学部機械システム工学科	5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	18 (18)
		工学部医工学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	21 (21)
		建築都市学部建築学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	7 (7)
		建築都市学部土木工学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	15 (15)
		海洋学部海洋理工学科	15 (15)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	20 (20)
		文理融合学部経営学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	12 (12)
		文理融合学部地域社会学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	13 (13)
		文理融合学部人間情報工学科	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	17 (17)
		農学部農学科	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	13 (13)
		農学部動物科学科	4 (4)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	16 (16)
		農学部食生命科学科	6 (6)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	22 (22)
織	分	計	127 (125)	63 (63)	43 (42)	7 (7)	240 (237)	0 (0)	— —
の	既	文学部文明学科	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	14 (14)
		文学部歴史学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	23 (23)
		文学部日本文学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	16 (16)
		文学部英語文化コミュニケーション学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	8 (8)
		文化社会学部アジア学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	20 (20)
		文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	12 (12)
		文化社会学部北欧学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	7 (7)
		文化社会学部文芸創作学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	3 (3)
		文化社会学部広報メディア学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	2 (2)
		文化社会学部心理・社会学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	13 (13)
	設	政治経済学部政治学科	10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)
		政治経済学部経済学科	8 (8)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
		法学部法律学科	12 (12)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	2 (2)
		教養学部人間環境学科	9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	27 (27)
		教養学部芸術学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	88 (88)
		体育学部体育学科	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)
		体育学部競技スポーツ学科	6 (6)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	11 (11)
		体育学部武道学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	10 (10)
要	分	体育学部生涯スポーツ学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	6 (6)
		体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)

教	既	健康学部健康マネジメント学科	10 (10)	6 (6)	6 (6)	2 (2)	24 (24)	0 (0)	2 (2)
		理学部数学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)
		理学部情報数理学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)
		理学部物理学科	11 (11)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	12 (12)
員		理学部化学科	9 (9)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		理学部 基礎教育研究室	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		情報理工学部情報科学科	6 (6)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	8 (8)
		情報理工学部コンピュータ応用工学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	11 (11)
組		工学部応用化学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		工学部電気電子工学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	5 (5)
		工学部機械工学科	8 (7)	4 (4)	4 (0)	0 (0)	16 (11)	0 (0)	13 (13)
		工学部航空宇宙学科	12 (12)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	5 (5)
		観光学部観光学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	10 (10)
		海洋学部水産学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
		海洋学部海洋生物学科	8 (8)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	5 (5)
		海洋学部 海洋フロンティア教育センター	1 (1)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	7 (7)
		医学部医学科	127 (127)	106 (106)	205 (205)	396 (396)	834 (834)	0 (0)	131 (131)
		医学部看護学科	8 (8)	8 (8)	14 (14)	4 (4)	34 (34)	0 (0)	47 (47)
		国際文化学部地域創造学科	9 (9)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	14 (14)
		国際文化学部国際コミュニケーション学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	9 (9)
織	設	生物学部生物学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	14 (14)
		生物学部海洋生物科学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
		計	403 (402)	231 (231)	296 (292)	411 (411)	1341 (1336)	0 (0)	—
		現代教養センター	4 (4)	12 (12)	5 (5)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	20 (20)
		国際教育センター	17 (17)	20 (20)	20 (20)	3 (3)	60 (60)	0 (0)	160 (160)
		情報教育センター	2 (2)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	19 (19)
		課程資格教育センター	6 (6)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	46 (46)
		先進生命科学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
の		教育開発研究センター	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		スポーツ医科学研究所	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		情報技術センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合社会科学研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		高輪教養教育センター	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	43 (43)
		清水教養教育センター	9 (9)	10 (10)	5 (5)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	55 (55)
		海洋研究所	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		総合医学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		九州教養教育センター	4 (4)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	23 (23)
		総合農学研究所	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		札幌教養教育センター	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	33 (33)
概	分	計	64 (64)	66 (66)	47 (47)	8 (8)	185 (185)	0 (0)	—
		合 計	594 (591)	360 (360)	386 (381)	426 (426)	1766 (1758)	0 (0)	—
要									

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計											
	事 務 職 員		779 (779)		269 (269)		1048 (1048)											
	技 術 職 員		57 (57)		2 (2)		59 (59)											
	図 書 館 専 門 職 員		44 (44)		22 (22)		66 (66)											
	そ の 他 の 職 員		8 (8)		0 (0)		8 (8)											
	計		888 (888)		293 (293)		1181 (1181)											
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		東海大学付属望星高等学校と共用 名称：東海大学付属望星高等学校（通信制） 収容定員：3,000名 校地面積基準：なし							
	校 舎 敷 地		1,770,691.41 m ²		2,052.88 m ²		0.00 m ²		1,772,744.29 m ²			内借用地：55,045.86m ²						
	運 動 場 用 地		396,797.97 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		396,797.97 m ²			内借用地：47,282.12m ²						
	小 計		2,167,489.38 m ²		2,052.88 m ²		0.00 m ²		2,169,542.26 m ²									
	そ の 他		211,174.76 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		211,174.76 m ²			内借用地：153,717.23m ²						
	合 計		2,378,664.14 m ²		2,052.88 m ²		0.00 m ²		2,380,717.02 m ²			借用期間：2～30年						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計									
			532,456.15 m ² (532,456.15 m ²)		0.00 m ² (0.00 m ²)		0.00 m ² (0.00 m ²)		532,456.15 m ² (532,456.15 m ²)									
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体						
		480 室		328 室		1,260 室		79 室 (補助職員 20 人)		6 室 (補助職員 0 人)								
専任教員研究室				新設学部等の名称				室 数				16 室						
				人文学部人文学科														
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕点		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		大学全体での共用として、 電子データベースは37種〔うち国外16種〕 学術雑誌（電子ジャーナル含む）は約45,000種〔うち国外約42,200種〕 電子ブックは約12,700点〔うち国外約7,000点〕が利用可能。			
	人文学部人文学科		44,769 [4,021] (43,892 [3,921])		155 [31] (147 [27])		39 [25] (31 [21])		198 (178)		0 [0] (0 [0])		0 [0] (0 [0])					
	計		44,769 [4,021] (43,892 [3,921])		155 [31] (147 [27])		39 [25] (31 [21])		198 (178)		0 [0] (0 [0])		0 [0] (0 [0])					
図書館			面積			閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体						
			21,687.00 m ²			3,734 席			2,318,166 冊									
体育館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体						
			24,060.79 m ²			トレーニングセンター			25mプール									
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分		開設前年度		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次		図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等				330千円		330千円		330千円		330千円		— 千円		— 千円		
		共同研究費等				1,050千円		1,050千円		1,050千円		1,050千円		— 千円		— 千円		
		図 書 購 入 費		200千円		380千円		560千円		740千円		920千円		— 千円		— 千円		
	設 備 購 入 費		2,200千円		2,200千円		2,200千円		2,200千円		2,200千円		— 千円		— 千円			
	学生1人当り納付金		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次					
		1,416千円		1,216千円		1,216千円		1,216千円		— 千円		— 千円						
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常経費補助金、手数料等														

既設大学	大学の名称	東海大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
		年	人	年次人	人		倍			
大	文学部		370	—	1,480		1.02	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.03	平成13年	〃	
	アジア文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	ヨーロッパ文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	アメリカ文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	北欧学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和42年	〃	平成30年度より学生募集停止
	歴史学科		130	—	520		1.02	昭和35年	〃	
	日本史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	1.07	昭和58年	〃	
	東洋史専攻	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和58年	〃	平成30年度より学生募集停止
	西洋史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
	考古学専攻	4	30	—	120	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
	日本文学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.01	平成13年	〃	
	文芸創作学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	英語文化コミュニケーション学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.00	昭和35年	〃	
	広報メディア学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	心理・社会学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
学	文化社会学部		450	—	1,800		1.01	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	アジア学科	4	70	—	280	学士(文化社会学)	1.03	平成30年	〃	
	ヨーロッパ・アメリカ学科	4	70	—	280	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
	北欧学科	4	60	—	240	学士(文化社会学)	1.02	平成30年	〃	
	文芸創作学科	4	60	—	240	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
	広報メディア学科	4	100	—	400	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
	心理・社会学科	4	90	—	360	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
	政治経済学部		480	—	1,920		1.00	昭和41年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	政治学科	4	160	—	640	学士(政治学)	1.03	昭和41年	〃	
	経済学科	4	160	—	640	学士(経済学)	0.99	昭和41年	〃	
等	経営学科	4	160	—	640	学士(経営学)	0.99	昭和49年	〃	
	法学部		300	—	1,200		1.01	昭和61年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法律学科	4	300	—	1,200	学士(法学)	1.01	昭和61年	〃	
	教養学部		330	—	1,320		1.03	昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	人間環境学科		160	—	640		1.01	昭和43年	〃	
	自然環境課程	4	65	—	260	学士(教養学)	0.97	昭和43年	〃	
	社会環境課程	4	95	—	380	学士(教養学)	1.01	昭和43年	〃	
	芸術学科		90	—	360		1.03	昭和43年	〃	
	音楽学課程	4	32	—	128	学士(教養学)	1.04	昭和43年	〃	
	美術学課程	4	20	—	80	学士(教養学)	1.08	昭和43年	〃	
の	デザイン学課程	4	38	—	152	学士(教養学)	1.04	昭和43年	〃	
	国際学科	4	80	—	320	学士(教養学)	1.09	昭和47年	〃	
	体育学部		480	—	1,920		1.01	昭和42年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学科	4	110	—	440	学士(体育学)	0.97	昭和42年	〃	
	競技スポーツ学科	4	140	—	560	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
	武道学科	4	60	—	240	学士(体育学)	1.02	昭和43年	〃	
	生涯スポーツ学科	4	110	—	440	学士(体育学)	0.99	昭和46年	〃	
	スポーツレジャーマネジメント学科	4	60	—	240	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
	健康学部		200	—	800		1.02	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	健康マネジメント学科	4	200	—	800	学士(健康マネジメント学)	1.02	平成30年	〃	
状	理学部		320	—	1,280		0.98	昭和39年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	数学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.99	昭和39年	〃	
	情報数理学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.99	昭和49年	〃	
	物理学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
	化学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
	情報理工学部		200	—	800		1.03	平成13年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	情報科学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.04	平成13年	〃	
	コンピュータ応用工学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.03	平成13年	〃	
況										

平成30年度より学生募集停止
平成30年度より学生募集停止
平成30年度より学生募集停止

既設大 学等 の 状 況	《大学院》									
	総合理工学研究科							平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	令和3年度より学生募集停止 令和3年度より学生募集停止
	総合理工学専攻	博士課程	3	35	—	105	博士(理学)・博士(工学)	0.47	平成17年	
	地球環境科学研究科							平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
	地球環境科学専攻	博士課程	3	—	—	—	博士(理学)・博士(工学)	—	平成17年	
	生物科学研究科							平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
	生物科学専攻	博士課程	3	10	—	30	博士(理学)・博士(農学) 博文(看護学)	0.10	平成17年	
	文学研究科							昭和44年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文明研究専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.31	昭和49年	
	文明研究専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.41	昭和51年	
	史学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.06	昭和44年	
	史学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和46年	
	日本文学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.81	昭和49年	
	日本文学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.50	昭和51年	
	英文学専攻	博士課程前期	2	4	—	8	修士(文学)	0.12	昭和44年	
	英文学専攻	博士課程後期	3	2	—	6	博士(文学)	0.00	昭和46年	
	コミュニケーション学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.43	昭和49年	
	コミュニケーション学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和51年	
	観光学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(観光学)	0.43	平成26年	
	政治学研究科							昭和46年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	政治学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(政治学)	0.05	昭和46年	
	政治学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(政治学)	0.00	昭和48年	
	経済学研究科							昭和54年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	応用経済学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(経済学)	0.10	昭和54年	
	応用経済学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(経済学)	0.00	昭和56年	
	法学研究科							平成2年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法律学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(法学)	0.00	平成16年	
	法律学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(法学)	0.00	平成5年	
	人間環境学研究科							平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	人間環境学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(学術)	0.45	平成19年	
	芸術学研究科							昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	音響芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年	
	造型芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年	
	体育学研究科							昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学専攻	博士課程前期	2	20	—	35	修士(体育学)	1.36	昭和51年	
	体育学専攻	博士課程後期	3	3	—	3	博士(体育学)	—	令和3年	
	理学研究科							昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	数理科学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.56	昭和43年	
	物理学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.37	昭和43年	
	化学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.49	昭和43年	
	工学研究科							昭和38年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	電気電子工学専攻	修士課程	2	50	—	100	修士(工学)	1.03	平成28年	
	応用理化学専攻	修士課程	2	45	—	90	修士(工学)	1.24	平成28年	
	建築土木工学専攻	修士課程	2	25	—	50	修士(工学)	1.16	平成28年	
	機械工学専攻	修士課程	2	75	—	150	修士(工学)	1.21	平成28年	
	医学生体工学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.37	平成26年	
	情報通信学研究科							平成24年	東京都港区高輪2-3-23	
	情報通信学専攻	修士課程	2	30	—	60	修士(情報通信学)	0.99	平成24年	
	海洋学研究科							昭和42年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
	海洋学専攻	修士課程	2	20	—	40	修士(海洋学)	0.65	平成27年	

既 設 大 学 等 の 状 況	医学研究科								昭和55年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	医科学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(医科学)	0.80	平成7年	〃	
	先端医科学専攻	博士課程	4	35	—	140	博士(医学)	0.49	平成17年	〃	
	健康科学研究科								平成11年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	看護学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(看護学)	0.85	平成11年	〃	
	保健福祉学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(保健福祉学)	0.15	平成11年	〃	
	農学研究科								平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	農学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(農学)	0.87	平成20年	〃	
	生物学研究科								令和2年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
	生物学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.25	令和2年	〃	
	大 学 の 名 称		東海大学短期大学部								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	食物栄養学科		2	—	—	—	短期大学士(食物栄養学)	—	昭和41年	静岡県静岡市葵区宮前町101	令和2年度より学生募集停止
	児童教育学科		2	—	—	—	短期大学士(児童教育学)	—	昭和44年	〃	令和2年度より学生募集停止
	大 学 の 名 称		東海大学医療技術短期大学								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	看護学科		3	—	—	—	短期大学士(看護学)	—	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-2	令和2年度より学生募集停止

附属施設の概要	名 称：東海大学医学部付属病院 目的：医療機関 所 在 地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年2月 規 模 等：土地 116,282.91㎡、建物 83,850.19㎡	
	名 称：東海大学医学部付属東京病院 目的：医療機関 所 在 地：東京都渋谷区代々木1－2－5 設置年月：昭和58年12月 規 模 等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡	
	名 称：東海大学医学部付属大磯病院 目的：医療機関 所 在 地：神奈川県中郡大磯町月京21－1 設置年月：昭和59年4月 規 模 等：土地 23,286.72㎡、建物 19,752.88㎡	
	名 称：東海大学医学部付属八王子病院 目的：医療機関 所 在 地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年3月 規 模 等：土地 47,708.39㎡、建物 44,334.88㎡	
	名 称：望星丸 目的：海洋調査研修 所 在 地：東京都（船籍港） 設置年月：平成5年3月（進水の年月） 規 模 等：総トン数1,777トン、国際総トン数2,174トン 全長全長87.98m、型幅12.80m、型深さ8.10m	

【別紙】同一設置者内における変更状況

政治経済学部経営学科（廃止）（△ 160）	※令和4年4月学生募集停止
教養学部国際学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部生命化学科（廃止）（△ 100）	※令和4年4月学生募集停止
工学部光・画像工学科（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
工学部原子力工学科（廃止）（△ 40）	※令和4年4月学生募集停止
工学部材料科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部建築学科（廃止）（△ 200）	※令和4年4月学生募集停止
工学部土木工学科（廃止）（△ 120）	※令和4年4月学生募集停止
工学部精密工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部動力機械工学科（廃止）（△ 150）	※令和4年4月学生募集停止
工学部医用生体工学科（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部情報メディア学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部組込みソフトウェア工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部経営システム工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部通信ネットワーク工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋文明学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部環境社会学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋地球科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科航海学専攻（廃止）（△ 20）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科海洋機械工学専攻（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
経営学部（廃止）	※令和4年4月学生募集停止
経営学科（廃止）（△ 150）	※令和4年4月学生募集停止
観光ビジネス学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
基盤工学部（廃止）	※令和4年4月学生募集停止
電気電子情報工学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
医療福祉工学科（廃止）（△ 60）	※令和4年4月学生募集停止
農学部応用植物科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
農学部応用動物科学科（廃止）（△ 80）	※令和4年4月学生募集停止
農学部バイオサイエンス学科（廃止）（△ 70）	※令和4年4月学生募集停止
国際文化学部デザイン文化学科（廃止）（△ 70）	※令和4年4月学生募集停止
児童教育学部（令和3年3月認可申請）	
児童教育学科（150）	
経営学部（令和3年4月届出予定）	
経営学科（230）	
国際学部（令和3年4月届出予定）	
国際学科（200）	
情報理工学部情報メディア学科（100）（令和3年4月届出予定）	
工学部生物工学科（100）（令和3年4月届出予定）	
工学部機械システム工学科（140）（令和3年4月届出予定）	
工学部医工学科（80）（令和3年4月届出予定）	
建築都市学部（令和3年4月届出予定）	
建築学科（240）	
土木工学科（100）	
情報通信学部情報通信学科（240）（令和3年4月届出予定）	
海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻（130）（令和3年4月届出予定）	
海洋学部海洋理工学科航海学専攻（20）（令和3年4月届出予定）	
文理融合学部（令和3年4月届出予定）	
経営学科（130）	
地域社会学科（100）	
人間情報工学科（70）	
農学部農学科（80）（令和3年4月届出予定）	
農学部動物科学科（80）（令和3年4月届出予定）	
農学部食生命科学科（70）（令和3年4月届出予定）	
政治経済学部	
政治学科〔定員増〕（40）（令和4年4月）	
経済学科〔定員増〕（40）（令和4年4月）	
教養学部	
人間環境学科〔定員減〕（△ 40）（令和4年4月）	
芸術学科〔定員減〕（△ 20）（令和4年4月）	
体育学部	
体育学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
競技スポーツ学科〔定員増〕（30）（令和4年4月）	
生涯スポーツ学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
スポーツ・レジャーマネジメント学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
工学部	
応用化学科〔定員増〕（20）（令和4年4月）	
電気電子工学科〔定員減〕（△ 20）（令和4年4月）	
海洋学部	
海洋生物学科〔定員減〕（△ 10）（令和4年4月）	
医学部	
看護学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
生物学部	
生物学科〔定員増〕（5）（令和4年4月）	
海洋生物科学科〔定員増〕（5）（令和4年4月）	

学校法人東海大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
文学部	文明学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360	
文化社会学部	アジア学科		70	—	280	
	ヨーロッパ・アメリカ学科		70	—	280	
	北欧学科		60	—	240	
	文芸創作学科		60	—	240	
	広報メディア学科		100	—	400	
	心理・社会学科		90	—	360	
政治経済学部	政治学科		160	—	640	
	経済学科		160	—	640	
	経営学科		160	—	640	
法学部	法律学科		300	—	1200	
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	65	—	260	
		社会環境課程	95	—	380	
	芸術学科	音楽学課程	32	—	128	
		美術学課程	20	—	80	
		デザイン学課程	38	—	152	
	国際学科		80	—	320	
体育学部	体育学科		110	—	440	
	競技スポーツ学科		140	—	560	
	武道学科		60	—	240	
	生涯スポーツ学科		110	—	440	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		60	—	240	
健康学部	健康マネジメント学科		200	—	800	
理学部	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	
	コンピュータ応用工学科		100	—	400	
工学部	生命化学科		100	—	400	
	応用化学科		80	—	320	
	光・画像工学科		60	—	240	
	原子力工学科		40	—	160	
	電気電子工学科		140	—	560	
	材料科学科		80	—	320	
	建築学科		200	—	800	
	土木工学科		120	—	480	
	精密工学科		80	—	320	
	機械工学科		140	—	560	
	動力機械工学科		150	—	600	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科		60	—	240	
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部	情報メディア学科		80	—	320	
	組込みソフトウェア工学科		80	—	320	
	経営システム工学科		80	—	320	
	通信ネットワーク工学科		80	—	320	
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320	
	環境社会学科		80	—	320	
	海洋地球科学科		80	—	320	
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		90	—	360	
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
医学部	医学科		118	—	708	118名は令和3年度入学生まで
	看護学科		85	—	340	
経営学部	経営学科		150	—	600	
	観光ビジネス学科		80	—	320	
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320	
	医療福祉工学科		60	—	240	

令和4年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
文学部	文明学科		60	—	240		
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200		
		西洋史専攻	50	—	200		
		考古学専攻	30	—	120		
	日本文学科		90	—	360		
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360		
文化社会学部	アジア学科		70	—	280		
	ヨーロッパ・アメリカ学科		70	—	280		
	北欧学科		60	—	240		
	文芸創作学科		60	—	240		
	広報メディア学科		100	—	400		
	心理・社会学科		90	—	360		
政治経済学部	政治学科		200	—	800		定員変更(40)
	経済学科		200	—	800		定員変更(40)
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
経営学部	経営学科		230	—	920		学部の設置(届出)
法学部	法律学科		300	—	1200		
教養学部	人間環境学科		120	—	480		定員変更(△40)
	芸術学科		70	—	280		定員変更(△20)
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		
国際学部	国際学科		200	—	800		学部の設置(届出)
児童教育学部	児童教育学科		150	—	600		学部の設置(認可申請)
体育学部	体育学科		120	—	480		定員変更(10)
	競技スポーツ学科		170	—	680		定員変更(30)
	武道学科		60	—	240		
	生涯スポーツ学科		120	—	480		定員変更(10)
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		70	—	280		定員変更(10)
健康学部	健康マネジメント学科		200	—	800		
理学部	数学科		80	—	320		
	情報数理学科		80	—	320		
	物理学科		80	—	320		
	化学科		80	—	320		
情報理工学部	情報科学科		100	—	400		
	コンピュータ応用工学科		100	—	400		
	情報メディア学科		100	—	400		学部の学科の設置(届出)
工学部			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
	生物工学科		100	—	400		学部の学科の設置(届出)
	応用化学科		100	—	400		定員変更(20)
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
	電気電子工学科		120	—	480		定員変更(△20)
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
	機械システム工学科		140	—	560		学部の学科の設置(届出)
	機械工学科		140	—	560		
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360		
		航空操縦学専攻	50	—	200		
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
	医工学科		80	—	320		学部の学科の設置(届出)
建築都市学部	建築学科		240	—	960		学部の設置(届出)
	土木工学科		100	—	400		
観光学部	観光学科		200	—	800		
情報通信学部			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
	情報通信学科		240	—	960		学部の学科の設置(届出)
人文学部	人文学科		180	—	720		学部の設置(届出)
海洋学部			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
	水産学科		120	—	480		
	海洋生物学科		80	—	320		定員変更(△10)
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		
	海洋理工学科	海洋理工学専攻 航海学専攻	130 20	—	520 80		学部の学科の設置(届出)
医学部	医学科		110	—	660		臨時定員増(8)は令和3年度まで
	看護学科		95	—	380		定員変更(10)
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
			0	—	0		令和4年4月学生募集停止
文理融合学部	経営学科		130	—	520		
	地域社会学科		100	—	400		学部の設置(届出)
	人間情報工学科		70	—	280		

令和3年度					
農学部	応用植物科学科	80	—	320	
	応用動物科学科	80	—	320	
	バイオサイエンス学科	70	—	280	
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440	
	国際コミュニケーション学科	80	—	320	
	デザイン文化学科	70	—	280	
生物学部	生物学科	70	—	280	
	海洋生物科学科	70	—	280	
計		6773	—	27328	

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105	
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	史学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	日本文学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	英文学専攻	(M)	4	—	8	
		(D)	2	—	6	
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	観光学専攻	(M)	8	—	16	
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8	
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻	(M)	20	—	40	
		(D)	3	—	9	
理学研究科	数理科学専攻	(M)	8	—	16	
	物理学専攻	(M)	12	—	24	
	化学専攻	(M)	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100	
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90	
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50	
	機械工学専攻	(M)	75	—	150	
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20	
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20	
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20	
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24	
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	—	16	
計			563	—	1277	

令和4年度					
農学部		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	農学科	80	—	320	学部の学科の設置(届出)
		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	動物科学科	80	—	320	学部の学科の設置(届出)
		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
	食生命科学科	70	—	280	学部の学科の設置(届出)
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440	
	国際コミュニケーション学科	80	—	320	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和4年4月学生募集停止
生物学部	生物学科	75	—	300	定員変更(5)
	海洋生物科学科	75	—	300	定員変更(5)
計		6855	—	27640	

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105		
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	史学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	日本文学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	英文学専攻	(M)	4	—	8		
		(D)	2	—	6		
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	観光学専攻	(M)	8	—	16		
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8		
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8		
体育学研究科	体育学専攻	(M)	20	—	40		
		(D)	3	—	9		
理学研究科	数理科学専攻	(M)	8	—	16		
	物理学専攻	(M)	12	—	24		
	化学専攻	(M)	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100		
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90		
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50		
	機械工学専攻	(M)	75	—	150		
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16		
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60		
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20		
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20		
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20		
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24		
生物学研究科	生物学専攻	(M)	8	—	16		
計			563	—	1277		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人文部 人文学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅰ 現代文明論	現代文明論	2前	2			○								兼1	
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目														
	入門ゼミナールA	1前	2			○			6	4	5				
	入門ゼミナールB	1後	2			○			6	4	5				
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			6	4	5	0	0		
	発展教養科目														
	シティズンシップ	1前	2			○								兼1	
	地域・国際理解	1後	2			○								兼1	
	現代教養講義	2後	2			○								兼1	
	小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
	目健康スポーツ科														
	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼1	
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼1	
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目														
	英語リスニング&スピーキング	1前	2					○						兼1	
	英語リーディング&ライティング	1後	2					○						兼1	
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
Ⅳ 主専攻科目	人文基礎科目														
	総合人文学概論	1前	2			○			5	4	4	0	0		
	専門外国語（英語）1	2前	2				○		1						
	専門外国語（英語）2	2後	2				○		1						
	人文思想	1前		2		○				1					
	ことばと論理	1後		2		○			1						
	人間と環境	1前		2		○								兼1	
	考古学	1前		2		○				1	2				
	人類学	1後		2		○					1				
	小計（8科目）	—	6	10	0	—			5	4	4	0	0	兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
（人文部 人文学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
IV 主専攻科目	人文 発展科目	駿河湾学	1後	2		○			1							
		グローバル時代の人間学	2前		2	○			5	4	4	0	0			
		文化と現代メディア	1前		2	○					1					
		自然環境との共生	1後		2	○								兼1		
		多文化の共生	1前		2	○					1					
		食と環境	2後		2	○					1					
		生き物文化誌	2後		2	○				1						
		食文化論	1前		2	○				1						
		日本文化史	1後		2	○				1	2					
		生と死の文化史	1後		2	○				1						
		地域文化論	1前		2	○			1							
		言語と社会文化	1後		2	○			1							
		経済学	1前		2	○								兼1		
		現代ビジネスと法	2後		2	○								兼1		
		データサイエンス入門	1後		2	○			1							
		公共政策論	1後		2	○				1						
		人間と健康	2前		2	○								兼1		
		日本人論	2前		2	○					1					
		小計（18科目）	—	2	34	0	—		6	4	5	0	0	兼4		
人文 応用科目	地域 マネジメント	財務会計論	3前		2	○								兼1		
		インターネット社会と知的財産	3後		2	○								兼1		
		ローカル・フード	3後		2	○				1						
		観光人類学	1前		2	○			1							
		地域アーカイブ	2後		2	○			1							
		海洋資源論	3前		2	○				1						

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文部 人文学科)																
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	人文 応用科目	地域 マネジ メント	地域観光論	2前		2		○			1					
			地域産業論	2後		2		○								兼1
			地域環境論	2前		2		○			1					
			コミュニティ創造論	3前		2		○			1					
			小計（10科目）	—	0	20	0	—			3	2	0	0	0	兼3
	グロー バル・コ ミュニ ケーシ ョン	イン パウン ド・コ ミュニ ケーシ ョン	インパウンド・コミュニケーション	3前		2		○								兼1
			アジアの思想	3前		2		○			1					
			クリティカル・シンキング	3後		2		○					1			
			世界の文化とグローバリズム	2後		2		○					1			
			メディアリテラシー	2前		2		○					1			
			生活様式論	2前		2		○					1			
			情報発信とソーシャルメディア	3後		2		○								兼1
			国際海洋論	2後		2		○				1				
			国際研修	2休		2			○		5	4	4	0	0	集中
			小計（9科目）	—	0	18	0	—			5	4	5	0	0	兼1
	クリ エイ ティ ヴ・カ ルチ ャー	言 語表 現論 身体 論 ミュー ジア ム論 海洋 考古 学 ウェ ルネ スと セラ ビー 文化 フー ドコ ーデ ィネ ート 映像 表現 論 エン ター テイ メン ト産 業論 神話 と美 術	言語表現論	2後		2		○			2	1				
			身体論	3後		2		○								兼1
			ミュージアム論	2前		2		○				1	3			
			海洋考古学	2後		2		○					1			
			ウェルネスとセラピー文化	2後		2		○			1					
			フードコーディネート	3前		2		○				1				
			映像表現論	3前		2		○								兼1
			エンターテインメント産業論	3後		2		○								兼1
			神話と美術	2前		2		○				1				
			小計（9科目）	—	0	18	0	—			3	3	3	0	0	兼3

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(人文部 人文学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
IV 主専攻科目	フィールドワーク演習科目	フィールドワーク演習A	3前		2			○		5	4	4	0	0			
		フィールドワーク演習B	3前		2			○		5	4	4	0	0			
		フィールドワーク演習C	3前		2			○		5	4	4	0	0			
		フィールドワーク演習D	3前		2			○		5	4	4	0	0			
		小計（4科目）	—	0	8	0	—			5	4	4	0	0			
	ゼミナール科目	基礎ゼミナール1	2前	2				○		6	4	5	0	0			
		基礎ゼミナール2	2後	2				○		6	4	5	0	0			
		ゼミナール1	3前	2				○		6	4	5	0	0			
		ゼミナール2	3後	2				○		6	4	5	0	0			
		卒業研究1	4前	2				○		6	4	5	0	0			
		卒業研究2	4後	2				○		6	4	5	0	0			
		特別研究	4後		2			○		6	4	5	0	0			
	小計（7科目）		—	12	2	0	—			6	4	5	0	0			
合計（75科目）			—	38	110	0	—			6	4	5	0	0	兼11		
学位又は称号			学士（人文学）			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：20単位（1学期））								1 学年の学期区分								2 学期	
□科目区分Ⅰ 現代文明論（必修科目） 2単位修得																	
□科目区分Ⅱ 現代教養科目（必修科目） 12単位修得																	
□科目区分Ⅲ 英語科目（必修科目） 4単位修得																	
□科目区分Ⅳ 主専攻科目 76単位修得																	
< 必修科目 > ■人文基礎科目（総合人文学概論、専門外国語1・2） 6 単位修得 ■人文発展科目（駿河湾学） 2 単位修得 ■ゼミナール科目 12単位修得（計20単位）								1 学期の授業期間								1 4 週	
< 選択必修科目 > ■人文基礎科目（必修科目以外） 8 単位以上修得 ■人文発展科目（必修科目以外） 28単位以上修得（計36単位）																	
< 選択科目 > ■人文応用科目 ■主専攻科目各学科目の余剰単位 20単位以上修得（計20単位）																	
□科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30単位修得																	
合計124単位修得																	
								1 時限の授業時間								1 0 0 分	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(海洋学部 海洋文明学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
論 I 現代文明	現代文明論	2前・後	2			○			3		1			兼5
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			3	0	1	0	0	兼5
II 現代教養科目	基礎教養科目													
	人文科学	1後	2			○								兼2
	社会科学	1後	2			○								兼2
	自然科学	1前	2			○								兼2
	小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼6
	発展教養科目													
	シティズンシップ	1後	1			○								兼6
	ボランティア	1後	1			○								兼7
	地域理解	1前	1			○					1			兼5
	国際理解	1前	1			○					2			兼8
	小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	2	0	0	兼14
	目健康スポーツ科													
	健康・フィットネス理論実習	1後	1					○						兼6
	生涯スポーツ理論実習	1前	1					○						兼6
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼7
III 英語科目	シ英語コミュニケーション													
	英語リスニング&スピーキング	1後	2					○						兼11
	英語リーディング&ライティング	1前	2					○						兼11
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼18
	成グ 科ロ 目バ ル人 材育													
	グローバルスキル	2前	2					○						兼10
	アカデミック英語	2後	2					○						兼10
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼17

教 育 課 程 等 の 概 要														
(海洋学部 海洋文明学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主 専 攻 科 目	学部 共通 科目	現代海洋論	1前	2		○			1	1	1			兼14
		海洋実習 1	1休	1				○			1			
		海洋実習 2	2休	1				○			1			
		海洋環境総合演習	4前		4		○							兼9
		自然を観る眼（基礎）	1前・後		1	○								兼4
		自然を観る眼（物理学）	1前・後		2	○								兼2
		自然を観る眼（化学）	1前・後		2	○								兼1
		自然を観る眼（生物学）	1前・後		2	○								兼2
		数を観る眼	1前・後		2	○								兼3
		情報処理実習 1	1前・後		2			○						兼2
		情報処理実習 2	2前・後		2			○						兼5
		小計（11科目）	—	4	17	0	—		1	1	1	0	0	兼34
	初 年 次 科 目	海洋文明学入門ゼミナール	1前・後	2			○		4	2	2			
		海洋文明学概論	1前・後	4		○			5	2	2			
		小計（2科目）	—	6	0	0	—		5	2	2	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(海洋学部 海洋文明学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目 人文科学系科目	海事史論A	1前		2		○				1				
	海事史論B	1前		2		○					1			
	人類学A	1前		2		○					1			
	人類学B	1前		2		○			1					
	海洋考古学1	1後		2		○				1	1			
	海洋文化の伝統と創造	1後		4		○			1				兼1	
	海域世界の生活誌	2前		4		○			1		1			
	キャリアデザイン1	2前・後	2			○			1					
	キャリアデザイン2	2後		2		○			1					
	海洋考古学2	2前		2		○					1			
	海域文化史	3前		4		○				1	1			
	海洋文化と資源管理	3前		2		○			1					
	海洋文化財調査法	3前		2		○					1			
	歴史資料論	3後		2		○				1				
	生活文化調査法	3前		2		○					1			
	民族誌論	3後		2		○							兼1	
	海洋思想史	3後		2		○							兼1	
	海洋文化学特論A	3前		2		○				1				
	海洋文化学特論B	3後		2		○					1			
	小計（19科目）	—	2	42	0	—			2	1	2	0	0	兼2

教 育 課 程 等 の 概 要															
(海洋学部 海洋文明学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	社会科学系科目	経済学	1前	4		○								兼1	
		海洋法概論A	1前	2		○				1					
		海洋法概論B	1前	2		○								兼1	
		海洋政策論A	1後	2		○			2						
		海洋政策論B	1後	2		○								兼1	
		地球環境の危機	1後	4		○								兼2	
		水産社会概論	3前	2		○			1						
		海洋環境保全概論	3前	2		○			1					兼1	
		海洋国際関係論A	3後	2		○			1					兼1	
		海洋国際関係論B	3後	2		○				1					
		海洋コミュニティ論A	3後	2		○			1						
		海洋コミュニティ論B	3後	2		○			1					兼1	
		海の観光と社会創造	3前	2		○			1						
		環境ボランティアとNPO	3後	2		○								兼1	
		海洋生態系の保全	3後	2		○								兼1	
		沿岸環境調査実習	3前	2				○						兼1	
		海洋ジャーナリズム論	3前	4		○			1					兼1	
		海洋安全保障論	3前	2		○			1						
		島嶼社会論	3後	2		○								兼1	
		海の利用と国際協力	3前	2		○				1					
		海洋社会学特論A	3前	2		○								兼1	
		海洋社会学特論B	3後	2		○			1	1					
小計（22科目）		—	0	50	0	—			3	1	0	0	0	兼9	

基本計画書—21

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 文学学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
論 I 現代文明	現代文明論	2前	2			○								兼2
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2
II 現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1後	2		○								兼2
		社会科学	1前	2		○								兼2
		自然科学	1前	2		○								兼2
		小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	兼6
	発展教養科目	シティズンシップ	1後	1		○								兼2
		ボランティア	1後	1		○								兼2
		地域理解	1前	1		○								兼2
		国際理解	1前	1		○								兼2
		小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	兼2
	健康スポーツ科	健康・フィットネス理論実習	1前	1				○						兼2
		生涯スポーツ理論実習	1後	1				○						兼2
		小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	兼2
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	1後	2				○						兼2
		英語リーディング&ライティング	1前	2				○						兼2
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	兼2
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	2前	2				○						兼2
		アカデミック英語	2後	2				○						兼2
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	兼2

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 文学学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	文学基礎	文明学基礎演習	1前	2		○			3	2	1			
		文明論 1	1後		2	○				1				
		文明論 2	2前		2	○				1				
		地域と文明	1前		2	○			1					
		地域文明論 1	1前		2	○								兼1
		地域文明論 2	1後		2	○								兼1
		地域文明論 3	1後		2	○								兼1
		比較文明論 1	1後		2	○								兼1
		比較文明論 2	1後		2	○								兼1
		科学と文明	2後		2	○			1					兼1
		現代科学論	1後		2	○			2					
		社会と文明	1後		2	○								兼2
		現代社会論	1後		2	○								兼2
		ヨーロッパ思想と文明	1前・後		2	○			1					
		ヨーロッパ思想	1前・後		2	○			1					
		日本思想と文明	2前・後		2	○								兼1
		日本思想	2前・後		2	○								兼1
		アジア思想と文明	2前		2	○								兼1
		アジア思想	2前		2	○								兼1
		現代思想と文明	3後		2	○								兼1
		現代思想	3後		2	○								兼1
		環境と文明	2前		2	○								兼1
		現代環境論	3前		2	○								兼1
		現代宗教と文明	1後		2	○					1			
		現代宗教論	3後		2	○					1			
		都市空間と文明	1前		2	○								兼1
		都市空間論	2前		2	○								兼1
		ジェンダーと文明	2後		2	○								兼1
		ジェンダー論	2後		2	○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 文学学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	文明基礎科	芸術と文明	2前		2		○							兼1
		芸術文化論	1前		2		○							兼1
		民俗と文明	1後		2		○							兼2
		民俗文化論	3後		2		○							兼2
		小計（33科目）	—	2	64	0	—			5	2	1	0	0 兼13
	文学発展	文明論の諸相	2後		2		○			1				
		文明論の展開	2後		2		○			1				
		地域文明論の諸相	3後		2		○		1					
		地域文明論の展開	3後		2		○		1					
		比較文明論の諸相	2前		2		○							兼1
		比較文明論の展開	2前		2		○							兼1
		現代科学論の諸相	2前		2		○		1					
		現代科学論の展開	3前		2		○		1					
		現代社会論の諸相	2前		2		○							兼1
		現代社会論の展開	2前		2		○							兼1
		文明学文献研究	3前		2			○	2	1				
		ヨーロッパ思想の諸相	2前		2		○		1					
		ヨーロッパ思想の展開	2前		2		○		1					
		日本思想の諸相	3前		2		○							兼1
		日本思想の展開	3前		2		○							兼1
		アジア思想の諸相	2後		2		○							兼1
		アジア思想の展開	2後		2		○							兼1
		現代思想の諸相	2前		2		○							兼1
		現代思想の展開	2前		2		○							兼1
		現代環境論の諸相	2後		2		○							兼1
		現代環境論の展開	3後		2		○							兼1
		現代宗教論の諸相	3前		2		○				1			
		現代宗教論の展開	3前		2		○				1			
		都市空間論の諸相	3前		2		○			1				

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 文学学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	文明発展	都市空間論の展開	3後	2		○				1				
		ジェンダー論の諸相	3前	2		○								兼1
		ジェンダー論の展開	3前	2		○								兼1
		芸術文化論の諸相	2後	2		○								兼1
		芸術文化論の展開	2後	2		○								兼1
		民俗文化論の諸相	2前	2		○								兼1
		民俗文化論の展開	2前	2		○								兼1
		小計（31科目）	—	0	62	0	—		5	2	1	0	0	兼9
	卒業論文	文明学セミナー 1	3前	2			○		5	2	1	0	0	
		文明学セミナー 2	3後	2			○		2	1				
		卒業論文 1	4前	4			○		5	2	1			
		卒業論文 2	4後	4			○		5	2	1			
		小計（4科目）	—	12	0	0	—		5	2	1	0	0	
	学部教養科目	ことばの世界	1前	2	○									兼9
		知のフロンティア	1前	2	○									兼2
		基礎情報処理 1	1前	2	○									兼5
		文章表現法	1後	2	○									兼3
		古文基礎	1前	2	○									兼1
		アラビア語入門 1	1後	2				○						兼1
		トルコ語入門 1	1後	2				○						兼1
		ヒンディー語入門 1	1後	2				○						兼1
		ペルシア語入門 1	1後	2				○						兼1
		ギリシア語入門 1	1前	1				○						兼1
		ギリシア語入門 2	1後	1				○						兼1
		ラテン語入門 1	1前	1				○						兼1
		ラテン語入門 2	1後	1				○						兼1
		東欧諸語	1前	2				○						兼2
		小計（14科目）	—	0	24	0	—		0	0	0	0	0	兼11

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 文学学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	資格・教養	東洋史概説	1前		4		○							兼1
	日本史概説	1前		4		○								兼1
	西洋史概説	1前		4		○								兼1
	人文地理学概論	1後		4		○				1				
	哲学概論	1前		4		○			1					
	宗教学概論	1前		4		○					1			
	小計（6科目）	—	0	24	0	—			1	1	1	0	0	兼3
	教職科目	自然地理学概論	1前		4		○							兼1
	地誌	1前		4		○								兼1
	法学概論	1前		4		○								兼1
	政治学原論	1前		4		○								兼1
	国際政治学	1後		4		○								兼1
	社会学概論	1前		2		○								兼1
	経済学概論	1前		4		○								兼1
	国際経済学	1前		4		○								兼1
	国際法	1前		4		○								兼1
	社会科・公民科教育法 1	3前		2		○								兼1
	社会科・公民科教育法 2	3後		2		○								兼1
	社会科教材論	3前		2		○								兼2
	社会科教育実践論	3後		2		○								兼1
	小計（13科目）	—	0	42	0	—			0	0	0	0	0	兼11
合計（115科目）		—	36	216	0	—			5	2	1	0	0	兼14

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部 文明学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（文学）		学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐ 科目区分Ⅰ 現代文明論（必修科目） <u>2単位修得</u> ☐ 科目区分Ⅱ 現代教養科目（必修科目） <u>12単位修得</u> ☐ 科目区分Ⅲ 英語科目（必修科目） <u>8単位修得</u> ☐ 科目区分Ⅳ 主専攻科目 <u>72単位修得</u> （必修科目） 14単位修得 （選択科目） 58単位修得 ☐ 科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 <u>30単位修得</u> <u>合計124単位修得</u>						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			1 4 週					
						1 時限の授業時間			1 0 0 分					

授 業 科 目 の 概 要			
（人文学部 人文学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 現代文明論	現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。	
II 現代教養科目	基礎教養科目 入門ゼミナールA	本授業は1年次生を対象とした全学共通のゼミナール形式の初年次教育科目である。「大学での学び方」を学ぶことを目的とし、4年間の計画的な学習スケジュールを構築しつつ、ノートの手取り方や情報収集の方法、情報リテラシー、図書館の利用方法といった、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識をまずは養っていく。さらに特定のテーマについて個人の関心に応じた調査・発表といった演習を通じ、学生個別の学問的関心を喚起させ、自分自身が持つ興味や関心を正しく探求し表現していく方法を学ぶ。	
	入門ゼミナールB	本授業は1年次生を対象とした全学共通のゼミナール形式の初年次教育科目である。「入門ゼミナールA」で培った個人的関心から生じた問いを、より公共的・普遍的な問いへ変換させる能力を養うことを目的とする。具体的にはクリティカルリーディング、レポートのまとめ方の学び、グループ演習・発表を通じて、「スキルの向上」を目指すと同時に、所属学科における専門分野の基礎的知識や問題点に対しての取り組み方、倫理観などの育成を通じて、本学が育成を目指す、自ら考え、集い、挑み、成し遂げていく力を身に付けるための学び方と姿勢を醸成していく。	
	発展教養科目 シティズンシップ	現代社会においては、思想信条、宗教、人種、民族、文化、性別、国籍等の異なる様々な人々が相互に関わりながら暮らしている。背景の違いはあっても、共同体に参加する人々のことを市民（シティズン）と呼ぶ。この科目では、「シティズンシップ（市民性）」の観点から、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする。参加型授業を通じ、社会の様々な課題について話し合い、周囲と協同しつつ解決方法を考えることで、社会参加のあり方を学ぶ。	
	地域・国際理解	人は日々、ある地域で様々なひと・もの・ことに支えられながら生活している。豊かな生活を営むために、地域で仲間をつくり、議論し、協同し、基盤となる豊かな地域を持続させていく必要がある。一方、現代の地域社会はグローバル化の波にされされ、遠く離れた地域ともひと・もの・ことを介して緊密に連動するようになっている。この科目では、自らが暮らす地域社会と国際社会の現実を見つめ、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える。さらに、コミュニティにおける自らの役割を認識することを目標とする。	
	現代教養講義	現代教養とは、人々が現在の複雑化した文明社会を生きるために必要な知識である。情報技術の発展や経済活動のグローバル化など、急激な社会的変化にされされる一方、気候変動や階級格差など、様々な問題解決を迫られている。こうした現代社会の中でより良く生きるため、高度に専門化した現代の科学的知識について、その枝葉にとらわれず本質をつかみ、学ぶ必要がある。この科目は教員自身が現在取り組んでいる研究について講義する。文理融合的な幅広い視野を重視しつつ、現代の新たな研究知見を学び、幅広い知識と視野を養う。	
	健康スポーツ科目 健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
	生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの“おもしろさ”や“大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（人文学部 人文学科）			
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容 備考
Ⅲ 英語 科目	英語 コミュニケーション 科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。
Ⅳ 主 専 攻 科 目	人文 基礎 科目	総合人文学概論	本科目は本学科での学びの基礎となる必修科目である。まずは人文学がどのような学問であるか理解することを目的として、人文学を学ぶための導入として位置づけられる。人文学を基本として、あわせて現代に生きる私たち自身の社会を学ぶことで、人文学の重要性を認識する。哲学、考古学、人類学、心理学などの人文学の各視点、さらに社会学、経済学、政策論や国際論などの視点を加えることで、現代的な人文学の意義について学ぶ。
		専門外国語（英語）1	発展したネットワーク・インターネット社会などにより、世界中のひととの距離感が縮まっている。こうした現代社会における世界共通語としての英語を通して、多様な文化・価値・社会など人文に関する話題に関心を持ち理解することが、複雑に変化するグローバル時代に求められている。 本科目は本学科の基幹となる必修科目であり、様々な文化や価値観を理解するために、実践的なコミュニケーション能力、汎用的能力、問題解決能力を養う目的で配置している。聞く、読むなどにより得た情報を活用し、目的や聞き手を意識しながら適切な発信ができることを目指し、まずは必要な能力の基盤となる文法や語彙を学んでいく。そして、多様な視点から課題を模索し柔軟に問題を解決する能力を養う。その際、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションなどの協働活動を通して協動的に英語で対話しつつ、自らも主体的に考えグローバルコミュニティの中で自己実現できる力をつけていくことを目標とする。
		専門外国語（英語）2	発展したネットワーク・インターネット社会などにより、世界中のひととの距離感が縮まっている。こうした現代社会における世界共通語としての英語を通して、多様な文化・価値・社会など人文に関する話題に関心を持ち理解することが、複雑に変化するグローバル時代に求められている。 本科目は本学科の基幹となる必修科目であり、多様な文化・価値・社会など人文に関する話題の理解を深め、複雑に変化するグローバル時代に求められている実践的コミュニケーション能力、汎用的能力、問題解決能力、批判的思考をさらに養っていく。その際、「専門外国語（英語）1」で習得した知識や能力を汎用し、より深い主題の理解とスキル応用を目指す。具体的には様々なリーディング教材から得た情報や知識を応用し、目的や読者を意識しながら論理的に構成された文章を書く能力を身につける。またこうした能力を支えるものとして文法や語彙を学ぶ。メディア情報を公正な判断力で読み解き、グループワークなどの協働活動を通して多角的な視点を養うと共に、自分の見解や意見を文章で表現する力をつけていくことを目標とする。
		人文思想	この科目は人文学の基礎を学び、人間と文化への理解を深めることを目的とする。哲学は、すべての人間に関わる普遍的な問題を、だれもが共有できる形で問い直す営みである。その意味で、哲学はすべての学びの根幹であると言うこともできる。この授業では、古代のギリシャ以来の、もともと基本的な哲学の問題と考え方を学び、自然科学や宗教の考え方も比較しながら、思想家たちの思索の跡をたどりながら、現代に通じる人間の生き方を考察する。
		ことばと論理	この科目は人文学の基礎を学び、人間と文化への理解を深めることを目的とする。人間／社会をめぐる知識（人文知）は、主にことばを通して表現され、理解される必要がある。現代社会では、とりわけ論理的なことばを通して人間／社会を理解し、それによって得られた知識に基づいて自ら考え、その自らの考えを他者に伝達する力が求められている。この授業では、ことばを論理的に読み解き、考え、伝えるために欠かせない論理の基礎を学ぶ。
		人間と環境	この科目は人文学の基礎を学び、人間と文化への理解を深めることを目的とする。この授業では、「人と自然にやさしく、安心安全な社会の創造」とは何か、「幅広い視野を持ち環境問題を考える」とはどういうことか、に焦点を当てる。人文的な環境のとらえ方について、実例を紹介しながら、学生の学習意欲の向上と学習に対する動機付けを目的として、地球環境と共生する環境マインドの育成を行う。

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部 人文学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	人文 基 礎 科 目	考古学	この科目は人文学の基礎を学び、人間と文化への理解を深めることを目的とする。考古学は人類が残した物質文化の研究を通じて、人類の活動とその変転を研究する学問である。近年は、文化遺産として考古資料の利活用が促進されており、過去を学ぶ学問としてだけでなく、現代社会における文化資源としても注目されている。この授業では、社会や文化の形成過程を学び、さらに現代社会における文化遺産としての考古資料の可能性を探る。	
		人類学	この科目は人文学の基礎を学び、人間と文化への理解を深めることを目的とする。人類学は生物としてのヒトを総合的に研究する学問であり、その方法論や研究のあゆみ、形質や遺伝情報などを含む多様な研究トピックを通じて、人類学の基本用語や考え方を習得し、人類学の基礎的な素養を身につける。また、人類学的視点から過去を学び、「人間性とは何か」を考えることで、現代社会に生きる人間像を捉えなおし、将来を見通す力を養う。	
	人文 発 展 科 目	駿河湾学	この科目は本学科の基幹科目となる必修科目であり、人文学を発展的に学び、文理融合型科目として、文系、理系両面からの海洋学習を行う。加えて、キャンパスが存在する静岡県と駿河湾を実例としてローカルな視点の育成を行うことも目的としている。駿河湾は、陸域から深海までの距離が短く、複雑な海洋環境、海水循環や深海魚などの多様な生物体系を持つ。さらに、港湾都市、漁村、マリレジャー施設など多角的な沿岸利用が進められ、深海底の開発も期待されている。陸域から流出する栄養塩とプランクトン、ひいては海洋生物の関係など、駿河湾をテーマとして、海洋に関する各分野の知見を学ぶとともに、海と人類との共生を考え、ローカルな視点からグローバルな視点への連続性を体感し自ら考えていくことを目的とした複眼的かつ総合的な海洋学習の基礎となる科目である。	
		グローバル時代の人間学	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。国際化が進む現代社会で、人文学の基礎となる価値観の形成、多様性の理解が重要となるなか、グローバルに通じる”人文の知”の習得を目標とする。この授業では、「AI時代の人間学」と相乗的に、人文の知とは何かを考え、グローバル社会が直面する課題に、人文学の知識・素養が果たす役割を考える。また、人文の知を構成する哲学、宗教学、社会学、社会学、人類学、人類学、歴史学の学術領域からなる事例を参考に、グローバル化とリージョナル化の時代に重要な人間像を求める。	
		文化と現代メディア	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。現代社会では、新聞・テレビ・出版物に加えインターネットが急速に発展し、こうしたメディアが我々の生活の隅々まで浸透している。この授業では、文化が短編小説、漫画、オンライン記事、YouTubeなどの現代メディアにおいてどのように描かれ、また我々がどのようにそうしたメディアに対応し参加しているのかについて考察する。	
		自然環境との共生	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。人間は自然環境に働きかけ、自然資源を利用することで文明社会を構築し維持してきた。その過程で、人間の諸活動による大気や水質の汚染、生態系の破壊、生物の絶滅、資源の枯渇など、さまざまな問題が発生している。これらの問題を解決するためには、どのような取り組みが必要であろうか。この授業では、沿岸域の利用と管理を中心に、自然環境を保全しながら将来にわたって共生してゆくための具体的な方策を考える。	
		多文化の共生	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。グローバル化の進展に伴い多文化化の進む日本では、一方で偏狭な排外主義にさらされている。異文化間交流で生じる障壁を分析し、マイノリティや文化的背景の異なる人々と相互の理解に立った上で共生が模索されなければならない。本科目では、異文化についての記述である「民族誌」に着目し、その読み解きと作成方法の理解に基づき多文化共生の在り方を学ぶことが目的である。	
		食と環境	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。今日、食を取り巻く環境は非常に広範かつ複雑化している。食糧問題は地球規模の問題でもあり、私たち個々人の問題でもある。これらの問題を解き明かすためには、第一に自然環境と人間社会の相互の関わり合いについての理解を欠くことができない。本科目では環境社会学の視点に立ち、食をめぐる問題を自らの問題として明らかにすることができる力を身につけることが目的である。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部 人文学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	人 文 発 展 科 目	生き物文化誌	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。人間は、今日に至るまで、動植物を衣食住の資源として利用するなどの密接な関係をもっており、自然界において人間だけで生存することはできない。人間と生き物の関係において、資源・象徴・労働力・愛玩としての動物利用は世界各地で多様な文化を生み出し、植物へ視野を広げると自然環境を維持する役割も有している。 このような人間と生き物の多様な関係によって生じた文化的な記録や伝承を「文化誌」として捉え、人間の知性、技術力、精神性を学ぶことで、自然のなかに生きる未来の人間像を探っていく科目である。	
		食文化論	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。食文化とは、食に関するすべての文化を包括する概念である。食文化には、食材、調理法、食器、マナー、嗜好と栄養、調理道具や食べる道具と場所などのあり方が含まれる。本科目では、地域固有の「風土」と「食材」、食材を生かす「調理法」や「調味料」、これらに適した「道具」、これらが組み合わされて形成される「様式・演出・作法」の6つの分野に沿って、人文科学の視点である人間の営みや文化活動を分析して理解することを目的とする。	
		日本文化史	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。現代のグローバル化は、すでに文化交流にも発展しており、自国の文化を理解することの重要性が増している。日本文化を歴史的にみれば、列島内外から知識と技術を受容し、普及・発展させたことによって成立している。この授業では、日本文化について、文化の時代的特徴や地域性を学び、その背景にある列島内外との交渉からも考察する。	
		生と死の文化史	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。人間が生きていく上で、死に対する不安や恐怖をどのように克服するか、死をどのように受け入れるか、などの問いは、時代と地域を超えて常に人間の共通の関心事であり続け、多様な思想や文化を生み出してきた。この授業では、哲学、宗教、文学、歴史、芸術などの諸分野の、死をテーマにした資料を読み解きながら、人間の死生観を考察する。	
		地域文化論	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。私たちの暮らす地域には、それぞれの歴史や環境に基づく暮らしの姿、つまり地域文化が存在する。現代社会はグローバル化が進み、個々の地域の独自性は薄れる傾向にある一方で、地域特有の文化を再発見することで、その地域の魅力を高め、地域活性化につなげようとする試みも行われている。この授業では、地域文化の現状と課題について学び、一人一人が地域文化の担い手として、これからの地域の在り方について考察する。	
		言語と社会文化	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。言語は人間生活のあらゆる場面において重要な役割を果たしており、我々の思考に影響を与えたり、社会や文化に関わる問題と密接に結びついている。この授業では、世界言語として英語を応用言語学から考察し、英語の背景にある社会・文化的な現象や言語と人間の思考について学ぶ。グローバルな地域市民としての観点から、こうした問題を日本語の現状とも関連付けて考えていく。	
		経済学	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。経済活動には、人間の生活に必要な財貨・サービスを生産・分配・消費するすべての過程が含まれる。したがって、人間が生きていく上で、経済活動と誰しも無関係ではいられない。そして経済活動を通じて、人間は誰もが他者とつながり、物質を交換することを繰り返すことで生きていく。この科目においては、日本を念頭に置きながら、経済社会の現状・理論・歴史を学ぶ。そして未来をどう切り開くのか考察する。	
		現代ビジネスと法	この科目は人文学を発展的に学び、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。人間が社会の中で生きていく上で、生活に必要な財貨・サービスを生産・分配・消費する一連の経済活動とは無縁ではいられない。まず人は、企業に雇用され、賃金を得る。人はその賃金から、生きることに必要な財貨・サービスを企業から購入する。ただし、経済活動には、国が定めた様々なルール、法律がある。この授業では、そのような経済活動の実態と、その法について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部 人文学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	人 文 発 展 科 目	データサイエンス入門	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。データサイエンスとは、ネットワーク上に蓄積され続けている膨大な情報（ビッグデータ）を有効に活用するための研究である。ビジネス、公共事業、教育、医療など、さまざまな分野でデータサイエンスの素養が求められるようになっている。この授業では、データサイエンスへの導入として、データを正しく利用するために必要な、統計から情報を適切に読み取る力、情報を論理的に分析し解釈・判断する力を養う。	
		公共政策論	この科目は人文学を発展的に学び、新しい価値と文化の創造に取り組む力をつけることを目的とする。公共政策による活動は、その時々々の社会情勢によって捉えられ方が異なる。それは、公共という概念が万人の満足を満たすものとは限らないという実際的な問題があるためである。しかしながら、法的根拠に基づく公共政策は、社会活動には不可欠である。この授業では、公共政策の具体例を紹介しながら、実際の問題を追及することで、生活、文化、社会的に持続可能な社会づくりの取り組みについて知識を深める。	
		人間と健康	この科目は人文学を発展的に学び、新しい価値と文化の創造に取り組む力をつけることを目的とする。本科目は、人間にとっての健康とはどのようなものか理解を深めることを目標とする。かつて、健康は身体的な側面が重視されてきたが、近年では精神的な健康も重視されはじめている。社会における規範や価値観は、構成する集団の全員がそれらを共有し、それらを実行しなければならないわけではない。この授業では、人間や生き方を背景とした心的、身体的健康を考察する。これによって人間の多様性について理解を深め、健康の重要性を学ぶ。	
		日本人論	この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。人類学の観点から、日本人の起源や日本列島の歴史・文化・社会を学ぶ。文字社会の歴史時代だけでなく、文字資料がない先史の人間活動も探るために、遺跡から出土する遺物から過去を復元する方法、それによって明らかになった新知見に基づき、人類学・考古学の両方の視点から日本文化の基層を知ることで、次世代の文化や社会を創造を探索。	
IV 主 専 攻 科 目	人 文 応 用 科 目	地域マネジメント	この科目は人文学を応用し、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。人間は集団や社会を形成して以来、経済活動を通じて生きてきた。経済活動の主体は、企業である。全ての企業は、法的に人格を持ち、共通の言語を持っている。共通の言語とは会計である。そして、企業の活動の成果は、財務諸表という形で、表される。この科目では、これからの社会で必要となる知識や技術としての会計と財務諸表を読み解く力を養う。	
		インターネット社会と知的財産	この科目は人文学を応用し、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。インターネットの普及は日常生活をも飛躍的に便利にしたが、その反面として情報の氾濫とでも言うべき社会状況が生じている。この授業では、人間活動のなかでも、形象物だけに制限されず、見過ごされがちであった知的財産について学ぶ。インターネットによってグローバル化している社会において、知的財産の有効的な活用とその権利が保護されるべきものであることを理解する。	
		ローカル・フード	この科目は人文学を応用し、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。農林水産品や工芸などの地場産品を活用した「地域ブランド化」の取り組みが、各地で盛んになってきている。この授業では、観光の大きな要素を占めるローカルフードとそれを取り巻く環境を地域資源と捉え、静岡の特産食材の調理特性や食卓構成を取り上げて、静岡の気候・土壌などの自然条件や歴史・文化等の地域性、産業や地域おこしの実例について学び、地域の新たな価値を発見・創造できる知識や技術、感性を育成する。	
		観光人類学	この科目は人文学を応用し、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。観光現象は、現代社会における文化の問題を考えるにあたり重要なファクターを提示する。本授業では、グローバル化した観光開発に伴って生起する観光文化を文化創造として積極的に評価しつつ、文化の商品化、文化の客体化、文化の主体といった文化人類学的視点から地域の新たな価値を創造するための理論的枠組みを養っていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
（人文学部 人文学科）				
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容
Ⅳ 主 専 攻 科 目	人 文 応 用 科 目	地 域 マ ネ ジ メ ン ト	地域アーカイブ	この科目は人文学を応用し、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。この授業では、地域がもつ文化資源をデジタルアーカイブ化し、それらをメディアを通して社会発信していくプロセスを通して、地域社会の成員に共有していくことの意義について学ぶ。またグローバル化に伴う地域の特色を再発見し、有形・無形の文化をアーカイブしていく際の社会的課題及び技術的課題を事例研究を通して理解していく。
			海洋資源論	この科目は人文学を応用し、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。人間は水産資源、エネルギー・鉱物資源、そして遺伝子資源など多くの資源を海から享受してきた。この授業では、そうした海の恵みを末永く利用していくために必要な人間活動の管理的あり方について、具体的事例を通して学ぶ。また、各資源の特性、関係者間の合意形成、科学的知見の活用などの側面も踏まえ、海洋資源の持続可能な利用に向けた課題と解決策を検討する。
			地域観光論	この科目は人文学を応用し、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。観光は地域産業の柱であり、外国人旅行者の増加や旅行様式の変化により、多様なニーズへの対応や新たな観光の仕組みが求められている。地域特有の観光資源（シグネチャー）の表現の巧拙は「勝ち組・負け組」の地域間格差を生んでいる。この授業では国内外の事例をもとに、観光の歴史、現状の問題点、今後の課題と方向性を考察し、地域振興の担い手となる観光人材の養成を目指す。
			地域産業論	この科目は人文学を応用し、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。経済や産業が都市部に集中化するにつれ、「地域おこし」、「地域づくり」、「地域活性化」などが問われるようになった。地域を活性化するには、その地域で基盤となっている産業や経済が重要な要因となってくる。この授業では、地域産業の実態と課題を分析し、地域と産業が持続的に発展する方策を考察する。
			地域環境論	この科目は人文学を応用し、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。昨今、環境問題を生態系と社会システムの関わりの中で理解することが一般化しつつある。この授業では、自然環境と人間社会の相互作用に焦点を当て、環境の人文学や社会学的な基本アプローチについて、具体的な事例に則して学ぶ。すなわち、自然環境と人間社会に関する従来の議論を踏まえ、社会的・経済的リンクと文化的・宗教的リンクについて、自然と関わる「生業」と、部分的な関わりでの「近代的産業活動」の特質などを知り、今日的な環境問題の本質や循環型社会の在り方などについて理解を深める。
			コミュニティ創造論	この科目は人文学を応用し、地域社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。元来、密な人間関係によって成り立ってきたコミュニティであるが、近年の急激な都市化により、人のつながりが希薄化している。また、高齢化や人口流出によって、共同生活の維持が困難となっているコミュニティもある。一方で、もう少しつながりのある社会を求め、特定課題に取り組む地域集団活動が活発化している。この授業では、コミュニティが有する課題や可能性について学び、これからの社会に必要な「良い加減のつながり」あるコミュニティの在り方について検討する。
	グ ロ ー バ ル ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン		インバウンド・コミュニケーション	この科目は人文学を応用し、グローバル社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。国内における外国人旅行者そして在日外国人の数は年々増加し、もはや海外だけが異文化に触れる機会ではなくなりつつある。この授業では、多様な文化や価値観を身近な生活から学ぶとともに、異文化理解の場を考え、交流のためのイベント企画や実施方法を多角的方面から学ぶ。さらに、企画と実践を繰り返して問題解決能力を養い、英語による実践的コミュニケーション能力を養う。
			アジアの思想	この科目は人文学を応用し、グローバル社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。日本は東アジアに位置し、中国・朝鮮半島など周辺諸地域と古くから深いつながりを有し、思想についても大きな影響を受けてきた。これは中国・朝鮮半島の思想を受けているということに止まらず、仏教などさらに広い地域のアジアの思想についても主に（古典）中国語の典籍（漢籍）を通して受容してきたということである。この授業では、漢籍を核にしてアジア地域に広がる思想文化について考察する。

授 業 科 目 の 概 要					
(人文学部 人文学科)					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅳ 主 専 攻 科 目	人 文 応 用 科 目	グ ロ ー バ ル ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	クリティカル・シンキング	この科目は人文学を応用し、グローバル社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。21世紀の社会に対応していくためには受動的な知識の習得だけでなく、健全な批判的思考力を養うことが重要となる。なぜならば、現代の急激な社会変化には、グローバルまた地域コミュニティにおいて主体的に物事を捉え、判断しそして行動できる能力が必要とされるからである。変化にはイノベーションが、また批判的思考には分析や理解が必要である。この授業では世界を変えるような事柄を取り挙げ、個人レベルまたより広い見地から我々の姿勢について分析し、自立と主体性に基づいた社会市民について追及する。	
			世界の文化とグローバリズム	この科目は人文学を応用し、グローバル社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。異なる言語や文化の理解には、多様な価値観を持った人間の存在や考え方を認識し、その違いや類似性を尊重する視野と姿勢が重要である。同時に、自らがグローバルな相互依存社会の中で主体的に考え判断できる能力も大切となる。この授業では、異文化理解を言語と文化の側面から追求し、現代社会に存在する多様な価値観について学ぶ。またグローバル社会の中で主体的に取り組むことで柔軟に問題を解決するための実践的能力を養成する。	
			メディアリテラシー	この科目は人文学を応用し、グローバル社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。現代社会には、インターネットやテレビ、新聞・雑誌などによる膨大なメディア情報が溢れている。このようなメディア情報は、必ずしも正しい情報であるとはかぎらない。そこで、こうしたメディアの機能を理解する能力や、情報の正確さを見極める力、そして必要に応じて主体的にメディアを活用する能力が必要になる。この授業では、メディアを分析し誤った情報を認識する方法を習得する。	
			生活様式論	この科目は人文学を応用し、グローバル社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。ある社会や集団の人々が共有する生活の仕方を生活様式という。世界の諸地域に特徴的な生活様式は、それぞれの地域の自然環境と密接に関係し、歴史の流れの中で、技術の進歩や文化交流の影響を受けながら形作られてきた。生活様式はまた、社会制度や宗教によっても規定され、時代とともに変化する。この授業では、人文学の視点から衣食住を基本とする生活様式を考察し、現代社会におけるグローバル化とローカル化のあり方を検討する。	
			情報発信とソーシャルメディア	この科目は人文学を応用し、グローバル社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。本科目は、グループワークなどの協働活動を通して、様々な情報に関する見解を交換し、多角的な視点を養うとともに、ソーシャルメディアを利用して自分の意見を表現することを目指す。そのために、この授業では、メディア情報を公正に判断する力、読解能力、言語の運用能力を養うとともに、発信の方法を学び、個々がSNSやスカイプ、YouTube等を適正に活用できる力をつける。また、インタラクティブなやりとりの中から更なるアイディアや価値を生むことを目指す。	
			国際海洋論	この科目は人文学を応用し、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。海洋を持続的かつ平和裏に利用するには国際社会における協力が不可欠であるが、多様な価値観や規範が併存し、経済利益が競合するなかで、効果的な取組は容易ではない。この授業では、海洋をめぐる多国間の協力、対立や競合の具体的事例を取り上げ、歴史的経緯、制度構築やアクターの行動に着目して学ぶ。そのうえで、国際社会が人間と自然の共存という地球規模の課題にいかに対処しうるかを検討する。	
			国際研修	この科目は人文学を応用し、グローバル社会の諸問題に取り組む力をつけることを目的とする。本科目は、自己の体験を通じて、国際社会における人間、文化、社会の多様性について理解を深めることを目標とする。グローバル化社会では、様々な人間的・文化的交流が行われ、国際的な視点で人間や文化を見る力が必要となっている。国内外における研修において、国際的な視点から、多様な人間的・文化的交流を体験し、その場に応じたコミュニケーション能力は何かを考え、実行する。また、研修を通じて、国際社会における自己の立ち場を認識し、国際社会に生きる人間の将来像を見通す力を養う。	
			クリエイティヴ・カルチャー	この科目は人文学を応用し、新しい価値と文化の創造に取り組む力をつけることを目的とする。現代社会では、ことばによる情報を適切に理解し、また自ら発信する力が求められている。すなわち、ことばを通して「人と社会を知り」、それによって得られた知識に基づいて「自ら考え」、その自らの考えを他者に伝達する力が求められているのである。この授業においては、社会、文化、自然など、さまざまな分野の文章を取り上げて、的確に読み取る力、簡潔にまとめる力、そうして理解したことを自分の考えによる判断を加えた上で自分のことばで伝える力を養う。	
			言語表現論		

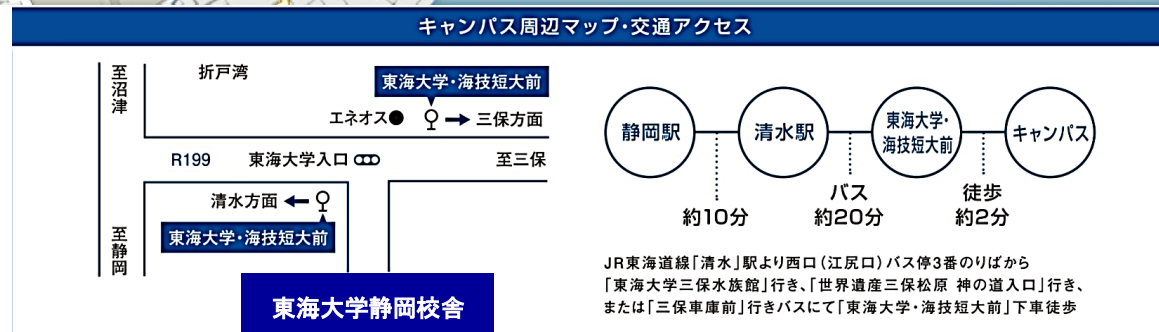
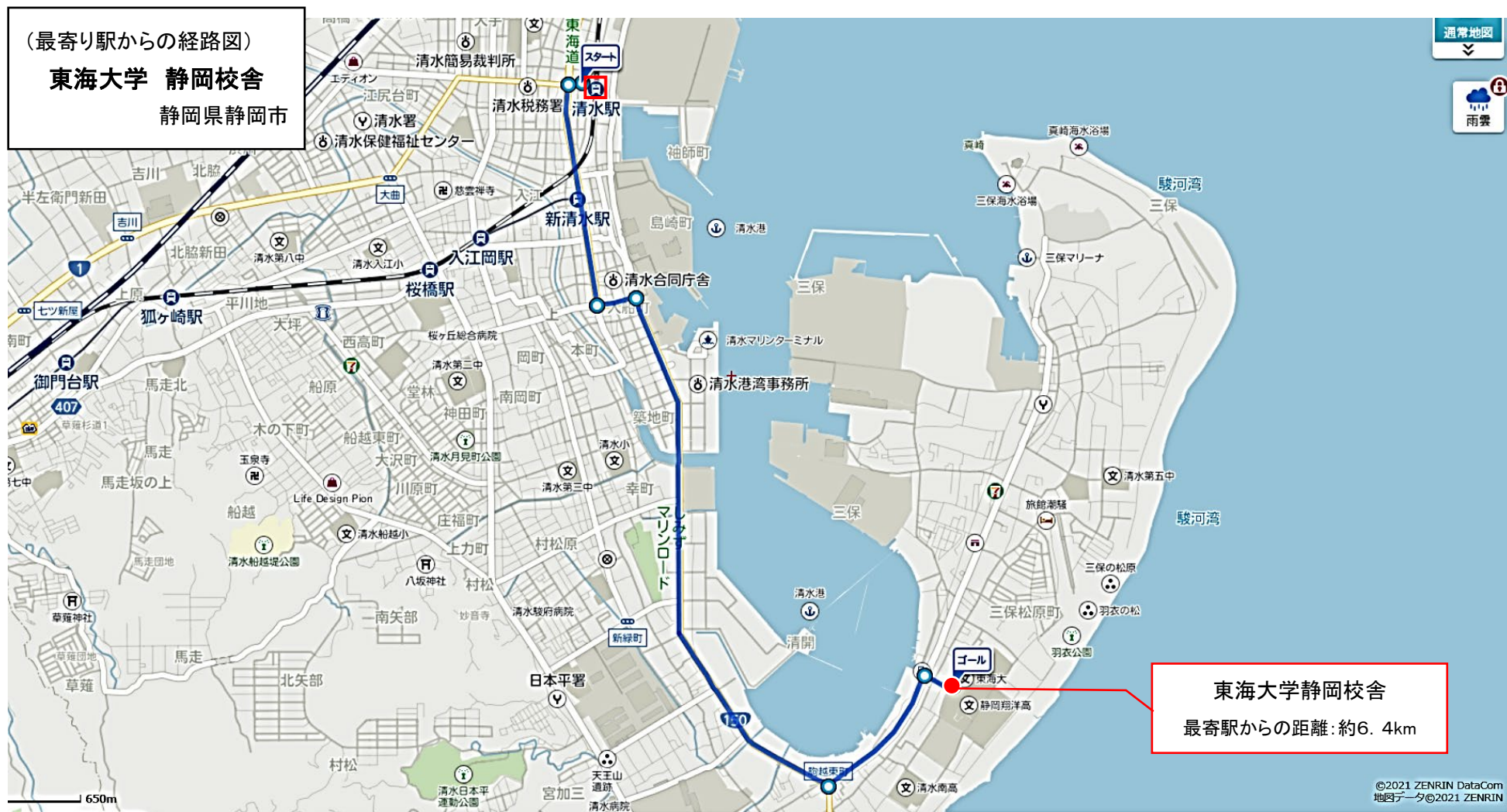
授 業 科 目 の 概 要			
（人文学部 人文学科）			
科目区分			授業科目の名称
講義等の内容			備考
IV 主 専 攻 科 目	人 文 応 用 科 目	ク リ エ イ テ イ ヴ ・ カ ル チ ャ ー	身体論
			この科目は人文学を応用し、新しい価値と文化の創造に取り組む力をつけることを目的とする。身体を用いた非言語表現には、身振り手振りによる日常的なボディランゲージから、演劇や舞踏などの芸術表現にいたるまで、さまざまなものがある。この授業では、円滑なコミュニケーションや人間関係作りのための非言語表現について、言語と非言語の関連性や相互作用を踏まえて、場面や役割に応じて自らの身体をコントロールするための知識や技能を学び、さらにそれを自身の日常生活にフィードバックできることを学習の狙いとする。
			ミュージアム論
			この科目は人文学を応用し、新しい価値と文化の創造に取り組む力をつけることを目的とする。ミュージアム（museum）は、学術研究の場であると同時に、展示によって研究の成果を社会に広く還元する社会教育の場でもある。さらに、特色ある文化施設として、観光や地域振興の拠点の役割も担っている。この授業では、多様な関心をもつさまざまな世代の人々のニーズに応える魅力的な施設としてのミュージアムの可能性を探索する。
			海洋考古学
			この科目は人文学を応用し、新しい価値と文化の創造に取り組む力をつけることを目的とする。この授業では、考古学、歴史学、人類学の素養を深めるために、島嶼、沿岸、海洋の視点を学習に取り込み、発展的に理解することを目指す。海域、沿岸・島嶼域における人類の拡散や定住、海洋水産資源の利用と生業、船舶による海上輸送や海戦などの事例を俯瞰する。陸域のみならず、沿岸・海域に関わる資料をみることで、現在に至る社会・文化形成に、これら環境・資源の利用・活用が大きく影響してきたことへの考察を行う。
			ウェルネスとセラピー文化
			この科目は人文学を応用し、新しい価値と文化の創造に取り組む力をつけることを目的とする。食、運動、入浴など生活科学をもとに健康的に暮らす概念（ウェルネス）、薬や手術を用いない心理・物理療法（セラピー）への関心が高まっている。医療・保健から美容・飲食・観光など様々なビジネスと連携する一大産業である一方、科学的根拠に乏しいものも多く未成熟な分野でもある。この授業では国内外の事例をもとに、ウェルネスとセラピー文化を考察し、成長市場と見なされるこの分野の人材養成を目指す。
			フードコーディネート
			この科目は人文学を応用し、新しい価値と文化の創造に取り組む力をつけることを目的とする。食事は、生きていく上で必要な栄養を摂取するために必要なだけでなく、豊かで幸福な生活を創出するために重要な役割をもっている。したがって、フードビジネスにおける商品開発や企画運営には、栄養や安全、流通やサービス、流行やデザインなどのさまざまな分野の知識と情報をバランスよく活用できるコーディネートの力が求められる。この授業では、フードコーディネートの視点から、文理融合的な発想力・創造力を養う。
			映像表現論
			この科目は人文学を発展的に学び、現実の生活や社会の中で考察する力をつけることを目的とする。カメラ機能や画像処理機能が充実したスマートフォンの普及によって、映像の利用はますます日常的になっている。写真や動画などの映像は、娯楽や報道、広告だけでなく、フィールドワークにおける情報の記録、資料の収集・整理・分析、研究成果の発表や情報発信、作品や教材の作製などに、幅広く活用できる。この授業では、映像という表現手段を効果的に利用するために必要な知識や技法を学ぶ。
			エンターテインメント産業論
			この科目は人文学を応用し、新しい価値と文化の創造に取り組む力をつけることを目的とする。人間は様々な創造的な活動を行い、それを鑑賞する人々に満足を与える。しかし、創造的な活動を行う主体が、その活動によって生きていくことが、持続的に可能とするには、何らかの形で、創造的な活動を行う主体に、経済的な対価が与えられる構造が構築されなければならない。この科目では産業（ビジネス）としてのエンターテインメントを考える。
			神話と美術
			この科目は人文学を応用し、新しい価値と文化の創造に取り組む力をつけることを目的とする。人間は昔から、世界の成り立ちや社会の仕組みを神話によって説明してきた。世界各地の諸民族は、それぞれ固有の神話をもっており、神話に登場する神々の姿は、絵画や彫像として表現されたが、その姿形は、それが作られた時代と地域の文化や思想を反映している。この授業では、神像の表現と伝播に注目して、異文化の交流とそれがもたらす新しい文化の創造の過程を学ぶ。

授 業 科 目 の 概 要			
（人文学部 人文学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	フィールドワーク演習A	本科目は、人文学研究におけるフィールドワークの総合的な入門科目として位置づけられる。演習科目として方法論を学ぶだけでなく、体験的にフィールド調査を行うことで知識の定着を促していく。最終年度の卒業研究が充実したものになるように、担当教員とともに実際にフィールドを訪れ、観察する目を養い、文字・音声・画像などの記録手法について学び、フィールドワークの成果をまとめることができ、その意味を理解する力を身につける。	
	フィールドワーク演習B	本科目は、人文学研究における「地域マネジメント」に関連するフィールドワーク科目であり、静岡市・静岡県等地方自治体の都市づくりや地元産業界の動向と連携に加え、直接参画し実施する「プロジェクト・ベースド・ラーニング」を通じて、実社会で生じている問題の多分野を跨る横断性や複雑さを体感し、大学において修得した知識をむずび付け新たな可能性を探っていく発想力や実践力を育成していくことを目的としている。人文学的な視点から経済や産業などの側面について調査する方法を修得していくことを目指し、最終年度の卒業研究を見据えて、地域が抱える現在の問題、潜在的な資源活用の発見などを体験し、地域社会の持続可能性について展望する力を養っていく。	
	フィールドワーク演習C	本科目は、人文学研究における「グローバル・コミュニケーション」に関連するフィールドワーク科目であり、静岡市・静岡県等地方自治体の都市づくりや地元産業界の動向と連携に加え、直接参画し実施する「プロジェクト・ベースド・ラーニング」を通じて、実社会で生じている問題の多分野を跨る横断性や複雑さを体感し、大学において修得した知識をむずび付け新たな可能性を探っていく発想力や実践力を育成していくことを目的としている。グローバル化が著しく進展する社会のなかで、文化や思想に関するビッグデータが示す本質的な意味、メディアやネットワークが有する本来的な意義について理解を深める方法の修得していくことを目的とし、最終年度の卒業研究を見据えて、実際の社会から得られる情報を整理し、それらの意味を理解し、自らが発信する力を養っていく。	
	フィールドワーク演習D	本科目は、人文学研究における「クリエイティブ・カルチャー」に関連するフィールドワーク科目であり、静岡市・静岡県等地方自治体の都市づくりや地元産業界の動向と連携に加え、直接参画し実施する「プロジェクト・ベースド・ラーニング」を通じて、実社会で生じている問題の多分野を跨る横断性や複雑さを体感し、大学において修得した知識をむずび付け新たな可能性を探っていく発想力や実践力を育成していくことを目的としている。人間の本質を考える手段として、文化がもつ多様な側面について理解する方法の修得を目標とし、最終年度の卒業研究を見据えて、人間や物の観察によって文化の特徴を見出し、未来を見据えた価値創造ができる力を養っていく。	
ゼミ ナ ー ル 科 目	基礎ゼミナール1	本科目は、専門分野の研究への導入となる必修科目である。人文学科の専任教員によって担当され、本学科での学修への取り組み方のアドバイスや卒業研究に向けた入門的意味合いをもち、研究の基礎を修得していくことを目標とする。外国語の基礎文献の講読、データの収集と分析、フィールドワークの基礎、研究倫理など、具体例を含めて講義とグループワークを行い、研究をすすめていくうえで必要不可欠となる事項についての初歩的なトレーニングを行っていく。	
	基礎ゼミナール2	本科目は、「基礎ゼミナール1」に続いて開設される必修科目である。人文学科の専任教員によって担当され、学科での学修の深化や、卒業研究に向けた問題意識の醸成を行うことを目指し、幅広い視点、問題意識を持つ大切さ、問題解決のための発想力などについて、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション、短期のフィールドワークなどを通じて、自らが考え、集い、挑み、成し遂げていく過程を体験し、研究を行うための方向性、方法、必要な知識や力の基礎を体感しながら修得していく。	
	ゼミナール1	本科目は、卒業研究に向けた演習として、3年次前期に履修する必修科目である。この授業の目的は、卒業研究を進めていくに十分な学問的基礎知識と方法を得得するだけでなく、今まで修得してきた知識や考え方、実践力などについての役立て方などを、グループワークなどを通じて共有し、自分のものとして確立していくことにある。本科目は、学科教員全員によって担当されるので、そのうち一つのクラスを選択し、自身が望む卒業研究のテーマを探りながら、希望や関心に沿って指導教員の指導を仰ぎながら、個別の研究分野の特性と必要とされる研究方法を理解することが求められる。	
	ゼミナール2	本科目は、卒業研究に向けた演習として、3年次後期に履修する必修科目である。「ゼミナール1」に継続して履修していく。したがって、この授業の目的は、卒業研究を進めていくに十分な学問的基礎知識と方法を得得することに加え、現代社会の問題点や将来への展望、課題等を整理しながら、卒業研究の取り組み方を定めていくことにある。本科目は、学科教員全員によって担当されるので、そのうち一つのクラスを選択し、自身が望む卒業研究のテーマに沿って指導教員の指導とグループワークによる発表や意見交換、ディベートを重ねながら、卒業研究を行うために必要な知識と自ら成し遂げようとする姿勢について、基礎固めを行っていく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文学部 人文学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	ゼ ミ ナ ー ル 科 目	卒業研究 1	本科目は、人文学科における学修の集大成である卒業研究を完成させるための事前指導の役割をもつ必修科目である。4年間の学びの集大成として、様々な分野にまたがる問題や課題について自らが定めたテーマに基づき、学生自身がグローバルな視点をもって「人間とは何か」を自ら考え、実践し、社会貢献できる力を身に付けていく。ゼミナールの担当には学科教員があたり、各自が進めてきた研究を、学科教員の指導のもとに実際の論文に仕上げることを目的としている。本科目では、「ゼミナール1・2」を受講する中で選んだテーマについてさらに自主的に研究を進めていきながら、文献の読解、調査とデータ収集の方法、収集したデータの整理・分析の方法、及び研究成果の発表の方法について指導していく。	
		卒業研究 2	本科目は、「ゼミナール1・2」「卒業研究1」と連動しており、大学4年間の学修の集大成を行うための科目として位置付けられる必修科目である。前段階のゼミナール・卒業研究1において調査・収集・整理した文献、フィールドワークの結果等を活用しながら、卒業研究のテーマに従った更なる調査と分析・考察をおこなう。一連の研究のプロセスを経験する事により、社会で起きている問題や課題の複雑さや課題解決の難しさを経験し、実社会に出てから遭遇する様々な社会的課題の解決方法や新しいアイデア、思考方法や多分野を跨りマネジメントしていく力と姿勢を身に付けることを目標としている。具体的テーマは、ゼミナールの履修を通して学生各自が設定し、指導教員のアドバイスを受けながら研究活動を行う。	
		特別研究	本科目は、大学院への進学を目指す学生等、「卒業研究2」に加えて、卒業論文の質的向上や、よりハイレベルな研究活動を行う学生向けの選択科目である。受講生は、「卒業研究2」と同時に履修することで、卒業論文を経験的なものに留めず、実質的、実践的な研究として意義あるものにすることを目指す。また、論文執筆にあたっての作文術だけでなく、プレゼンテーションの技術的側面も指導することにより、社会人としての作文、プレゼンテーション能力を養う。	

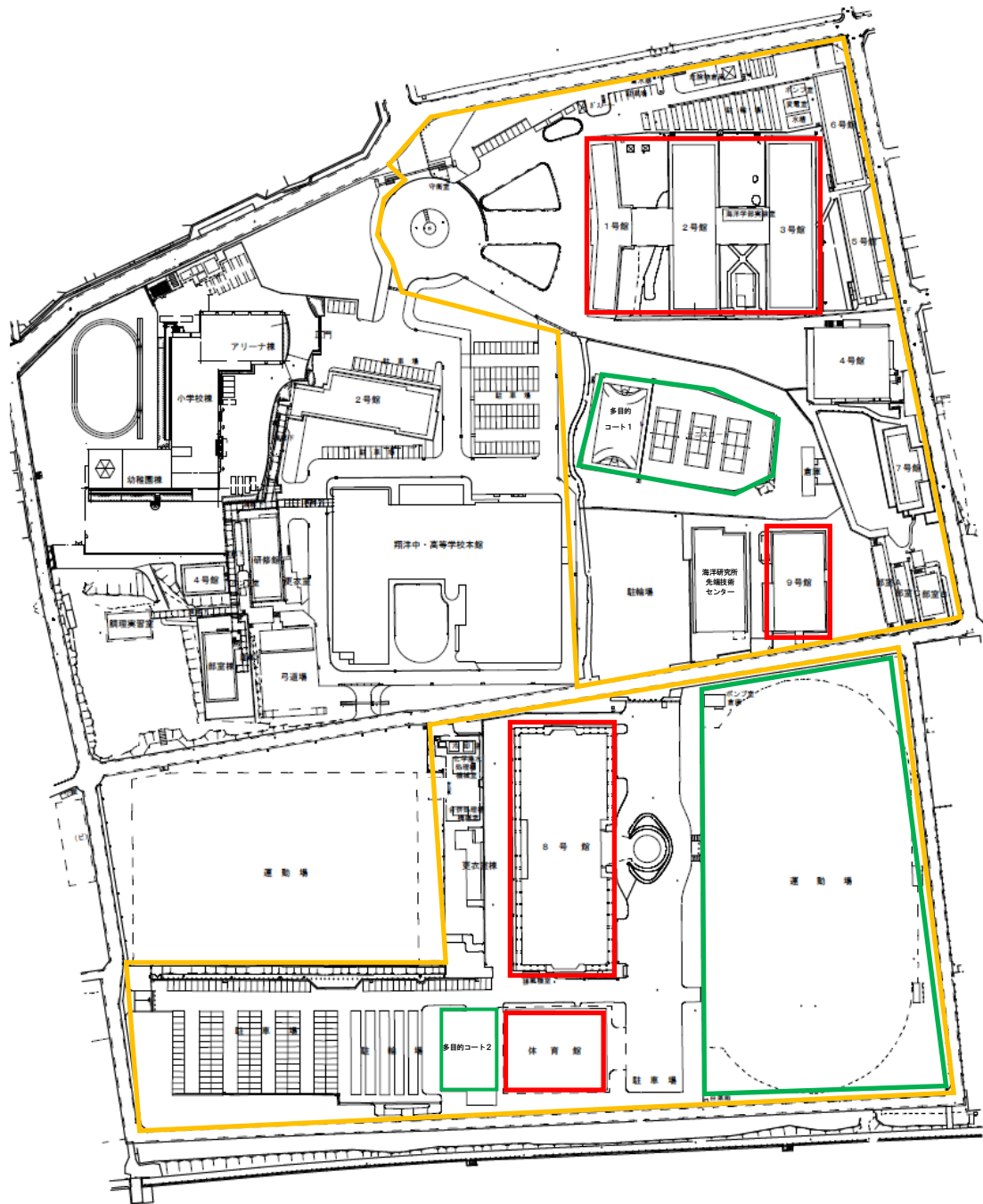


図面一1



図面-2

静岡校舎配置図



校地等敷地(校地面積) 運動場敷地(校地面積) その他(校地面積外) 人文学部が使用する校舎

静岡校舎 校地・校舎面積

校地等	区 分	専 用	共 用	共有する他の学 校の専用	計	
	校舎敷地	129,060.16 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	129,060.16 m ²	内借地 2,467.00 m ²
	運動場用地	69,887.45 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	69,887.45 m ²	内借地 29,696.63 m ²
	小計	198,947.61 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	198,947.61 m ²	
	その他	7,234.00 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	7,234.00 m ²	内借地 2,357.00 m ²
校舎	合計	20,6181.61 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	20,6181.61 m ²	借用期間：6年
		専 用	共 用	共有する他の学 校の専用	計	
		54,503.64 m ² (54,503.64 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	54,503.64 m ² (54,503.64 m ²)	

図面－3

設置の趣旨等を記載した書類
人文学部人文学科

【本文目次】

- 1 設置の趣旨及び必要性…p. 2
- 2 学部・学科等の特色…p. 5
- 3 学部・学科等の名称及び学位の名称…p. 5
- 4 教育課程の編成の考え方及び特色…p. 6
- 5 教育方法，履修指導方法及び卒業要件…p. 9
- 6 入学者選抜の概要…p. 14
- 7 教員組織の編成の考え方及び特色…p. 15
- 8 施設・設備等の整備計画…p. 17
- 9 管理運営…p. 19
- 10 自己点検・評価…p. 19
- 11 情報の公表…p. 20
- 12 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等…p. 24
- 13 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制…p. 25

1 設置の趣旨及び必要性

1. 東海大学の2022年度改組改編

東海大学では、建学80周年にあたる2022年4月に全学的な改組改編を行う。その目的は、来るべき社会の変化に対応し、地球市民として未来を創造していく人材育成を推進すること、そして、建学以来継承してきた文理融合の理念と一貫教育を基軸とした教育・研究活動をより一層進化・推進し、学生が幅広い知識を養い、深い理解力をもって社会に貢献することである。改組改編の概要としては、学部学科の再編により、全国5キャンパス8校舎23学部62学科・専攻体制とする。学部学科の新設状況は次のとおりである。

①湘南キャンパス

湘南キャンパスにおいては、理工系から情報系、社会・人文科学、体育スポーツまで、文理融合型総合大学ならではの多様な学部構成を活かし、受験生の多様なニーズに応えられるよう、既設の学科・課程を統合してシナジー効果を引き出すための集約型学部構成を目指し、湘南校舎（神奈川県平塚市）に次の学部学科を新設する。

児童教育学部（児童教育学科）を新設する。

情報理工学部（情報メディア学科）を新設する。

建築都市学部（建築学科、土木工学科）を新設する。

工学部に機械システム工学科、医工学科、生物工学科を新設する。

なお、児童教育学部（児童教育学科）の新設は設置認可申請中であり、工学部医工学科の教育研究は、湘南校舎及び伊勢原校舎（神奈川県伊勢原市）で行う。

②東京キャンパス

東京キャンパスにおいては、都心からほど近くに位置する利便性の高い立地を活かし、来るべき国際社会で活躍できる人材を育成するため、高輪校舎（東京都港区）に次の学部学科を新設する。

経営学部（経営学科）を新設する。

国際学部（国際学科）を新設する。

情報通信学部（情報通信学科）を新設する。

なお、これらの学部学科の教育研究は、湘南校舎及び高輪校舎で行う。

③静岡キャンパス

静岡キャンパスにおいては、海洋国家日本を支える人材を養成してきた既設の海洋学部のさらなる充実と静岡地域における人材育成に関するニーズに応えるため、静岡校舎（静岡県静岡市）に次の学部学科を新設する。

海洋学部に海洋理工学科（海洋理工学専攻、航海学専攻）を新設する。

人文学部（人文学科）を新設する。

④九州キャンパス

九州キャンパスにおいては、熊本・阿蘇の地でこれまで育んできた教育資源を継承し、

文理分断からの脱却を目指す教育を推進するとともに、農学部さらなる充実を図るため、熊本校舎（熊本県熊本市）において、文理融合学部（経営学科、地域社会学科、人間情報工学科）を新設し、臨空校舎（熊本県上益城郡）において、農学部（農学科、動物科学科、食生命科学科）を新設する。なお、農学部の教育研究は、熊本校舎及び臨空校舎で行う。

2. 人文学部設置の社会的背景・必要性、教育研究上の目的・養成する人材

1) 人文学部の設置

現代社会においては超少子高齢化、AIの進化、グローバル化などの諸問題が急激に進み、世界の情勢は大きくかつ急速に変化している。特に、2020年はCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）の世界的流行に直面し、これまでの社会のあり方や常識を見直さざるを得ない状況にある。

2022年度に新設する人文学部は、このような現代社会の要請に最大限に応えるべく構想されたものである。

人文学は、多様な人間のありようを「意味」や「価値」といった側面から探求し、現代社会に生起する諸々の課題に対して根源的な人間性への問いかけから未来社会を見据えた回答を導きだそうとする実践的な実学である。新しい価値観や複雑化する条件により「人とは何か」を見直して社会に還元していくために、人文学の教育研究はより一層重要になってきている。

人文学部は、「人類の幸福と恒久平和の実現を目指した精神文明と物質文明の融合による総合文明社会の構築」という東海大学の理念に基づき、転換期に直面している現代社会において、根源的な人間性への問いかけに対して隣接する分野を超え包括的に接近しながら幅広く基礎知識を修得し、地元静岡から国内、世界へとフィールドワークやゼミナール科目などの実践的な学びを通じて広げ、「人間のありようを、未来社会を見据えて再構築していくために必要となる」課題発見・問題解決の能力を養うことを目的として、教育研究体制として刷新していくことを趣旨としている。

そこで人文学部では、多岐にわたる人文系学問分野を繋ぎ、様々な課題に立ち向かい魅力ある未来を創出する人材育成を目指し、人文学分野に隣接する社会科学等の諸学を含めて実践的な実学たる「人間の学」(Humanities)として統合することから、学部名称を「人文学部」とし、現在生じている、またこれから生じるであろう社会変化に対応できる柔軟性を持つ人材を育成していく。いわば、人文学部はリベラルアーツ型の全く新しい学部である。

なお、本学の湘南校舎（神奈川県平塚市）に既設の文学部があるが、これまで述べてきた趣旨により、静岡校舎（静岡県静岡市）に人文学部が新たに設置される。文学部は、人文学の分野において、人間の「ことば」により紡がれてきた哲学・宗教・歴史・言語・文学を学び、人間とは何かを考えることつうじて問題の根幹はどこにあるのかを理解し、対処・解決の方法を導き出せる力をもった人材の養成を目指している。文学部と人文学部は、ともに人文学を学問分野としているが、人文学の学びに対するアプローチの仕方が大きく異なるとともに、文学部は湘南校舎にあり、人文学部人文学科は静岡校舎に設置されることから、これらの違いを明確にして、広報、説明会、オープンキャンパス等において丁寧

に説明していく。特に文学部文明学科の入学希望者には混乱が生じないように、十分に配慮する。

2) 人文学科の設置

人文学科は、現代社会を構築してきた考え方を基準に、現代社会および将来生じるであろう問題や変化に対し、新しい価値観を持ち、社会に還元できる人材を育成することを目指す。

これを実現していくために、現代社会を作り上げてきた考え方や方法を学ぶことに加え、将来生じると予測される「技術の進歩」「問題や課題」を把握し、考える力を養っていく。具体的には、「実践的な人文学」として、意味と価値の探求を推し進めたうえで得られた知識の活用を、様々な分野の垣根を超え、グローバルな視点とローカルな視点を合わせた「グローバル」な実践を通じて身に付け、柔軟な視点から問題点を発見する力、そして解決していこうとするマネジメント力を養い、変化に対応する力を身に付けた人材を養成していく。この目的を踏まえ、「地域マネジメント」、「グローバル・コミュニケーション」、「クリエイティブ・カルチャー」の3教育領域を設定、リベラルアーツ型の教育に加えて、本学において培われ、実績を積み重ねてきた効果的な教育方法、例えばフィールドワークの実践や海洋考古学の特徴的な学びなどを継承していく。

【ディプロマ・ポリシー】

人文学部人文学科では、以下の能力を備えたと認められる者に学位「学士（人文学）」を授与する。

『知識・理解』

人文学の基礎知識を理解するとともに、現代文明の持つ問題について、自らを取り巻く社会的状況と関連づけて具体的に理解できる。

『汎用的技能』

人文学の本質を踏まえた上で、社会における多様な取り組みを理解、分析することを通して論理的思考力及び問題の発見と実践的な対処・解決の方策を導き出すことができる。

『態度・志向性』

人文学の学びで培った発想力を基盤にして、各個人が社会の一員として自らの役割と責務を全うする社会的責任感をもって行動にうつすことができる。

【具体的な人材像】

- ・多様な価値観を併せ持ちグローバル化に対応できる地方自治体職員
- ・グローバルな視点を持った地域創成ファシリテーター

3. 研究対象とする中心的な学問分野

人文学の根幹を構成する哲学、文学、言語、歴史・考古学、地理・文化人類学を基軸と

し、人間とは何かという人文科学分野の学問を追求する。

2 学部・学科等の特色

人文学部は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像（平成 17 年 1 月）」で提言された大学の 7 種の機能のうちの、「総合的教養教育」をめざす学部であり、専門分野の枠を超える教養教育を重視し、人間が持つ価値観を考える学問としての人文学の素養を身に付けた人材を養成する。特に近年、少子化と進学率上昇にともなって大学がユニバーサル化する段階に至り、多様な関心と能力を持った学習歴の異なる学生が入学してきている。人文学部では、これらの学生に対して、適性に応じた多様な学びを提供することで個々の能力を最大限に引き出し、卒業後の質を保証する教育システムを提供する学部教育を実践することを特色としている。更に、多岐にわたる学問分野を繋ぎ、社会の変化に柔軟に対応しながら様々な課題に立ち向かい、魅力ある未来を創出する人材を育成することを教育の特色としている。

人文学科では、文学や美学、哲学、歴史学、人類学など人間が持つ価値観を考える学問としての人文学の基礎を修得したのち、専門を横断させた「地域マネジメント」、「グローバル・コミュニケーション」、「クリエイティヴ・カルチャー」の 3 つの領域の応用科目で、「現代のニーズに応える力」、「変化する世界に対応する力」、「新しいライフスタイルを作り出す力」を養成する。また、これらの応用分野の教育では、地方自治体あるいは地域住民とかかわりながら実践力を身につけていくプロジェクト型のフィールドワークを積極的に実施していく。こうした学びを通して、地域（ローカル）に貢献できる力を身につける実践型教育を推進する。

具体的には「食文化とライフスタイル」、「日本の文化と歴史」、「AI 時代の人間学」、「海の文化と環境」、「観光とホスピタリティ」、「国際社会と多様性」、「地域文化と共創」、「古典の人間学」、「経済とビジネス」、「アート&パフォーマンス」などのテーマで開講される講座で、学生の関心や適性に応じた多様な学びを深めることを目指す。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

1. 学部の名称

多岐にわたる人文系学問分野を繋ぎ、様々な課題に立ち向かい魅力ある未来を創出する人材育成を目指し、人文学分野に隣接する社会科学等の諸学を含めて実践的実学たる「人間の学」(Humanities)として統合することから学部名称を「人文学部」とする。

2. 学科の名称

人文学科では、学部名と同様に人文系分野を繋ぎ統合する教育を目指していることから、学科名称を「人文学科」とする。

3. 学位の名称

人文学部における学位名称は、専門領域を明確に示し、社会的にも通用するものであることが重要であり、その理由から、学位名称を「学士（人文学）」とする。

【日本語名称】

学部名称：人文学部
学科名称：人文学科
学位名称：学士（人文学）

【英訳名称】

人文学部：Undergraduate School of Humanities
人文学科：Department of Humanities
学士（人文学）：Bachelor of Humanities

4 教育課程の編成の考え方及び特色

以上に掲げた人文学を教授するため、人文科学や社会科学を中心にした教養教育を統合的に教授し、人文学部が目指す人材育成のために、学科を細分化することなく人文学科の1学科で構成し、以下の教育方針に基づいた教育課程を編成する。

1. 教育課程の編成方針

【カリキュラム・ポリシー】

人文学部人文学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施する。

『教育課程・学修成果』

【カリキュラム・ポリシー】を実現するため、以下の科目区分（学科目）と必修・選択・自由科目をその目的別に設定している。

人文学科では、地域社会と人の関わりについての人文学的基礎知識および具体的に社会的状況と関連づける思考力を養うために、専門の基礎科目、発展科目、応用科目を設けている。

「人文基礎科目」

哲学、文学、歴史・考古学、地理・文化人類学を基軸とした人間性への深遠なる問いかけを相対的総合的に理解していく視点の育成を目指し、人文学の基礎的知識の理解を深める科目として、初年次より「総合人文学基礎概論」の必修科目、「人文思想」、「人類学」、「考古学」、「ことばと論理」「人間と環境」などの選択科目を設置している。

「人文発展科目」

人文学の基礎知識に加えて、将来生じるであろう「技術の進歩」、「問題や課題解」を把握し、現代文明の持つ問題について自らを取り巻く社会的状況と関連づけて具体的に理解できる思考力を養うための科目である。そのために静岡校舎の地域的特色を学ぶ「駿河湾学」を必修科目として、また人文学を発展的に捉える力を養う「グローバル時代の人間学」、「文化と現代メディア」、「多文化の共生」、「生と死の文化史」などを選択科目として、現代の社会的状況、未来社会の創造を考察する科目とした。

「人文応用科目」

本科目は、グローバルな考え方で、将来に向けてマネジメントしていく力の育成、柔軟な視点の育成を目指し、社会における多様な取組を理解し分析することを通して論理的思考力、問題発見と解決能力を修得することを目的としている。そこで、地域において持続可能な社会の実現に向けて必要となる情報の論理的な思考力・分析力を養う学科目<地域マネジメント>、多様な価値観を共有し、社会の一員として責任と役割を全うするために必要となるコミュニケーション能力を養うための<グローバル・コミュニケーション>、発想力を養い、地域の魅力をグローバルに発信できる表現力を修得するための<クリエイティブ・カルチャー>の3区分を設置した。この3つの学修領域において20単位以上の取得が必要である。

<地域マネジメント>領域では、地域産業との連携を進める学修科目として「観光人類学」、「地域観光論」、「地域環境論」、「コミュニティ創造論」などの専門科目を設置し、事例研究を通して情報を論理的に分析していく力を養う。

<グローバル・コミュニケーション>領域では、国際化に応じた異文化の理解、コミュニケーション方法の学修科目として「世界の文化とグローバリズム」、「生活様式論」、「インバウンド・コミュニケーション」、「国際海洋論」、「国際研修」などの専門科目を設置し、国際社会のなかの日本を理解し、国際交流の実践力を養う。

<クリエイティブ・カルチャー>領域では、市民参画のもと地域資源の発掘と表現力を高める学修科目として「言語表現論」、「身体論」、「ミュージアム論」、「海洋考古学」などの専門科目を設置し、持続可能な社会に貢献する発想力を養う。

「フィールドワーク演習科目」

「フィールドワーク演習A・B・C・D」を設置して、学生が社会的取組みの現場で特定の事例に臨み、能動的に問題を発見し、解決していく力、実践力を養う。

「ゼミナール科目」

2年次から開始される少人数で運営される「基礎ゼミナール1・2」、「ゼミナール1・2」「卒業研究1・2」の必修科目12単位の修得により、これまでの学びを踏まえ、学生自身がグローバルな視点をもって「人間とは何か」を自ら考え、社会で実践していく力を身につけることを目指す。

『学修成果の評価方法』

人文学科のディプロマ・ポリシーに示されている『知識・理解』『汎用的技能』『態度・志向性』に関して、修得単位数・GPAによる分析評価等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っている。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげている。

以上のカリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のため、後述する教育課程に基づき、資料のとおり図式化することができる。**【資料1】参照**

2. 教育課程の構成

1) 現代文明論・現代教養科目・英語科目（教養科目）

教養科目として、1年次から2年次にかけ、「Ⅰ現代文明論」、「Ⅱ現代教養科目」、「Ⅲ英語科目」の科目区分に必修科目を開講する。これらの科目の学びをとおして、現在の複雑化した社会の課題に対して、幅広い視点から、自らの考えを深め、行動していく姿勢を育てるとともに、後述する主専攻科目と影響しあいながら、ディプロマ・ポリシーの達成に向け、学修を進めていく。

教養科目の学びは以下のとおりである。

「Ⅰ現代文明論」

幅広い分野の問題点や課題の発見、そして解決への姿勢を育てていくことを目的とした「現代文明論」や「現代教養講義」の履修をとおして、自らの人生の過ごし方や、その姿勢について考える機会を設定している。

「Ⅱ現代教養科目」

“基礎教養科目”において、大学教育や学部教育への理解を深める「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」を開講し、“発展教養科目”において、国際・地域を基点として社会について学び、そこでの課題の把握とその解決について能動的に考える授業を展開する「シティズンシップ」、「地域・国際理解」、「現代教養講義」を開講する。

また、“健康スポーツ科目”において、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤として、「健康・フィットネス理論実習」「生涯スポーツ理論実習」を開講する。

「Ⅲ英語科目」

“英語コミュニケーション科目”において、国際的に幅広く社会と関わる素地を身につけるため、「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」を開講する。

2) 主専攻科目（専門科目）

「人文基礎科目」

人文学科での教育の基礎となる「総合人文学概論」を1年次に必修科目、「専門外国語（英

語) 1」、「専門外国語(英語) 2」を2年次に必修科目として開講し、基礎学力の向上を行うと同時に、学修面の指導を開始する。

「人文発展科目」

人文基礎科目を発展させ、地域を理解する「駿河湾学」を1年次に必修科目として開講する。また、現代社会がかかえる問題へと視野を早めに広げるために1年次から、人文学にデータサイエンス、環境、経済、政策などの現代的視点を追加した科目を開講する。

「人文応用科目」

人文基礎科目や人文発展科目での学修を発展させ、グローバルな視点とローカルな視点を合わせた柔軟な視点から問題点を発見する力、解決するためのマネジメント力、変化に対応する力を身に付けるために、＜地域マネジメント＞＜グローバル・コミュニケーション＞＜クリエイティブ・カルチャー＞の3つの領域の科目を2年次と3年次を中心に開講する。

「フィールドワーク演習科目」

人文学科で学修を進める上で、体験や経験を通じて興味や関心を深め、卒業研究に実践力としてつなげていくことを目的としてフィールドワーク演習科目を3年次に開講する。

「ゼミナール科目」

基礎教養科目の「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」、および人文基礎科目の「総合人文学概論」から連動するゼミナール科目を2年次以降の各セメスターに1科目を配置する。人文学の学びを専門的かつ幅広く講義するだけでなく、学生の履修方針や進路等の相談や指針の提示も行いながら、学生一人ひとりに目を配った指導を行っていく。

5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教養科目と主専攻科目(専門科目)の計画的な融合

本学は、教養科目と主専攻科目(専門科目)の融合の実現を目指し、1年次から2年次にかけて、次のとおり教養科目を配置している。

大学教育や学部教育への理解を深め、大学生活を送るうえで必要なアカデミックスキルの基礎的能力・知識を養う「入門ゼミナールA」、「入門ゼミナールB」、生涯にわたり心・体・社会的に健やかに充実した生活を送るための基盤となる“健康スポーツ科目”や国際的に幅広く社会と関わる素地を身につける“英語コミュニケーション科目”により、主専攻科目(専門科目)への円滑な学びへと導いていく。

また、多様な人々が民主政治の担い手である市民として、意見の違いを乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成するにはどうすればよいかを考えることを目標とする「シティズンシップ」、多様な人々の視点に立ち、地域社会・国際社会の様々な課題を発見し、その解決について考える「地域・国際理解」の学びを通じて、学生が社会の構成員で

あることを自覚し、社会と関わろうとする自発的な意識を高め、公共に資する判断と行動の必要性を認識することにより、自らが社会の持続的な発展に向けて取り組んでいく必要性を認識し、深化させていく。

以上を礎に、2年次に学修する本学の基幹科目である「現代文明論」や「現代教養講義」により、正しい姿勢や倫理観をもって、自ら考え、問題解決を目指して、挑み、仲間と集い、成し遂げていく姿勢を身に付けていく。そして、「主専攻科目（専門科目）」の学びと融合しながら、現代社会に必要とされる専門知識や技術に加え、倫理観をもって、様々な課題に積極的に取り組んでいく姿勢を育成していくカリキュラム体系となっている。

2. 教養科目に基づく専門科目の展開

人文学部人文学科の学修の流れは、教養科目による知識の修得と社会的実践力の向上とに連動している。第1 Semesterの「総合人文学概論」は人文学の基盤であり、第3 Semesterの「基礎ゼミナール1」から4年次の第8 Semesterの「卒業研究2」は少人数制であり、かつ継続的な学修を進める。第1 Semesterから始まる人文基礎科目を基軸として、人文応用科目では社会状況との関連に視野を広げ、人文応用科目では地域社会との係わりを教養科目と連動させて理解を深め、以下の方針で専門科目の学修を進めていく。

- ④第1 Semesterで学修する「総合人文学概論」により、人間性への深遠なる問いかけを相対的総合的に理解していく視点、将来に向けての新しい価値を考えていく視点、これらをグローバルな考え方で、将来に向けてマネジメントしていく力を、より深く、広く学修を進めるきっかけとする。
- ⑤第3 Semesterより始まるゼミナール系科目（「基礎ゼミナール1」）により、「人間とは何か」を自ら考え、まとめ、社会で実践していく力を身に付けることを目指し、学生の学修スタイルの相談を受けながら進路指導を行う。
- ⑥3年次で学修する「フィールドワーク演習A」をはじめとするフィールドワーク演習科目により、地方自治体の都市づくりや地元産業界の動向と連携しつつ、広く地域社会の創成を目指し、専門科目をより社会と連動させる。
- ⑦教養系科目で様々な知識と自ら考える力を養いながら、基礎科目から学修しはじめ、Semesterの進行に合わせて、学修スタイルを確定していき、現代社会を作り上げてきた考え方や方法を学ぶことに加え、将来生じるであろう「技術の進歩」「問題や課題」を把握し、考えていく力を養っていく。

3. 履修順序と学修の進め方

本学においては、カリキュラムの体系化を目指し、全科目を3桁の数字でナンバリングしている。1桁目は履修推奨年次、2桁目は科目群やグループ、3桁目は履修時の条件の有無を表している。これらカリキュラム表に記載して学生に提示し、履修モデルと合わせて学生が学修計画を組み立てる際の一助となるように対応している。

また、履修者数等の設定について、必修科目は適切な人数で科目ごとにクラスを編成し履修者を指定し、選択科目については、特に低年次で行う基礎科目や基礎ゼミナールの受講状況により、次学期・次年度の学科目ごとの受講人数を予め想定し、開講クラス数等の増加等によって、科目ごとに適切に管理を行う。

1) 学修の進め方

これまで述べてきた教育課程により、専門性と広い視野を持った発想力、実践力を身につけ、社会変化に対応していく柔軟性を持つ人材を効果的に育成するため、①基礎的な学修を進める学科目は低年次に開講し、②より専門的内容を含む科目は、発展科目を設定することで学修を進めていく上での順序を設定し、③毎学期開講される少人数で行うゼミナール科目による指導を行うことで力を養っていく。

教養科目の学びを踏まえ、専門科目における学修の進め方は以下のとおりである。

「人文基礎科目」

標準的な科目は1年次に開講する。また、「専門外国語（英語）1」「専門学国語（英語）2」は人文学を発展的に学習する基礎としての専門英語であり2年次に開講する。

「人文発展科目」

基礎的、標準的な科目は1年次に開講する。発展的な科目として「グローバル時代の人間学」や「食と環境」などは、基礎的な科目を学んだ後の2年次に開講する。

「人文応用科目」

「人文基礎科目」、「人文発展科目」により、人文学の基礎や現代的問題について学んだ後で、＜地域マネジメント＞＜グローバル・コミュニケーション＞＜クリエイティヴ・カルチャー＞の3つの領域から、3年次を中心にして現代的問題に関連する人文学の応用的な科目を開講する。

「フィールドワーク演習科目」

人文学科で学修を進める上での興味や関心を、実際の体験を通じて、卒業研究につなげていくことを目的としてフィールドワーク演習を開講する。人文学における総体的な入門科目としての「フィールドワーク演習A」、応用科目のうち＜地域マネジメント＞に関連する「フィールドワーク演習B」、＜グローバル・コミュニケーション＞に関連する「フィールドワーク演習C」、＜クリエイティヴ・カルチャー＞に関連する「フィールドワーク演習D」を3年次に開講する。

「ゼミナール科目」

基礎科目で開講している「総合人文学概論」から連動して、2年次以降に Semester 毎に1科目を配置する。人文学の学びを専門的かつ幅広く、ゼミナール形式で行うだけでなく、学生の履修の方針や進路等の相談や指針の提示も行いながら、学生一人ひとりに目を配った指導を行っていく。

2) 卒業要件

以下の合計で 124 単位以上修得する。

(履修科目の登録の上限：20 単位 (1 学期))

□科目区分Ⅰ現代文明論＜必修科目＞ 2 単位修得

□科目区分Ⅱ現代教養科目

基礎教養科目＜必修科目＞ 4 単位修得

発展教養科目＜必修科目＞ 6 単位修得

健康スポーツ科目＜必修科目＞ 2 単位修得

□科目区分Ⅲ英語コミュニケーション科目 ＜必修科目＞ 4 単位修得

□科目区分Ⅳ主専攻科目 76 単位修得

＜必修科目＞

■人文基礎科目 (「総合人文学概論」、「専門外国語 (英語) 1・2」) 6 単位修得

■人文発展科目 (「駿河湾学」) 2 単位修得

■ゼミナール科目 12 単位修得

(計 20 単位)

＜選択必修科目＞

■人文基礎科目 (必修科目以外) 8 単位以上修得

■人文発展科目 (必修科目以外) 28 単位以上修得

(計 36 単位)

＜選択科目＞

■人文応用科目 ■主専攻科目各学科目の余剰単位 20 単位以上修得

(計 20 単位)

□科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30 単位修得

合計 124 単位修得

3) 履修モデル

前掲の【具体的な人材像】に基づき、履修モデルを資料として添付する。**【資料2】参照**

なお、学生が、身に付けたい力を、わかりやすく体系的に身に付けていくことを目的に、以下の 10 の「研究講座」を設置し、科目の組み合わせ方を提示し体系的に学修を進め、必要な力を身に付けられるように対応していく計画である。

「食文化とライフスタイル」講座

「フードコーディネーター」、「食と環境」の学びを踏まえ、食の歴史と多様性、フードビジネスなど、多面的な学びを通じて、文化を新たに創造する力を身につける。

「国際社会と多様性」講座

「インバウンド・コミュニケーション」、「世界の文化とグローバリズム」の学びを踏まえ、世界の多様な文化と言語を学び、グローバル時代に求められる実践的なコミュニケーションの力を養う。

「日本の文化と歴史」講座

「日本人論」、「生き物文化誌」の学びを踏まえ、新しい社会を創造するために、私たちのルーツから未来へと、広い視野で日本の文化や歴史を学ぶ。

「地域文化と共創」講座

「ミュージアム論」、「地域アーカイブ」の学びを踏まえ、人々との交流を通じて地域特有の文化を再発見し、魅力的な地域社会を共に創り出す力を身につける。

「A I 時代の人間学」講座

「映像表現論」、「データサイエンス入門」の学びを踏まえ、A I 時代の社会に人間が主体的に関わり、情報を正しく有効に活用するために必要なリテラシーを身につける。

「古典の人間学」講座

「生と死の文化史」、「神話と美術」の学びを踏まえ、さまざまな時代と地域のユニークな書物を読み解きながら、人間と文化への深い理解と洞察力を身につける。

「海と文化と環境」講座

「海洋考古学」、「海洋資源論」の学びを踏まえ、海をフィールドとして、人間の文化と自然環境の関わりを学び、持続的な人間と自然の共生を考える。

「経済とビジネス」講座

「現代ビジネスと法」、「公共政策論」の学びを踏まえ、現代ビジネスの実態を学びながら地域経済の発展に貢献できる基礎力を身につける。

「観光とホスピタリティ」講座

「ウェルネスとセラピー文化」、「観光人類学」の学びを踏まえ、場所、人、アクティビティから新しいコンテンツをつくり出し、情報を発信する力を身につける。

「アート&パフォーマンス」講座

「文化と現代メディア」、「エンターテインメント産業論」の学びを踏まえ、アートやパフォーマンスなどを通して表現力を磨き、多様な人々とのコミュニケーション能力を養う。

4) 履修科目の登録上限について

確実な学修とその定着を図るため、CAP制を設定する。1学期（1セメスター）における履修登録の上限を20単位と定めることにより、確実な授業外学習（予習・復習）がな

されるようにする。資格取得のための卒業単位数に含まれない科目、セメスター期間外の実習等については、「セッション科目」として扱うため上限の単位数にカウントしない。

5) 他大学における授業科目の履修について

他大学における授業科目の履修、単位認定については、大学設置基準に基づき本学が定めるルールに則り活用していく。但し、資格取得等に関わる科目については、その基準を満たしているか等、慎重に審査して行う。

6 入学者選抜の概要

1. アドミッション・ポリシー

『求める学生像』

人文学部人文学科の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲をもった人材。

人文学部人文学科で定められたディプロマ・ポリシーで、求められている能力を身につけられると期待できる基礎学力を十分有する人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して、英語の文章理解力、表現力といったコミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力といったコミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

人文学の観点から、知識や技能を総合して応用でき、それらを発信できることが、期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

2. 入学者選抜の概要

人文学部人文学科の入学試験は、次のとおり予定している。

学校推薦による選抜入試としては、付属高等学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論文」の試験により選抜を行う「付属学校推薦型選抜入学試験」、学校長の推薦に基づいて書類審査及び「小論文」、「面接試験（口述試験含む）」の試験により選抜を行う「公募制学校推薦型選抜入学試験」を実施する。

学力等による選抜入試としては、文系の3科目または理系の3科目を受験して高得点の2科目の結果で合否判定を行う「文系・理系学部統一選抜入学試験」、3教科の科目を受験して3科目の結果で合否判定を行う「一般選抜入学試験」、書類審査を経て大学入学共通テストの成績により合否判定を行う「大学入学共通テスト利用選抜入学試験」、書類審査及び課題発表、面接試験等により選抜を行う「総合型選抜入学試験」を行う。

なお、入学試験の募集定員全体の割合は、学校推薦による選抜入試 27%、学力等による選抜入試 73%である。

3. 入学者選抜の体制

入学試験における判定は、学長の責任・指揮のもと、学長を委員長、副学長、学部長、入学センター所長を副委員長とし、該当する学科の学科長等により構成される学部入試判定委員会によって実施される。

また、入試問題の作成は、入学試験の運営全体を統括する入試運営本部に設置される出題・採点本部の「入試問題作成部会」において行われる。入試問題作成部会は、「学科試験各科目」、「専門試験科目」、「実技試験科目」、「小論文」ごとに置かれ、その責任者及び委員は、出題・採点本部長から指名を受けた学部長の推薦に基づき、原則として専任講師以上の教員とし、学長が任命する体制となっている。

7 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 専任教員組織

人文学部人文学科の専任教員組織は、教授6名、准教授4名、講師5名の15名で構成されており、完成年度における年齢構成は、40～49歳3名、50～59歳8名、60～64歳2名、65～69歳2名となっている。

本学の定年齢は、「学校法人東海大学教職員定年規程」のとおりであり、完成年度までに定年を迎える教員が2名（教授2名）いるが、「学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規」第2条別表の規定に基づき、特任教員として完成年度まで雇用することについて、「東海大学教員人事委員会」で承認されている。**【資料3】参照**

完成年度後の教員組織の計画については、令和7年度の完成年度以降において、中堅・若手教員の教育・研究能力の育成を踏まえて昇格を目指すとともに、定年を超えている教員については、次のとおり後任の補充計画を策定している。

対象者	採用予定年度	採用条件等
教員A（教授62歳） 主な担当科目：「観光人類学」	令和8年度	博士もしくは修士の学位を有する30～50歳代で、人類学を専門分野とし、教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者

教員B（教授 63 歳） 主な担当科目：「データサイエンス入門」	令和 8 年度	博士の学位を有する 30～50 歳代で、データ工学を専門分野とし、教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
-------------------------------------	---------	--

この計画に基づき、他大学の現職教員等から広く候補者を募り、本学の教員採用基準に照らし合わせた厳格な審査のもと、採用を行い、開設時の教育水準の維持・向上を図る。

なお、人文学部人文学科の専任教員 15 名のうち、9 名が文学関係の学位を保有しており、これら 9 名に加え、隣接する分野である教育学修士、経済学修士を有する教員、理学博士であるが人類学を専門とする教員の 3 名によって、教育課程の基幹である「人文基礎科目」学科目及び「人文発展科目」学科目が担当される。このように文学関係の学位を保有する教員を中心に教育課程が運営されるため、この教員組織を維持しつつ、教員の研究活動において、人文学に関連する研究業績を積んでゆくことにより、人文学としての教員組織をより充実させていきたいと考えている。

2. 教養科目の教員配置の考え方

本学においては、総合大学の強みを生かした文理融合の教育を進めており、教養科目については、各学部において運営するのではなく、センター等により行い、学部とは別の組織により運営を行っている。教養科目を構成する各科目については、学部の特色等にあって授業科目に教員を配置し、学生同士も学部や分野を越えてお互いに交わりながら、全学的に同一の授業形態にて授業を行う方法を実践する。このため、「Ⅰ現代文明論」、「Ⅱ現代教養科目」、「Ⅲ英語科目」については、原則として兼担兼任教員が担当する。なお、「Ⅱ現代教養科目」の「入門ゼミナール 1・2」については、学部学科教育の導入を担う科目であるため、専任教員が担当する。

3. 専門科目の教員配置の考え方

専門科目についての考え方は、授業の各科目に最も適した研究・教育実績を有する教員が、その科目の授業を担当することである。フィールドワーク科目やゼミナール科目といった専門性の高い技術と継続性が必要な科目は、原則として専任教員が授業を実施し、履修者は適切な人数で行う。人文学科の専門基礎教育に相当する基礎科目および発展科目は、該当分野に精通しており、豊かな教育経験と研究実績を有する教員を優先して配置する。

「人文基礎科目」

「総合人文学概論」は、基本の科目であり、多くの専任教員が担当する。「専門外国語（英語） 1・2」は、英語科目の教育経験を有する専任教員が担当する。「人文思想」、「ことばと論理」、「考古学」、「人類学」は、各科目に関連する研究実績を有する専任教員が担当し、「人間と環境」は海洋学部の専任教員が兼担する。

「人文発展科目」

「駿河湾学」は、海洋に関する教育経験の豊かな専任教員が担当する。「グローバル時代の人間学」は多様な学修を目的として多数の専任教員が担当する。「文化と現代メディア」、

「多文化の共生」、「食と環境」、「生き物文化誌」、「食文化論」、「日本文化史」、「生と死の文化史」、「地域文化論」、「言語と社会文化」、「データサイエンス入門」、「公共政策論」、「日本人論」は、各科目に関連する研究実績を有する専任教員が担当する。「自然環境との共生」、「経済学」、「現代ビジネスと法」、「人間と健康」は、各科目に関連する研究実績を有する兼任教員が担当する。

「人文応用科目」

＜地域マネジメント＞、＜グローバル・コミュニケーション＞、＜クリエイティブ・カルチャー＞の3つの領域がある。

＜地域マネジメント＞に配置する「ローカルフード」、「観光人類学」、「地域アーカイブ」、「海洋資源論」、「地域観光論」、「地域環境論」、「コミュニティ創造論」は、各科目に関連する研究実績を有する専任教員が担当する。「財務会計論」、「地域産業論」は海洋学部の専任教員が兼任し、「インターネット社会と知的財産」は、各科目に関連する研究実績を有する兼任教員が担当する。

＜グローバル・コミュニケーション＞に配置する「国際研修」は、国内外の多様な国際性の学修を目的として、多くの専任教員が担当する。「アジアの思想」、「クリティカル・シンキング」、「世界の文化とグローバリズム」、「メディアリテラシー」、「生活様式論」、「国際海洋論」は、各科目に関連する研究実績を有する専任教員が担当する。「インバウンド・コミュニケーション」、「情報発信とソーシャルメディア」は、本学センター所属の専任教員が兼任する。

＜クリエイティブ・カルチャー＞に配置する「言語表現論」、「ミュージアム論」、「海洋考古学」、「ウェルネスとセラピー文化」、「フードコーディネーター」、「神話と美術」は、各科目に関連する研究実績を有する専任教員が担当する。「身体論」、「映像表現論」、「エンターテインメント産業論」は、本学センター所属の専任教員が兼任する。

「フィールドワーク演習科目」

学外実習を伴う科目であり、教育経験が豊富な専任教員が担当し、「フィールドワーク演習A」、「フィールドワーク演習B」、「フィールドワーク演習C」、「フィールドワーク演習D」の4科目は、それぞれの学修目的に応じて専門研究を行うため、多くの専任教員を充てる。

「ゼミナール科目」

「基礎ゼミナール1・2」、「ゼミナール1・2」、「卒業研究1・2」、「特別研究」は、全専任教員が担当する。

8 施設・設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

人文学部は、教育研究を静岡校舎（静岡県静岡市）において行う。

静岡校舎の校地面積は 198,947.61 m²であり、複数の運動場が整備されており、食堂やクラブハウスなどの学生の休息できる場所やその他の利用のための適当な空地も十分に確保されているため、新たな整備計画はない。

2. 校舎等施設の整備計画

校地校舎等の図面のとおり、静岡校舎において、8号館を中心として、専任教員研究室、講義室、ゼミ室、コンピュータ室等を専用・共用として確保しており、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の整備について、人文学部の学問領域に関わる図書資料として、図書 43,892 冊を整備しており、教育研究に支障はない。引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書資料を幅広く収集して充実させる予定である。

学術雑誌については、プリント版ジャーナルと電子ジャーナルの2形態を整備する。「学術雑誌一覧」のとおり、多数の学術雑誌を整備しており教育研究に支障はない。**【資料4】**

参照

また、既にオンライン・文献データベースが整備されており、学内の図書館をはじめ各施設、研究室、一部は学外から“SSL-VPN”を利用した24時間検索を実現している。

図書館の施設整備については、人文学部の学生が利用する静岡校舎の図書館の面積は 2,755 m²であり、閲覧室や東海大学蔵書検索システム（TIME-OPAC）を利用できる検索パソコンが既に整備され、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

なお、東海大学では、新型コロナウイルスの流行に伴い、遠隔授業が導入されたことを契機として、電子書籍を利用できる環境を整えている。具体的には、学生や教職員がさまざまな専門分野の基本的な内容に関する電子書籍を自由に閲覧できるサービスを目指し、丸善雄松堂株式会社の「Maruzen eBook Library」（<https://elib.maruzen.co.jp/>）において、各学部の教員が推薦した各分野の基礎的・入門的な図書の中から特に選出した約 1550 タイトルと、岩波書店発行の「岩波新書」、「岩波現代文庫」シリーズなど 500 タイトルが利用可能となっている。また、先に述べたオンライン・文献データベースにより、世界各国で刊行されている学術雑誌や国内外で発行されている主要新聞・雑誌類の記事、「世界大百科事典」「日本国語大辞典」「新英和大辞典」といった辞書類、地図データベースなど数多くのさまざまな情報を大学の附属図書館以外の場所から検索・閲覧できる環境が整えられている。

本学では、社会情勢の変化に対応した教育研究環境を整えるべく、教員や学生が必ずしも大学の附属図書館に来なくても、書籍や情報の検索・閲覧が可能となる「非来館型サービス」を拡充していく。

他大学図書館との連携について、本学は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。また、国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係を確立している。その実績を生かし国立情報学研究所 NACSIS - ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。

静岡県内では、静岡県大学図書館協議会に参加、静岡県図書館協会にも加盟しており、今後も活発な協力活動を展開する計画である。

9 管理運営

人文学部の管理運営は、基本的には人文学部教授会によってなされる。教授会は「東海大学学部教授会規程」に従い、通常、月1回開催され、その構成員は教授、准教授、講師及び助教であるが、必要に応じてその他の教職員を加えることができる。教授会は学部長がこれを招集し、その議長となるが、このとき構成員の3分の2以上の出席がなければ成立しない。また、その議決は、出席人員の過半数の賛成を要する。

なお、教授会では次のことを審議することで実際の学部運営を行っている。

- (1) 研究及び教育に関する事項
- (2) 学生の入学、卒業、学位の授与に関する事項
- (3) 学生の学籍異動に関する事項
- (4) 教務及び学生生活に関する事項
- (5) その他必要と認められる事項

また、人文学部には、教育・研究及び管理運営の質的向上を図るために必要な事項の検討・点検・評価活動に関する「評価委員会」、教務事項に関する「教務委員会」、FD活動の推進に関する「FD委員会」、広報活動の充実に関する「広報委員会」が設置され、これら委員会は、学部長及び教授会との連携と機能分担がなされる。

10 自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて各種教学改革の提言を行っている。

各学部には、学部評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。東海大学で実施している自己点検・評価活動は、機関点検・評価と教員個人の総合的業績評価に大別することができる。

1. 機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科等を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、ミッション・シェアリング・シート（5年計画で学部・研究科の教育研究改革、改善の目標と手段を明記した書類）に記載することから始まる。

このミッション・シェアリング・シート記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価を行った後、学部・研究科の相互評価に付され、さらに大学評価委員会によって最終的な評価が行われて学長に報告される。

また別途、大学基準協会が定めた点検・評価項目に従った自己点検評価報告書も作成している。学長は、これに基づいて、翌年の改革改善を指揮する流れが作られている。

2. 教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況について Web を利用して登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の3項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動などが評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

3. 認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成 29（2017）年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、令和 6（2024）年度が予定されている。財団法人大学基準協会の認証評価とともに、東海大学は、大学全体の自己・点検評価を、前記 1 及び 2 などを取り入れながら毎年度実施しており、毎年度「教育研究年報」を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

1 1 情報の公表

本学は、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、以下のとおり、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、オフィシャルサイトの＜大学の概要＞において、「学則」の条文中の別表として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育研究上の目的」：トップ＞大学の概要＞学則

イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト＜大学の概要＞において、「教育・研究組織について」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャルサイトの＜教育・研究＞＜学部・学科＞、＜大学院＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育・研究組織」の名称

トップ＞大学の概要＞教育・研究組織について

「各学部」の名称

トップ＞教育・研究＞＜学部・学科＞及び＜大学院＞

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和 59 年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年 1 回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年報がオフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞＜（大学の取り組み）教育研究年報＞において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞（教育研究上の情報）＞において、公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの＜教育・研究＞＜学部・学科＞、＜大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの＜教育・研究＞＜研究支援・体制＞において、「研究活動・ライセンス検索」から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教員組織等」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞年齢別教員数
「教員が有する学位及び業績」

トップ＞各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞学部・学科＞
各学部・学科(各研究科・専攻) トップ＞教員紹介「ResearchMap」

トップ＞教育・研究＞研究支援・体制＞研究活動・ライセンス
検索＞教員研究活動情報の検索

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針については、オフィシャルサイトトップページの＜大学の概要＞理念・歴史＞教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー＞に「アドミッション・ポリシー」として掲載している。入学者の数、収容定員及び在学する学生の数については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞＜収容定員＞において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの＜各種情報・お問い合わせ＞情報の公表＞就職者数において公表している。また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「入学者に関する受入方針」

トップ＞大学の概要＞（理念・歴史）教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>収容定員
「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況」
トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>就職者数

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップページの<各種情報・お問い合わせ><情報の公表>(授業について)シラバス又は年間授業計画の概要>においてシラバスを公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学部・学科」、「研究科専攻」のシラバス
トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>(授業について)
シラバス又は年間授業計画の概要>授業内容・計画(シラバス)

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている事項については、オフィシャルサイトトップページの<教育・研究><学部・学科>、<大学院>のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準(学部・学科)」
トップ>教育・研究>[学部・学科]、[大学院]>各学部・学科・専攻・課程・研究科トップ>カリキュラム

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページにおいて、「各種情報お問い合わせ>情報の公表>(学校法人東海大学 情報公開)校地・校舎面積・耐震化率」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「学生の教育研究環境等」：トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>(学校法人東海大学 情報公開)校地・校舎面積・耐震化率

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの<受験・入学案内>において、「学部・学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」

トップ>受験・入学案内>学部・学科学費、大学院学費

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの<学生生活>及び<キャリア・就職>において、それぞれ公表している。また、教育支援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべての学生の目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画（Faculty Development）を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「修学支援」：トップ>学生生活>学生生活サポート

「進路選択支援」：トップ>学生生活>キャリア就職

「心身の健康等に係る支援」：トップ>学生生活>教育支援組織>
健康推進センター

【教育支援センターサイト】 <http://jpn.esc.u-tokai.ac.jp>

【健康推進センターサイト】 <http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc>

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認定評価の結果 等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」については、オフィシャルサイトトップページの<大学の概要>において、「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの<大学の概要>において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則を、それぞれ掲載している。

設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの<大学の概要>において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成29年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの<大学の概要><学則・コンプライアンス>において、「自己点検評価活動」として掲載している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「アドミッション・カリキュラム・アカデミックポリシー」

トップ>大学の概要>教育研究上の目的及び養成する人材像、
3つのポリシー

「学則」

トップ>大学の概要>学則

「設置認可申請書・設置届出書及び設置計画履行状況報告書」

トップ>各種情報・お問い合わせ>情報の公表>学部、研究科等に係る「設置申請・届出書」及び「設置計画履行状況報告書」

「自己点検評価活動、第三者評価の結果」

トップ>大学の概要>自己点検評価活動

1 2 教育内容等の改善のための組織的な研修等

1. 教育支援センターによる全学実施体制

東海大学は、組織的・継続的なFD活動を推進する部署として、東海大学教育支援センターを設置している。教育支援センターでは、各年度に複数回、教育活動の活性化を図ることを目的に、学外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだ「FD・SD研修会」を開催している。例年、年度において3回開催しており、この研修会において、教員だけでなく、事務職員や技術職員などの大学職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。

2. 各学部の取り組み

人文学部では、主専攻科目において授業アンケートを実施し、学生の理解度、講義形態に対する意見、学生・教員間のコミュニケーションの評価、などの意見を学期毎に集め、次の講義にどのように改良していくのかについて、シラバスにおいても記載し、授業内容及び方法の改善についてPDCAのサイクルを実施する。

人文学部にFD委員会を組織し、学士課程教育内容の改善を目標とした活動を実施する。活動内容は、多様な学修歴をもつ新入生に対応するため初年次開講の専門基礎科目について、学生の履修履歴や学力実態に即した授業内容の組織的改善を行なうとともに、大学生生活全般への導入、学部・学科に関する理解を深め専門分野への勉学の意欲を高めるための初年次をターゲットとしたFD研究会を実施する。さらにFD委員会では、授業公開を促進させ、授業の内容について、幅広く他の教員からの意見を聞き、以降の講義へ反映させる試みを継続的に行う。また、FDの講演会を定期的に開催し、多様な学生の気質の理解や、個々の教科における学生理解度の評価手法などについて理解を深める。活動としては、年度間において複数回のFD研究会を実施し、人文学部所属教員による担当授業の改善報告やFDの講演会を開催し、講師として、優れた授業を行う教員を大学として表彰する「東海大学 Teaching Award」の受賞教員や授業改善に知見のある学外教員等を迎える計画である。

なお、学部においてMSS (Mission Sharing Sheet) を定義し、その中に授業内容・方法の改善に向けた個々の試みを登録し、学期毎にチェックすることにより、PDCAサイクルを実現する。

1 3 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組について

本学においては、現代市民として身につけるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動をととして民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。

日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行うことにより、社会的・職業的自立を目指している。そのことを踏まえ、人文学部では、「卒業研究1・2」において、4年間の学びの集大成として、様々な分野にまたがる問題や課題について自らが定めたテーマに基づき、学生自身がグローバルな視点をもって「人間とは何か」を自ら考え、実践し、社会貢献できる力を身に付けていく。また、研究のプロセスを経験する事により、社会で起きている問題や課題の複雑さや課題解決の難しさを経験し、実社会に出てから遭遇する様々な社会的課題の解決方法や新しいアイデア、思考方法や多分野を跨りマネジメントしていく力と姿勢を身に付けることを目標とする。

2. 教育課程外の取組について

本学に在籍している学生全てに門戸が開かれているチャレンジセンターの「チャレンジプロジェクト」により、本学が実践している4つの力「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力」を身につける活動を行っている。これは、学生が活動を企画・運営し、目標の達成を目指す課外活動であり、地域活性化、ボランティア等多様な活動を学生自身の手で展開している。

3. 適切な体制の整備について

教育課程については、東海大学教育審議会を柱として、パブリック・アチーブメント型教育の方向性を定め、現代教養センター・地域連携を担うT o - C o l l a b oを軸に運営を行っている。さらに、各学部・学科においては、専門科目へパブリック・アチーブメント型教育を展開している。また、教育課程外の活動についてはチャレンジセンターを中心に行っており、この双方の広がりから、地域連携を担うT o - C o l l a b oにより、実際に地域との連携する教育研究活動という形で、実践的な教育活動と学生の活動の場を維持している。

以 上

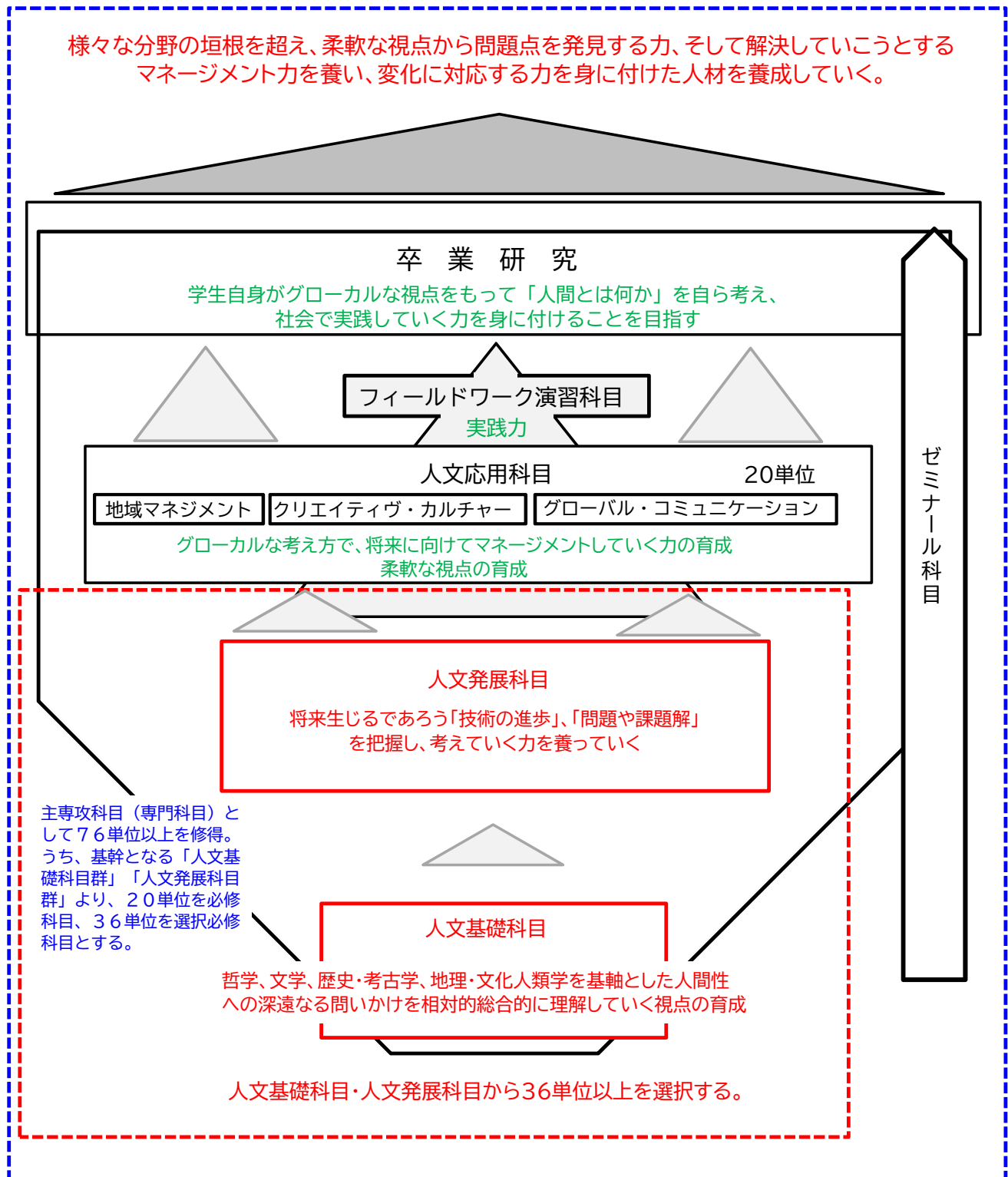
設置の趣旨等を記載した書類
人文学部人文学科

【資料目次】

- 資料1 「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図
…p. 2
- 資料2 履修モデル…p. 3
- 資料3 学校法人東海大学教職員定年規程
学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規…p. 5
- 資料4 学術雑誌一覧…p. 10

人文学部人文学科

「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」と教育課程との関連図



履修モデル：人文学部人文学科 【具体的な人材像】多様な価値観を併せ持ちグローバル化に対応できる地方自治体職員

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
II 現代教養科目	入門ゼミナール A	2	入門ゼミナール B	2			現代教養講義	2								
	シティズンシップ	2	地域・国際理解	2												
	健康・フィットネス理論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1												
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	2	英語リーディング&ライティング	2												
IV 主専攻科目	総合人文学概論	2	駿河湾学	2	専門外国語（英語） 1	2	専門外国語（英語） 2	2	ゼミナール 1	2	ゼミナール 2	2	卒業研究 1	2	卒業研究 2	2
	人文思想	2	ことばと論理	2	基礎ゼミナール 1	2	基礎ゼミナール	2	グローバル時代の人間学 〈国際社会と多様性〉	2	クリティカル・シンキング	2	海洋資源論 〈海の文化と環境〉	2	特別研究	2
	考古学	2	人類学	2	人間と健康	2	食と環境 〈食文化とライフスタイル〉	2	インバウンド・コミュニケーション 〈国際社会と多様性〉	2	情報発信とソーシャルメディア	2	コミュニティ創造論	2		
	人間と環境	2	日本文化史	2	日本人論 〈日本の文化と歴史〉	2	生き物文化誌 〈日本の文化と歴史〉	2	アジアの思想	2	身体論	2				
	多文化の共生	2	生と死の文化史 〈古典の人間学〉	2	文化と現代メディア 〈アート&パフォーマンス〉	2	自然環境との共生	2	フードコーディネート 〈食文化とライフスタイル〉	2	エンターテインメント産業論 〈アート&パフォーマンス〉	2				
	食文化論	2	データサイエンス入門 〈AI時代の人間学〉	2	地域文化論	2	言語と社会文化	2	映像表現論 〈AI時代の人間学〉	2	ローカル・フード	2				
					メディアリテラシー	2	世界の文化とグローバリズム	2	神話と美術 〈古典の人間学〉	2	国際海洋論	2				
					生活様式論	2	海洋考古学 〈海の文化と環境〉	2	地域アーカイブ 〈地域文化と共創〉	2	言語表現論	2				
					ミュージアム論 〈地域文化と共創〉	2	国際研修	2	フィールドワーク演習 A	2	地域産業論	2				
単位数合計		19		19		20		20		18		18		6		4

※＜＞内は、研究講座名

履修モデル：人文学部人文学科 【具体的な人材像】 グローカルな視点を持った地域創成ファシリテーター

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
II 現代教養科目	入門ゼミナール A	2	入門ゼミナール B	2			現代教養講義	2								
	シティズンシップ	2	地域・国際理解	2												
	健康・フィットネス理論実習	1	生涯スポーツ理論実習	1												
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	2	英語リーディング&ライティング	2												
IV 主専攻科目	総合人文学概論	2	駿河湾学	2	専門外国語（英語） 1	2	専門外国語（英語） 2	2	ゼミナール 1	2	ゼミナール	2	卒業研究 1	2	卒業研究 2	2
	人間と環境	2	ことばと論理	2	基礎ゼミナール 1	2	基礎ゼミナール	2	人間と健康	2	インターネット社会と知的財産	2	インバウンドコミュニケーション 〈国際社会と多様性〉	2	エンターテインメント産業論 〈アート&パフォーマンス〉	2
	人文思想	2	人類学	2	グローバル時代の人間学	2	食と環境 〈食文化とライフスタイル〉	2	日本人論 〈日本の文化と歴史〉	2	クリティカル・シンキング	2	アジアの思想	2		
	文化と現代メディア 〈アート&パフォーマンス〉	2	自然環境との共生	2	ミュージアム論 〈地域文化と共創〉	2	現代ビジネスと法 〈経済とビジネス〉	2	財務会計論	2	情報発信とソーシャルメディア	2				
	地域文化論	2	データサイエンス入門	2	多文化の共生	2	言語と社会文化	2	海洋資源論	2	ローカルフード	2				
	経済学	2	公共政策論 〈経済とビジネス〉	2	地域観光論	2	地域アーカイブ 〈地域文化と共創〉	2	コミュニティ創造論	2	言語表現論	2				
					地域環境論	2	地域産業論	2	メディアリテラシー	2	身体論	2				
					観光人類学 〈観光とホスピタリティ〉	2	世界の文化とグローバルリズム 〈食文化とライフスタイル〉 〈国際社会と多様性〉	2	フードコーディネート 〈食文化とライフスタイル〉	2	ウェルネスとセラピー文化 〈観光とホスピタリティ〉	2				
					国際研修	2	生き物文化誌 〈日本の文化と歴史〉	2	生活様式論	2						
									フィールドワーク A	2						
単位数合計		19		19		20		20		20		16		6		4

※＜＞内は、研究講座名

(制定 昭和28年6月1日)

改訂 昭和43年4月1日 昭和63年4月1日
 1991年6月17日 1994年4月1日
 2000年4月1日 2003年4月1日
 2004年4月1日 2006年4月1日
 2007年4月1日 2011年4月1日
 2012年4月1日 2013年4月1日
 2017年4月1日

第1条 学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は、次のとおりとする。

教員

職種	区分	身分	資格	定年齢
教員	大学院・大学 短大・研究所等		教授	65
			准教授・講師・ 助教・助手	62
	高等学校・中等部 小学校・幼稚園	教諭・養護教諭 司書教諭	上級職1種・2種	65
			中級職1種・2種	62
			一般職1種	62
		助教諭	一般職2種	60
	2004年4月1日以後の採用者	教諭・養護教諭 司書教諭	一般職1種	60

職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	事務		参与・副参与 参事・副参事	65
			主事・副主事	62
			主査・職員一級 職員二級	60
	技術		主席技師・主任技師 技師	65
			技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員 初級技術員	60
	看護		1等級～4等級	65
			5等級～7等級	62
			8等級以下	60
	保健		主席保健技術員・副主席保健 技術員・主任保健技術員	65

			上級保健技術員一・上級保健技術員二	62
			中級保健技術員・保健技術員・初級保健技術員	60

職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	船舶		船長・機関長	65
			一等航海士，一等機関士，通信長，事務長，次席一等航海士，次席一等機関士，二等航海士，二等機関士，次席二等航海士，次席二等機関士，三等航海士，三等機関士，次席三等航海士，次席三等機関士，小型舟艇船長，小型舟艇機関長，小型舟艇甲板長，甲板長，操機長，司厨長	62
			操舵手，操機手，調理手，甲板員，機関員，司厨員	60
	その他		課長職以上の管理職	65
			上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

第2条 定年による退職は，定年に達した日の属する年度末日とする。

第3条 定年令の計算は，「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。ただし，2000年3月31日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。

第4条 教育上又は経営上必要と認めた者については，第1条の規定を適用しない。

第5条 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」により定年退職後に継続雇用する場合は，「学校法人東海大学大学・短大非常勤教員規程」，「学校法人東海大学初等中等教育機関非常勤講師規程」及び「学校法人東海大学臨時職員規程」を適用する。なお，継続雇用における条件については，「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付 則

- 1 この規程は，昭和28年6月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にあたって必要な細則については，別に定める。

付 則（2017年4月1日）

この規程は，2017年4月1日から施行する。

○学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規

(制定 2017年4月1日)

改訂 2020年4月1日

(目的・趣旨)

第1条 学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規（以下「この内規」という。）は、
「学校法人東海大学特任教職員任用規程」（以下「規程」という。）に定める特任教職員のうち、大学・短大の特任教員（以下「特任教員」という。）の任用についての運用を定めることを目的とする。

(個別管理区分)

第2条 特任教員の各人の雇用条件を、雇用契約書等で提示することを目的として、規程第3条に定める個別管理区分は、次の項目とし、詳細を別表に定めるものとする。

- (1) 採用区分
- (2) 職務区分
- (3) 所属及び勤務地
- (4) 資格
- (5) 1回の雇用期間
- (6) 授業責任時間
- (7) 招聘の有無
- (8) 年俸額
- (9) 教育及び研究に関する経費配算
- (10) 外部資金要件
- (11) その他

(限度年齢)

第3条 規程第4条及び第5条の定めその他、次の各号の満年齢に達する年度末を契約期間の限度とする。

- (1) 教授 65 歳
 - (2) 准教授以下 62 歳
- 2 原則として教授に限り、専任定年後に継続して雇用することができる。その場合、限度年齢は 68 歳とするが、特段の事情がある場合は、稟議により、70 歳に達する年度末までを限度とすることができる。
- 3 本条における年齢の計算は、「年齢計算ニ関スル法律」及び「民法」第 143 条による。

(契約更新に関する条件)

第4条 特任教員の契約は、次の各号のいずれかに該当する場合、更新を行わないものとする。

- (1) 担当する授業科目が減少し、授業責任時間を満たさないとき。
- (2) 担当する業務がなくなったとき。
- (3) 担当する研究プロジェクトが終了したとき。
- (4) 外部資金要件の者については、人件費、研究費等の経費全額を充足し得る外部資金が確保できないとき。
- (5) その他、雇用契約書等に定める契約内容が遵守されないとき。

(専任への任用変更)

第5条 特任教員が専任教員への任用変更を希望する場合、人事計画に基づき、公募する教員採用に応募することができる。ただし、専任定年後の継続雇用者を除く。

- 2 専任教員と同等の職務に就く特任教員は、所属学部等より推薦があった場合、所定の専任採用審査を受けることができる。このとき、在職中の教育・研究の業績及び勤務実績のほか、学生指導、学部学科等所属する組織の運営業務、大学内外の各種業務等の担当について評価する。

付 則

- 1 この内規は、2017年4月1日から施行する。

- 2 (経過措置)

規程の付則第3項に定める経過措置を適用する特任教員第3種の任用手続は、規程の制定に伴い、任用に係る委員会を廃止するため、他の特任教員と同様とする。

付 則 (2020年4月1日)

この内規は、2020年4月1日より施行する。

別表

個別管理区分	内 容
(1)採用区分	新採用, <u>再採用</u> , 再雇用
(2)職務区分	教育・研究の職務を主に担当, 教育を主に担当, 研究を主に担当, 診療を主に担当, その他
(3)所属及び勤務地	各機関に定める所属及び勤務地
(4)資格	教授, 准教授, 講師, 助教, 助手
(5)1回の雇用期間	1回の雇用期間は1か年度毎とする。専任への任用変更は原則として5か年度以内とする。 最長雇用期間は9か年度とし, 外部資金を要件とする者については, 外部資金未確保の場合は更新しない。
(6)授業責任時間	職務内容に応じて3コマ, 6コマ, 10コマ, その他 専任定年後の継続雇用者は原則として3コマとする。
(7)招聘の有無	大学による招聘にて採用された者は, 成果に応じて給与に特別加算することができる。ただし, 専任定年後の継続雇用者を除く。
(8)年俸額	職務による諸手当については年俸額に含むものとする。実績による諸手当については, 実績に応じて別途支給する。
(9)教育及び研究に関する経費配算	特定の診療を行う職務の教員を除き, 職務内容に応じて, 研究費又は教育開発費を配算する。
(10)外部資金要件	該当する外部資金の要件及び名称
(11)その他	<u>上記個別管理区分に定める他, 特別の事情のある場合は, 必要に応じて記載する。</u>

(注) 採用区分の内容は、次のように定める。

(1) 新採用

新たに特任教員として雇用契約を締結すること。

(2) 再採用

専任退職後，引続き特任教員として雇用契約を締結すること。

(3) 再雇用

退職した者が，一定の期間を経て，再度雇用契約を締結すること。

学術雑誌一覧

人文学部

No.	雑誌名（国内雑誌）
1	Biostory : ビオストーリー : 人と自然の新しい物語 / 生き物文化誌学会 [編]. -- 創刊0号 (2003.11)-. -- 生き物文化誌学会, 2003.
2	BT : 美術手帖 : bijutsu techo : monthly art magazine. -- Vol. 40, no. 600 (Oct. '88)-. -- 美術出版社, 1988.
3	English express. -- 1巻1号 (1987.5)- = 通巻1号 (1987.5)-. -- 朝日出版社, 1987.
4	JATAFFジャーナル = JATAFF journal. -- Vol. 1, no. 1 (2013.1)-. -- 農林水産・食品産業技術振興協会, 2013.
5	Logi-biz = 月刊ロジスティクス・ビジネス. -- 創刊号 (2001.4)-. -- ライノス・パブリケーションズ, 2001.
6	Marine diving = マリンダイビング
7	National geographic 日本版.
8	New food industry
9	Newsletter of Japanese Coral Reef Society
10	Newsweek : the international newsmagazine 日本版
11	Sea dream : 海へ
12	Sessile organisms
13	The English journal
14	アクアネット : 産地と消費地をネットする新しい水産情報誌
15	海の研究
16	栄養と料理
17	エコノミスト
18	科学
19	缶詰時報
20	ジュリスト
21	つり人 : tsuribito / つり人社
22	ていち
23	レジャー白書 / 余暇開発センター [編]
24	運輸と経済
25	運輸政策研究
26	沿岸海洋研究
27	科学史研究. 第III期
28	科学新聞
29	舵
30	河川

31	荷主と輸送
32	海運
33	海運経済研究
34	海洋と生物
35	環境と公害：自然と人間の共生を求めて
36	環境技術 = Environmental conservation engineering / 環境技術研究会 [編]. -- 1巻1号 (昭47.1)- = 通巻1号 (昭47.1)-. -- 環境技術研究会, 1972.
37	環境経済・政策研究
38	環境社会学研究
39	環境情報科学
40	気象研究ノート
41	気象年鑑
42	季刊考古学
43	漁業経営調査報告
44	漁業就業動向調査報告書
45	漁業経済研究
46	経済セミナー
47	月刊アクアライフ：魚とのコミュニケーション
48	月刊フードケミカル
49	月刊海洋
50	月刊海洋. 号外 = Kaiyo monthly
51	月刊考古学ジャーナル = The archaeological journal / ニュー・サイエンス社 [編]. -- No. 1 (1966. 10)-. -- ニュー・サイエンス社, 1966.
52	月刊天文ガイド
53	月刊文化財 / 文化財保護委員会監修. -- 創刊[1]号 (昭38.10)-. -- 第一法規出版, 1963.
54	現代思想
55	現代用語の基礎知識. -- 自由国民社, 1948.
56	工業用水
57	港湾
58	静岡県の統計
59	思想
60	週刊ダイヤモンド
61	情報の科学と技術
62	植物環境工学
63	食生活データ総合統計年報
64	食品と科学

65	水環境学会誌
66	水産海洋研究
67	水産界
68	水産工学
69	水産増殖
70	水産年鑑
71	水路
72	世界
73	世界の艦船
74	世界の統計：国際統計要覧
75	世界統計年鑑
76	生物物理
77	藻類
78	第四紀研究
79	地球温暖化&エネルギー問題総合統計
80	地理
81	潮汐表
82	都市計画
83	都市清掃
84	都市問題
85	土木技術
86	日刊cargo：物流総合紙
87	日刊水産経済新聞
88	日経サイエンス：Scientific American日本版 / 日経サイエンス社 [編]. -- 20巻10号 (1990.10) - = 通巻229号 (1990.10) -. -- 日経サイエンス社, 1990.
89	荷主と輸送
90	日本の統計
91	日本リモートセンシング学会誌
92	日本周辺漁海況情報
93	日本水産學會誌
94	日本統計年鑑
95	日本生態學會誌
96	日本地すべり学会誌
97	保健の科学
98	余暇・レジャー&観光統計年報
99	用水と廃水
100	養殖ビジネス

101	陸水學雜誌
102	流通
103	流通情報

和雑誌 103種

No.	雑誌名（国外雑誌）
1	Annual review of marine science.
2	Journal of oceanography
3	Journal of plant research
4	Maritime economics & logistics.
5	Ocean yearbook
6	Zoological Scienc

洋雑誌 6種

学生確保の見通し等を記載した書類
人文学部人文学科

【本文目次】

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況…p. 2
 - (1) 学生の確保の見通し…p. 2
 - 1) 定員充足の見込み…p. 2
 - 2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要…p. 3
 - 3) 学生納付金の設定の考え方…p. 5
 - (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況…p. 5
2. 人材需要の動向等社会の要請…p. 8
 - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）…p. 8
 - (2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠…p. 8
 - 1) 全体的な分析…p. 8
 - 2) アンケート結果からの分析…p. 9

学生の確保の見通し等を記載した書類

人文学部人文学科

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

1) 定員充足の見込み

人文学部人文学科の入学定員は、受験生の動向、社会からのニーズ、入学定員を確保できる人数等を踏まえ、教育研究体制を永続的に維持可能な体制として、人文学部人文学科の入学定員を 180 名、収容定員を 720 名として教育研究活動を開始する計画である。

①全国的な傾向からの分析

定員を充足できる根拠は次のとおりである。人文学部人文学科の学位の分野「文学関係」が含まれる「人文科学系」の過去 5 年の学部数、志願倍率、入学定員充足率状況(【資料①－1】【資料①－2】「令和 2 (2020) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団) P. 27・33) をみると、【資料①－1】のとおり、学部数は微増ながら増加傾向であることに加え、志願倍率も 7 倍～9 倍の水準に達しており、定員充足率も 100%を満たしている状況である。このうち、【資料①－2】のとおり、本学科と類似した学科が含まれる可能性がある学部に焦点を絞ってしてみると、令和 2 年度においては、「文学部」は約 9.7 倍、「人文学部」は約 6.7 倍となっており、【資料①－1】の動向と同様に、入学定員を大幅に超える進学希望者が存在することが明らかであり、人文学部人文学科が受け持つ学問分野について、高い需要があると分析される。

②将来性についての分析

東海大学は、全国に 19 学部(令和 3 年現在。募集停止学部を除く。)を展開している大規模大学である。人文学部人文学科は、静岡キャンパス(静岡県静岡市)で学修を進める計画である。静岡キャンパスには海洋学部があり、全国的にも珍しい学部であることから、学生は全国から入学している。また、同様に、全国に 14 校設置されている付属高校からの入学希望者も一定数存在している。

将来的にみると、18 歳人口の減少は避けられない状況であるが、【資料①-3】のとおり大規模大学は、高い水準で志願者を確保していることから、この総合大学・大規模大学のスケールメリットを活用した教育体制により、上記①の傾向が続くものと分析している。

2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

①今後の人口動態

文部科学省「学校基本調査」のデータをもとに分析された、「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(2020 年度版) (リクルート進学総研) に依れば、全国の 18 歳人口の推移は、【資料②】のとおり「2020 年 116.7 万人→2032 年 102.3 万人」となり、「約 14.4 万人／12.3%」が減少するとの予想が立てられている。

一方、静岡県の 18 歳人口の推移【資料③】については、「2020 年 35,112 人→2032 年 29,907 人」と、減少率は「14.8%」であり、全国の減少幅(約 12.3%)に比べて、大きいことが分かる。

しかしながら、【資料④】のとおり、①大学進学者数は微増していること、②地元残留率は低下傾向にあるものの 28.2%を維持し増加傾向であること、③流入元をみると、神奈川県、東京都が多く、特色のある学部・学科においては、県外からの進学者も多い傾向がみられると推察されること、④【資料⑤】の志願倍率等から推察すると、18 歳人口の減少率を反映した場合も、入学定員を超える志願者数を確保できる見込みは高いことから、18 歳人口の減少の影響は生じるものの、入学定員を超える一定数の志願者数を確保することが可能であると、判断することができる。

②類似する分野への大学進学状況

別のデータにおいても検証するため、【資料⑥】「リクルート 入試実態調査」により、学部系統「文・人文・外国語学部」の 10 年間の動向を確認していく。全国的な傾向において、学部数は多少の減少傾向であり、志願倍率は 7.7 倍から 10.2 倍まで上昇し、高い水準になっている。

また、【資料⑦】のとおり、人文学部人文学科と競合する可能性のある、類似した学部学科の動向をみても、高い志願倍率を維持しており、志願者数の確保を見込むことができる。

③既設の学部における定員充足状況

既存学部等の定員充足状況については、【資料⑤】のとおり、人文学部人文学科（入学定員 180 名）の既設学部等にあたる、海洋学部海洋文明学科（入学定員 80 名）の 6 年間の状況をみると、志願者数は安定して 500 名を超えており、入学定員を大幅に超えている状況であることに加え、上記①②の傾向から分析しても、入学定員を超える一定数の志願者の確保は可能であると判断することができる。

しかしながら、入学定員を 100 名増加することに加え、将来的な分析結果として、2021 年度の入学者数等にも反映されているとおり、「海洋文明学科のままでは、入学定員以上の入学者を確保することが厳しい状況になる」ことが想定されたことから、人文学部人文学科の教育体制等を明らかにしつつ、以下④の通り高校生に対してアンケートを実施した。

④人文学部人文学科のアンケート結果について

【資料⑪】のとおり、2020 年 8 月 25 日（火）～2020 年 11 月 4 日（水）にかけて、高校 2 年生に対して本学科への興味、受験意向・入学意向についてのアンケートを株式会社リクルートマーケティングパートナーズ、株式会社ディ・プラスに委託して行った。有効回収数は 58 校、有効回答者数は 8,924 人である。

アンケートの 18 ページのとおり、進学希望者 8,180 人のうち、人文学部人文学科に対して興味がある人数は 1,383 人、そして 19 ページのとおり、人文学部人文学科を受験候補とする人数は 1,844 人であった。まずは、この人文学科を受験候補とする 1,844 人を対象に分析を進める。この 1,844 名は、付属校以外的人数であり、20 ページのとおり「ぜひ入学したい」「入学したい」と答えた人数は全体の 18%、340 名であった。

加えて、21 ページのとおり、付属校の高校の 2 年生には、多少表現の異なる調査票にてアンケートを実施した結果、「第 1～第 3 志望先としたい」人数が 48 名であった。

以上のとおり、付属校以外からの入学意向者数は 340 名、付属校からの志望意向者数は 48 名であり、人文学部人文学科の入学定員 180 名を超えていることから、アンケート結果からも志願者・入学者を確保できるといえる。

３）学生納付金の設定の考え方

納付金については、大学として適切な教育研究環境を構築・維持するのみならず、これからの社会の変化に対応した施設・設備の充実にも対応した、大学経営の根幹に係る財務状況を踏まえるとともに、受益者である学生への説明責任を重視する一方、近隣の他大学の学生納付金の設定状況も勘案した上で、完成年度に収支均衡を図れることを前提に適切に設定した。下表のとおり、【資料⑦】に記載する競合校の学納金と比較しても概ね範囲内に収まっており、適切な納付金であると判断している。

競合する大学 学部学科	入学 定員	入学金	授業料	設備施設費	その他 (諸会計等)	合計
東海大学 人文学部 人文学科	180	200,000	1,216,000		59,200	1,475,200
立命館大学 文学部 人文学科	1,105	200,000	1,118,400		-	1,318,400
東海学園大学 人文学部 人文学科	100	250,000	1,090,000		50,000	1,390,000
同朋大学 文学部 人文学科	50	190,000	1,050,000		21,500	1,261,500

注１）本学以外の各大学の情報は、2021年４月時点の公式ウェブサイトにより調査。

注２）各大学の学生納付金の記載方法は、各大学の公表方法に基づく。

（２）学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けて、大学として、全学的・組織的に学生確保に向けた入試広報を行っている。その方針としては、受験生、保護者、高等学校等の教員に対し、本学の学部・学科等の周知活動を行うだけでなく、大学への進路希望者に対して、体験授業や各学問分野別の紹介等、高校生の進路選択のサポート活動を行うことである。

令和 2（2020）年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種行事の多くが中止となってしまったが、通常は以下①から⑥のとおりオープンキャンパス等を実施している。中止となってしまった令和 2（2020）年度については Web Open Campus と称し、自宅からでも参加できる「360° キャンパスツアー」、「バーチャルキャンパスツアー」等により実際のキャンパス環境についての確認ができるように対応したことに加え、各学科においては、動画にて、学部学科の案内等について、場所・時間に関係なく、「興味を持った受験生がいつでも確認することが出来る環境」を整えている。

また、HP や各種広告媒体等や高校訪問などを通じて、本学への受験、入学者希望者を増やすことを目指すだけでなく、「入試対策講座」の開催や、体験授業等を行い、高校生の進学へのサポート活動も積極的に行っている。

今後の取組としては、コロナ禍により整備された Web 等の媒体と、オープンキャンパス・体験授業等各種イベント等の対面で行う活動を融合し、周知活動等を進める計画である。

①オープンキャンパス（対面、オンライン）計画

- ・2021 年度東海大学開催オープンキャンパス（予定）

対面：6 月 20 日（日）、8 月 21（土）、8 月 22 日（日）、3 月 13 日（日）

〔学科説明、個別面談、キャンパス見学〕

WEB：7 月、8 月

- ・入試対策講座（6 月、8 月、10 月）
- ・進学相談会、キャンパス見学会
- ・全国開催進学相談会（約 350 会場を予定。実施は未定。）

②HP【受験生・高校教員向け】受験生情報サイト・SNS からの情報発信 YouTube チャンネル（東海大学公式）配信動画

■ 東 海 大 学 ホ ー ム ペ ー ジ 受 験 生 情 報 サ イ ト
(<http://www.tokai-adm.jp/>)

■ 東 海 大 学 「 日 本 ま る ご と 学 び 改 革 実 行 プ ロ ジ ェ ク ト 」
(<https://tokai-marugoto.jp/>)

③高校訪問

高校訪問をして、進路・キャリア形成に関する講話を行う。本学への進

学についてのPRだけではなく、進路の選び方、入学試験の種類等、高校生の大学進学をサポートを行っていく計画である。

④大学入試説明会（高校教員対象）：5月～6月にWebでの開催を予定。

⑤各種メディアからの情報発信（受験情報サイト、メディア企画）

⑥出願促進プロモーション

SNS広告、エリアアド、コンビニ広告

交通広告、出願促進DM（全国の接触者対象）

以上の説明のとおり、全国的な「受験者数」や、分野別の「志願者の動向」、既設学部等における「志願者数、志願倍率、入学者数等の実績」に加え、学生確保に向けて具体的な取組を行うことにより、アンケート結果のとおり入学定員を満たすことができると確信することができる。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

人文学部人文学科の教育研究上の目的は、現代社会を構築してきた考え方を基準に、現代社会と将来生じるであろう、問題や変化に対し、新しい価値観を持ち社会に還元していく人材を育成していくことを目指す。

これを実現していくために、現代社会を作り上げてきた考え方や方法を学ぶことに加え、将来生じるであろう「技術の進歩」「問題や課題」を把握し、考えていく力を養っていく。具体的には、「実践的な人文学」として、意味と価値の探求を推し進めたうえで、得られた知識の活用を、様々な分野の垣根を超え、グローバルな視点とローカルな視点を合わせた「グローカル」な実践を通じて身に付け、柔軟な視点から問題点を発見する力、そして解決していくとするマネジメント力を養い、変化に対応する力を身に付けた人材を養成していくことである。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 全体的な分析

2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）に記載されている通り、急激に変化していく現代社会において、産業界においても新しい事業開発や国際化の進展により、「高度な専門知識を持ちつつ普遍的な見方のできる能力と具体的な業務の専門化に対応できる専門的なスキル・知識」を持った人材が求められている。人文学部人文学科においては、様々な分野の垣根を超え、グローバルな視点とローカルな視点を合わせた「グローカル」な実践を通じて専門性や広い知識を身に付け、柔軟な視点から問題点を発見し解決していくマネジメント力を身に付けていくことから、将来的に必要とされる人材像と合致している。

また、【資料⑧】のとおり既設学部等の現状から分析すると、既設学科（海洋学部海洋文明学科）が育成する人材像に合わせて、社会からのニーズは多岐に渡り、多様な分野へ卒業生が就職していることが分かる。

そしてこれらを証明するように、【資料⑨】のとおり、海洋文明学科の就職決定率は 2018 年度 98.4%、2019 年度 94.9%となっている。加えて、本学への求人については、【資料⑩-1】の状況となっており、卒業生の数を大幅に超えている。そして、【資料⑩-2】のとおり、全国から求人が寄せられている。

2) アンケート結果からの分析

【資料⑫】のとおり、2020年10月30日（金）～2020年11月25日（水）にかけて、人文学部人文学科が育成する人材に対しての必要度と実際の採用意向について、企業向けのアンケートを株式会社リクルートマーケティングパートナーズ、株式会社ディ・プラスに委託して行った。有効回収数は179社（35.9%）である。

アンケート結果としては、アンケートの15ページのとおりに人文学部人文学科が養成する人材像に対して、「必要になる」、「ある程度必要になる」と回答した企業は、全体の68.2%、122社であり、人文学部人文学科の養成する人材像、教育研究上の目的は企業からも理解されているといえる。

また、実際の採用意向についても、17ページのとおりに258人の需要がある。当然一部企業に行った調査であることから、さらに多くの需要が見込まれる。

以上の状況から、人文学部人文学科の教育研究上の目的は、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると判断される。

以 上

学生確保の見通し等を記載した書類

人文学部人文学科

【資料目次】

【資料①-1】令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 27）…p. 2

【資料①-2】令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P. 33）…p. 2

【資料①-3】「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）令和2年10月）37 ページより抜粋。…p. 2

【資料②】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 82 2021 年 3 月号「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」（2020 年度版）6 ページより抜粋…p. 3

【資料③】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 89 2021 年 4 月号「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 東海版」（2020 年度版）2 ページより抜粋…p. 3

【資料④】リクルート進学総研マーケットリポート Vol. 89 2021 年 4 月号「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 東海版」（2020 年度版）14 ページより抜粋…p. 4

【資料⑤】既設学科の学生確保の状況…p. 5

【資料⑥】「リクルート入試実態調査」による統計…p. 5

【資料⑦】リクルート「入試実態調査」より集計…p. 6

【資料⑧】既設学科の就職先…p. 6

【資料⑨】既設学科の就職決定率…p. 7

【資料⑩-1】東海大学産業別求人会社数…p. 7

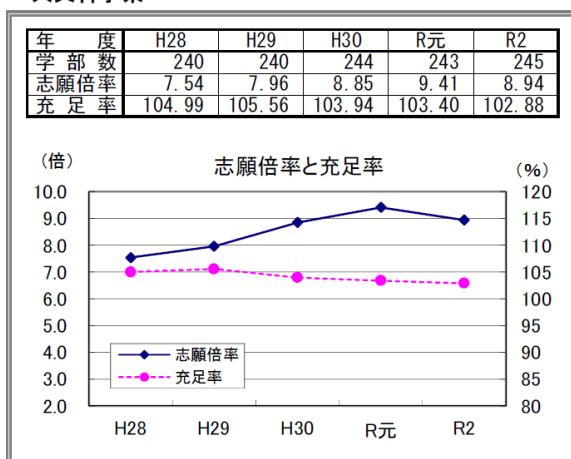
【資料⑩-2】東海大学地域別求人会社数…p. 8

【資料⑪】東海大学 新学部設置に関するアンケート 【高校生】 調査結果報告書…p. 9

【資料⑫】東海大学 新学部設置に関するアンケート 【企業】 調査結果報告書…p. 43

【資料①-1】

人文科学系



「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.27）

【資料①-2】

5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

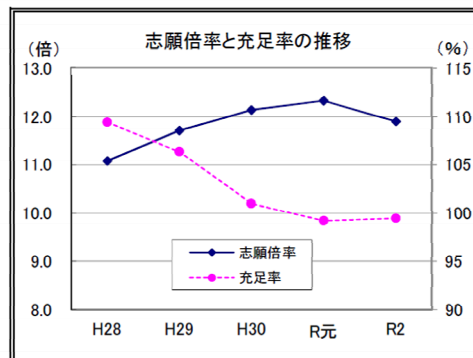
系 統 区 分	集計学部数			入学定員(人)			志願者(人)			入学者数(人)			入学定員充足率(%)		
	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減	R元年度	R2年度	増減
文学部	84	83	△ 1	33,146	32,703	△ 443	340,040	318,865	△ 21,175	34,561	33,471	△ 1,090	104.27	102.35	△ 1.92
人文学部	32	32	0	6,890	6,765	△ 125	45,587	45,370	△ 217	7,064	7,076	12	102.53	104.60	2.07

「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）P.33）

【資料①-3】

大規模大学（収容定員8000人以上）

年度	H28	H29	H30	R元	R2
学校数(校)	43	44	46	46	48
入学定員(人)	184,729	191,963	200,368	201,139	206,375
志願者(人)	2,047,202	2,247,102	2,432,551	2,480,804	2,455,871
受験者(人)	1,958,074	2,150,641	2,330,257	2,367,125	2,329,872
合格者(人)	595,366	583,179	558,289	572,392	647,736
入学者(人)	202,106	204,136	202,399	199,522	205,266
志願倍率(倍)	11.08	11.71	12.14	12.33	11.90
合格率(%)	30.41	27.12	23.96	24.18	27.80
歩留率(%)	33.95	35.00	36.25	34.86	31.69
充足率(%)	109.41	106.34	101.01	99.20	99.46



「令和2（2020）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」

（日本私立学校振興・共済事業団）令和2年10月）37ページより抜粋。

【資料②】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
全体 計	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7
北海道	人数	45,674	45,007	44,276	42,489	41,028	41,853	41,256	41,087	40,148	40,064	39,321	38,302	37,985
	指数	100.0	98.5	96.9	93.0	89.8	91.6	90.3	90.0	87.9	87.7	86.1	83.9	83.2
東北	人数	83,524	80,269	78,146	75,379	71,809	73,104	72,063	71,026	69,024	68,469	66,592	65,270	65,431
	指数	100.0	96.1	93.6	90.2	86.0	87.5	86.3	85.0	82.6	82.0	79.7	78.1	78.3
北関東	人数	66,380	64,677	63,720	61,863	59,667	60,662	60,090	59,374	58,555	57,023	55,612	54,815	53,543
	指数	100.0	97.4	96.0	93.2	89.9	91.4	90.5	89.4	88.2	85.9	83.8	82.6	80.7
南関東	人数	305,457	301,999	299,356	294,497	286,935	296,205	298,790	297,810	295,937	295,254	289,575	289,332	288,670
	指数	100.0	98.9	98.0	96.4	93.9	97.0	97.8	97.5	96.9	96.7	94.8	94.7	94.5
甲信越	人数	49,897	47,817	46,907	45,536	44,033	44,794	44,084	43,684	42,239	42,396	41,412	40,210	39,726
	指数	100.0	95.8	94.0	91.3	88.2	89.8	88.4	87.5	84.7	85.0	83.0	80.6	79.6
北陸	人数	29,004	27,814	27,545	26,692	26,008	26,219	26,256	25,852	25,177	24,413	24,515	23,760	23,613
	指数	100.0	95.9	95.0	92.0	89.7	90.4	90.5	89.1	86.8	84.2	84.5	81.9	81.4
東海	人数	145,478	143,651	140,510	138,309	133,550	137,154	137,505	136,524	134,543	134,593	132,524	129,893	127,045
	指数	100.0	98.7	96.6	95.1	91.8	94.3	94.5	93.8	92.5	92.5	91.1	89.3	87.3
近畿	人数	195,001	190,286	185,626	181,639	175,501	179,248	179,159	178,700	174,848	174,490	171,960	168,797	165,603
	指数	100.0	97.6	95.2	93.1	90.0	91.9	91.9	91.6	89.7	89.5	88.2	86.6	84.9
中国	人数	70,193	67,945	66,821	65,318	63,247	64,858	65,130	64,245	64,060	64,197	63,134	62,001	61,205
	指数	100.0	96.8	95.2	93.1	90.1	92.4	92.8	91.5	91.3	91.5	89.9	88.3	87.2
四国	人数	35,553	34,558	33,841	32,825	31,434	32,184	31,780	31,824	31,182	30,990	30,785	30,031	29,505
	指数	100.0	97.2	95.2	92.3	88.4	90.5	89.4	89.5	87.7	87.2	86.6	84.5	83.0
九州沖縄	人数	141,187	137,117	134,537	132,869	129,658	133,689	136,005	136,447	134,753	136,400	134,447	132,137	131,637
	指数	100.0	97.1	95.3	94.1	91.8	94.7	96.3	96.6	95.4	96.6	95.2	93.6	93.2

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.82 2021 年 3 月号

「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」(2020 年度版) 6 ページより抜粋

【資料③】

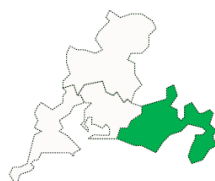
		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年
東海	人数	145,478	143,651	140,510	138,309	133,550	137,154	137,505	136,524	134,543	134,593	132,524	129,893	127,045
	指数	100.0	98.7	96.6	95.1	91.8	94.3	94.5	93.8	92.5	92.5	91.1	89.3	87.3
岐阜	人数	20,069	20,034	19,463	18,656	18,201	18,544	18,223	18,330	17,708	17,835	17,506	17,036	16,522
	指数	100.0	99.8	97.0	93.0	90.7	92.4	90.8	91.3	88.2	88.9	87.2	84.9	82.3
静岡	人数	35,112	34,622	33,864	33,396	32,080	32,752	33,158	32,351	31,780	31,691	31,153	30,449	29,907
	指数	100.0	98.6	96.4	95.1	91.4	93.3	94.4	92.1	90.5	90.3	88.7	86.7	85.2
愛知	人数	72,784	71,537	70,289	69,766	67,495	69,686	70,118	69,819	69,335	69,498	68,456	67,530	66,137
	指数	100.0	98.3	96.6	95.9	92.7	95.7	96.3	95.9	95.3	95.5	94.1	92.8	90.9
三重	人数	17,513	17,458	16,894	16,491	15,774	16,172	16,006	16,024	15,720	15,569	15,409	14,878	14,479
	指数	100.0	99.7	96.5	94.2	90.1	92.3	91.4	91.5	89.8	88.9	88.0	85.0	82.7
全国	人数	1,167,348	1,141,140	1,121,285	1,097,416	1,062,870	1,089,970	1,092,118	1,086,573	1,070,466	1,068,289	1,049,877	1,034,548	1,023,963
	指数	100.0	97.8	96.1	94.0	91.0	93.4	93.6	93.1	91.7	91.5	89.9	88.6	87.7

リクルート進学総研マーケットリポート Vol.89 2021 年 4 月号

「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 東海版」(2020 年度版) 2 ページより抜粋

【資料④】

静岡県



学校数

大学 : 13 (国立 2・公立 3・私立 8)
短期大学 : 6 (公立 2・私立 4)
専門学校 : 81 (公立 10・私立 71)

卒業者数

2011年31,883人→2020年31,854人 (29人減少)

進学者数

大学 : 2011年15,496人→2020年15,759人 (263人増加)
短期大学 : 2011年 1,709人→2020年 1,211人 (498人減少)
専門学校 : 2011年 5,244人→2020年 5,260人 (16人増加)

進学率(現役)

大学 : 2011年48.6%→2020年49.5% (0.9ポイント上昇)
短期大学 : 2011年 5.4%→2020年 3.8% (1.6ポイント低下)
専門学校 : 2011年16.4%→2020年16.5% (0.1ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年26.6%→2020年28.2% (1.6ポイント上昇)
短期大学 : 2011年61.9%→2020年62.6% (0.7ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位愛知 (716人)、2位神奈川 (224人)、3位東京 (214人)
短期大学 : 1位神奈川 (30人)、2位東京 (15人)、3位山梨 (11人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (3,348人)、2位神奈川 (2,104人)、3位愛知 (2,060人)
短期大学 : 1位神奈川 (172人)、2位愛知 (114人)、3位東京 (73人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

リクルート進学総研マーケットリポート Vol189 2021年4月号

「18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 東海版」(2020年度版) 14ページより抜粋

【資料⑤】

既設学部等の学生確保の状況

海洋学部 海洋文明学科（入学定員80名）

	志願者	受験者	合格者	入学者	志願倍率	定員充足率
2016年度	428	408	288	78	5.4	0.97
2017年度	433	417	269	80	5.4	1.00
2018年度	466	455	267	79	5.8	0.98
2019年度	486	467	293	81	6.1	1.01
2020年度	522	505	330	83	6.5	1.03
2021年度	342	333	245	54	4.3	0.68

※既設学部等のうち、規模の大きい学部のみ記載

「リクルート 入試実態調査」による統計

【資料⑥】

- *各年度で志願者数非公表の大学があります
- *分野系統は調査に協力いただきました大学の指定分野になります。
- *下記のエリアは本部設置所在エリアになります

全国

文・人文・外国語学部	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
募集人員	71820	72767	71261	71478	70370	70728	70505	68653	69521	69607
志願者数	552377	558929	571806	569858	564069	588219	616943	687322	736737	710954
志願倍率	7.7	7.7	8.0	8.0	8.0	8.3	8.8	10.0	10.6	10.2

株式会社リクルートマーケティングパートナーズより情報提供

【資料⑦】

学部・学科	大学	都道府県	学部	学科		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
人文学部 人文学科	立命館大学	京都	文学部	人文学科	募集人員	567	1,105	749	992	749	649	707	707	709	759
					志願者数(合計)	8,061	11,417	10,787	11,666	11,702	11,057	10,679	10,883	9,475	11,349
					志願倍率	14.2	10.3	14.4	11.8	15.6	17.0	15.1	15.4	13.4	15.0
	東海学園大学	愛知	人文学部	人文学科	募集人員	200	200	200	100	100	100	100	100	100	100
					志願者数(合計)	774	761	770	439	508	424	464	890	1,079	984
					志願倍率	3.9	3.8	3.9	4.4	5.1	4.2	4.6	8.9	10.8	9.8
	同朋大学	愛知	文学部	人文学科	募集人員	50	65	50	50	50	50	50		60	60
					志願者数(合計)	127	166	132	114	135	139	151		382	563
					志願倍率	2.5	2.6	2.6	2.3	2.7	2.8	3.0		6.4	9.4

リクルート「入試実態調査」より集計／データは株式会社リクルートマーケティングパートナーズより提供

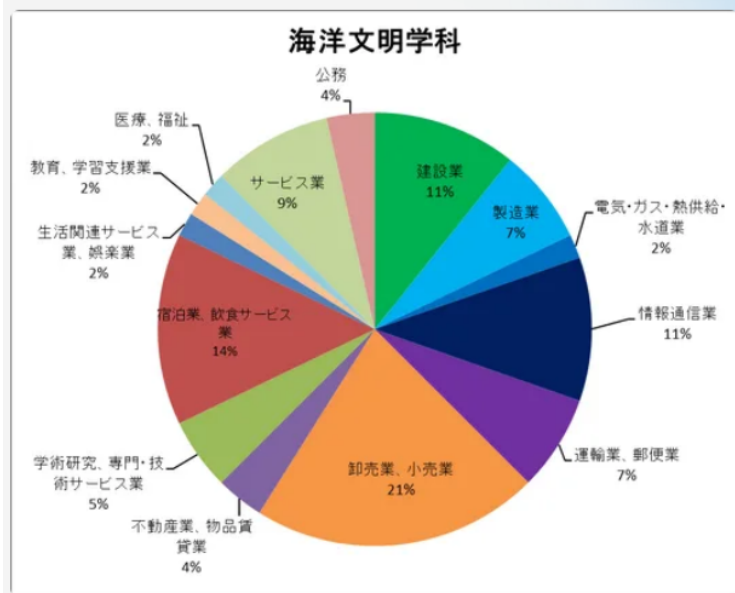
【資料⑧】

主な就職先

大洋エーアンドエフ/大和ハウスリフォーム/マリンフーズ/東海旅客鉄道/鴻池運輸/日本物流センター/カネトモ/日本水族館/吉川水産/大和探査技術/第一技研/松屋フーズ/尾張中央農業協同組合/休暇村協会/長野県庁/愛知県警察本部

※既設学部等のうち、規模の大きい学科のみ紹介。

※ 2019年度



東海大学 HP より抜粋

【資料⑨】

2) 学部

2020年5月15日現在

＜就職決定率の算出方法＞

※就職決定率＝調査時点の就職決定者数／就職希望者数×100

※決定者数＝「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営（フリーランス）」、「起業」、「現職継続（社会人学生等）」、「進学と同時に就職（正規・非正規）」、「臨床研修医」に決定した者

※2018年度決定率は2019年5月21日時点の数値

＜就職希望者数の算出方法＞

※2019年度就職希望者数＝キャリア支援ナビ進路希望登録で第一希望が「企業・団体等」、「教員」、「公務員」、「専門職」、「自営業」、「自営（フリーランス）」、「起業」、「現職継続（社会人学生等）」、「進学と同時に就職（正規・非正規）」の者＋就職希望者の内「3月末までに就職の意志あり」、「就職準備」、「パート・アルバイト」に決定した者

学部	学科	専攻・課程等	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	決定率（％）	2019年度	2018年度
							進学者数	決定率（％）
海洋学部	海洋文明学科		63	59	56	94.9	1	98.4
	環境社会学科		74	64	64	100.0	4	98.6
	海洋地球科学科		69	61	60	98.4	5	98.6
	水産学科	生物生産学専攻	68	63	63	100.0	1	98.3
		食品科学専攻	42	42	42	100.0	0	100.0
	海洋生物学科		94	84	82	97.6	6	98.6
	航海工学科	航海学専攻	20	3	3	100.0	15	100.0
		海洋機械工学専攻	30	29	29	100.0	0	100.0
	合計		460	405	399	98.5	32	98.8

※既設学部等のうち、規模の大きい学科のみ説明。

【資料⑩-1】

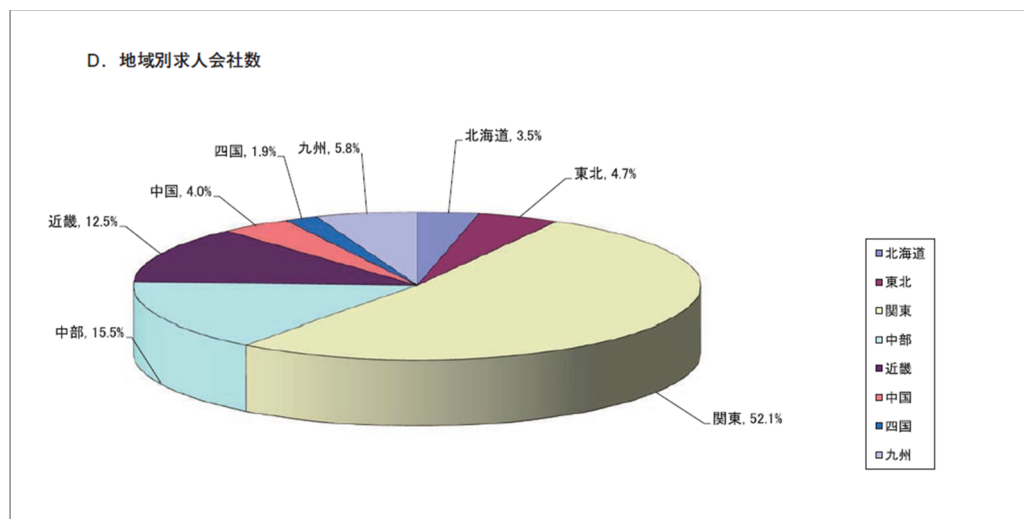
2019年度 東海大学産業別求人会社数

産業		2019年度
メーカー	農業・林業・鉱業・漁業・酪農畜産	66
	建設・住宅・不動産	1,624
	水産・食品	251
	素材・化学	244
	医薬品・医療関連・化粧品	95
	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	63
	鉄鋼・非鉄・金属製品	362
	機械・プラントエンジニアリング	434
	電子・電機	472
	自動車・輸送用機器	329
	精密機器・医療用機器	174
	印刷・パッケージ	84
	OA機器・家具・スポーツ・玩具・その他	136
	小計	4,334
エネルギー		88

産業		2019年度
商社	商社（総合）	93
	商社（水産・食品）	117
	商社（ファッション関連）	62
	商社（素材関連）	52
	商社（化学・医薬品・化粧品）	67
	商社（エネルギー）	20
	商社（精密機器・医療用機器）	156
	商社（自動車・輸送用機器）	212
	商社（家具・インテリア・日用品）	25
	商社（鉄鋼・非鉄・金属製品）	67
流通	その他商社	235
	小計	1,106
	百貨店	16
	コンビニエンス・GMSストア	94
	生活協同組合	26
	専門店（ファッション関連）	111
	専門店（エンターテインメント）	9
	専門店（電器）	18
	専門店（家具・インテリア）	4
	専門店（フード）	23

産業		2019年度
サービス	フードサービス	127
	ホテル・旅行	179
	その他の教育・学習支援業	91
	エンターテインメント	54
	調査・コンサルタント	200
	人材紹介・人材派遣	107
	その他サービス	856
IT・情報処理	小計	1,614
	情報処理・ソフトウェア	1,475
	情報・インターネットサービス	196
情報（通信・マスコミ）	小計	1,671
	通信関連	87
	マスコミ	324
運輸・倉庫	小計	411
	運輸	241
	倉庫	63
小計		304
官公庁・団体		373
教育機関		113
医療・福祉施設		675
専門・技術サービス業		38
合計		11,575

2019年度卒業生数 6,281名



【資料⑪】

東海大学 新学部設置に関するアンケート –静岡キャンパス：人文学部–

【高校生】調査結果報告書 株式会社リクルートマーケティングパートナーズ 株式会社ディ・プラス

東海大学 御中



東海大学 新学部設置に関するアンケート –静岡キャンパス：人文学部–

【高校生】
調査結果報告書

2021年2月



株式会社リクルートマーケティングパートナーズ



株式会社ディ・プラス

調査概要	3
▶ 回答者プロフィール	5
✓ 高校設置者／高校所在エリア	6
✓ 性別／所属クラス	7
✓ 高校卒業後の希望進路（すべて）	8
✓ 高校卒業後の希望進路（第1希望）	9
✓ 進学先として興味がある分野	10
✓ 進学先検討時の重視項目（すべて）	12
✓ 進学先検討時の重視項目（もっとも）	14
▶ 新学部に対する評価	17
✓ 興味度	18
✓ 受験意向	19
✓ 入学意向 ※付属校以外の回答	20
✓ 志望意向 ※付属校の回答	21
✓ 入学したいと思う理由（抜粋）	22
✓ 学部特徴の魅力度	24
— 資料 —	
調査票・提示資料	27
調査票	
提示資料	

調査概要 【高校生】 調査

▶ 調査目的

- ✓ 東海大学が2022年に静岡キャンパス（清水校舎）に設置を計画している「人文学部人文学科」について、高校2年生に興味度および受験意向・入学意向を聴取し受容性を確認する。

▶ 調査対象

- ✓ 静岡県、愛知県の公立・私立高等学校の2年生
 - ・ 調査対象校に事前に調査協力を依頼し、許諾を得た対象校へ調査票を送付。ホームルームなど教室で配布・回収。

▶ 調査期間

- ✓ 2020年8月25日（火）～2020年11月4日（水） ※到着分までを入力・集計対象とした

▶ 有効回収数

- ✓ 発送校数 58校
- ✓ 回収・集計対象校数 53校（91.4％）、有効回答者数 8924人

■ 調査協力校・回収数					(人)				
	全体	男子	女子	無回答		全体	男子	女子	無回答
全体	8924	4197	4505	222					
静岡県・計	2838	1243	1538	57	加藤学園高等学校	217	104	112	1
静岡県・計	2476	1251	1168	57	加藤学園 暁秀高等学校	146	76	63	7
愛知県・計	2473	1104	1304	65	静岡県立伊豆中央高等学校	194	77	117	—
	1137	599	495	43	静岡県立伊東高等学校	107	48	57	2
					静岡県立御殿場南高等学校	190	92	94	4
					静岡県立沼津西高等学校	209	81	125	3
					静岡県立富士宮西高等学校	202	92	107	3
					静岡県立富士東高等学校	239	119	116	4
					静岡県立三島北高等学校	79	26	51	2
					静岡県立三島南高等学校	232	81	144	7
					静岡県立吉原高等学校	104	34	70	—
					日本大学三島高等学校	152	78	70	4
					沼津学園 桐陽高等学校	155	59	94	2
					沼津市立沼津高等学校	71	27	43	1
					沼津精華学園 沼津中央高等学校	207	82	115	10
					飛龍高等学校	121	96	22	3
					富士学園 静岡県富士見高等学校	93	45	48	—
					不二聖心女子学院高等学校	66	—	63	3
					三島学園 知徳高等学校	54	26	27	1
					静岡県立高等学校	313	212	95	6
					静岡県立科学技術高等学校	194	159	25	10
					静岡県立静岡城北高等学校	199	60	138	1
					静岡県立静岡西高等学校	181	89	88	4
					静岡県立島田高等学校	92	37	52	3
					静岡県立榛原高等学校	217	124	89	4
					静岡県立藤枝西高等学校	174	68	102	4
					静岡県立焼津水産高等学校	183	123	56	4
					静岡市立清水桜が丘高等学校	156	66	89	1
					静岡聖光学院高等学校	65	63	—	2
					静岡雙葉高等学校	127	—	125	2
					静岡理科大学 静岡北高等学校	72	37	34	1
					東海大学付属静岡翔洋高等学校	378	213	151	14
					藤枝学園 藤枝順心高等学校	125	—	124	1
					磐田東高等学校	49	24	19	6
					興誠学園 浜松学院高等学校	215	119	83	13
					静岡県西遠女子学園	50	—	50	—
					静岡県立磐田西高等学校	240	95	142	3
					静岡県立掛川東高等学校	77	24	50	3
					静岡県立浜名高等学校	361	160	192	9
					静岡県立浜松南高等学校	194	58	136	—
					静岡県立袋井高等学校	79	42	37	—
					城南静岡高等学校	172	102	64	6
					誠心学園 浜松開誠館高等学校	257	140	110	7
					聖隷クリストファー高等学校	268	108	153	7
					日本体育大学 浜松日体高等学校	314	177	127	10
					浜松聖星高等学校	197	55	141	1
					愛知享栄学園 栄徳高等学校	404	253	131	20
					愛知工業大学名電高等学校	218	84	127	7
					愛知真和学園 愛知啓成高等学校	176	93	77	6
					安城学園 岡崎城西高等学校	140	76	59	5
					河原学園 岡崎学園高等学校	59	43	15	1
					桜丘学園 桜丘高等学校	63	24	37	2
					11 東邦高等学校	77	26	49	2



回答者プロフィール

■ 高校設置者（全体／対象リストより） (％)

			公立	私立
【高校生】全体		(n=8,924)	44.5	55.5
性別	男子	(n=4,197)	42.5	57.5
	女子	(n=4,505)	47.1	52.9
高校所在 エリア別	静岡県・計	(n=7,787)	51.0	49.0
	静岡東部	(n=2,838)	57.3	42.7
	静岡中部	(n=2,648)	52.7	47.3
	静岡西部	(n=2,301)	41.3	58.7
	愛知県・計	(n=1,137)	—	100.0

※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

高校生_設置者

■ 高校所在エリア（全体／高校住所より分類） (％)

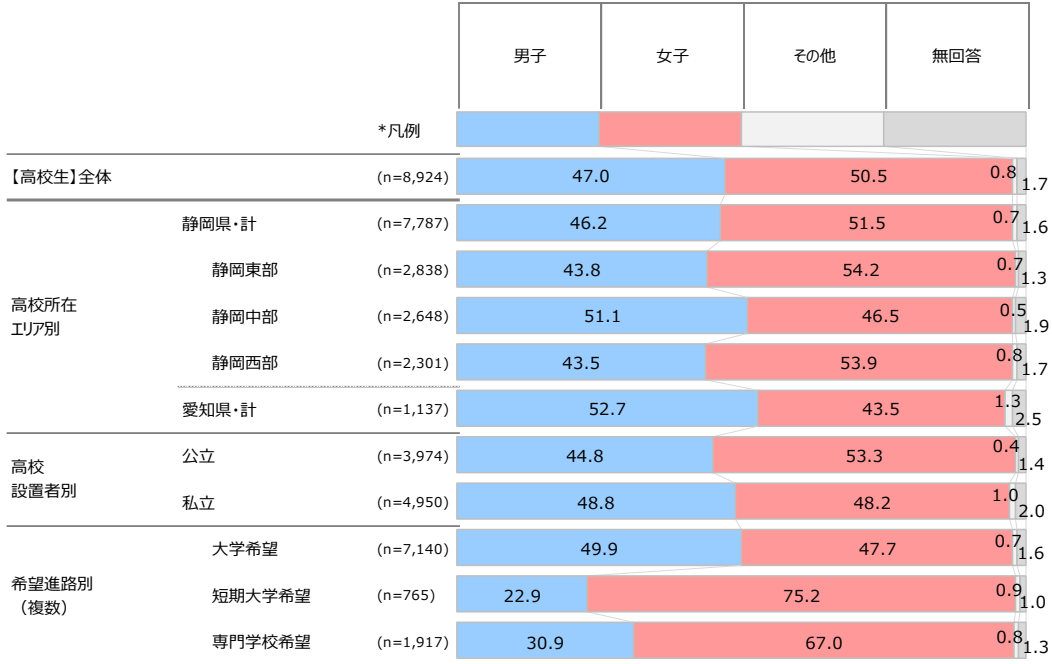
			静岡県・計				静岡県・計
			静岡東部	静岡中部	静岡西部	愛知県	
*凡例							
【高校生】全体		(n=8,924)	31.8	29.7	25.8	12.7	87.3
性別	男子	(n=4,197)	29.6	32.2	23.9	14.3	85.7
	女子	(n=4,505)	34.1	27.3	27.5	11.0	89.0
高校設置者別	公立	(n=3,974)	40.9	35.1	23.9		100.0
	私立	(n=4,950)	24.5	25.3	27.3	23.0	77.0

※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

高校生_高校所在エリア

■性別（全体／単一回答）

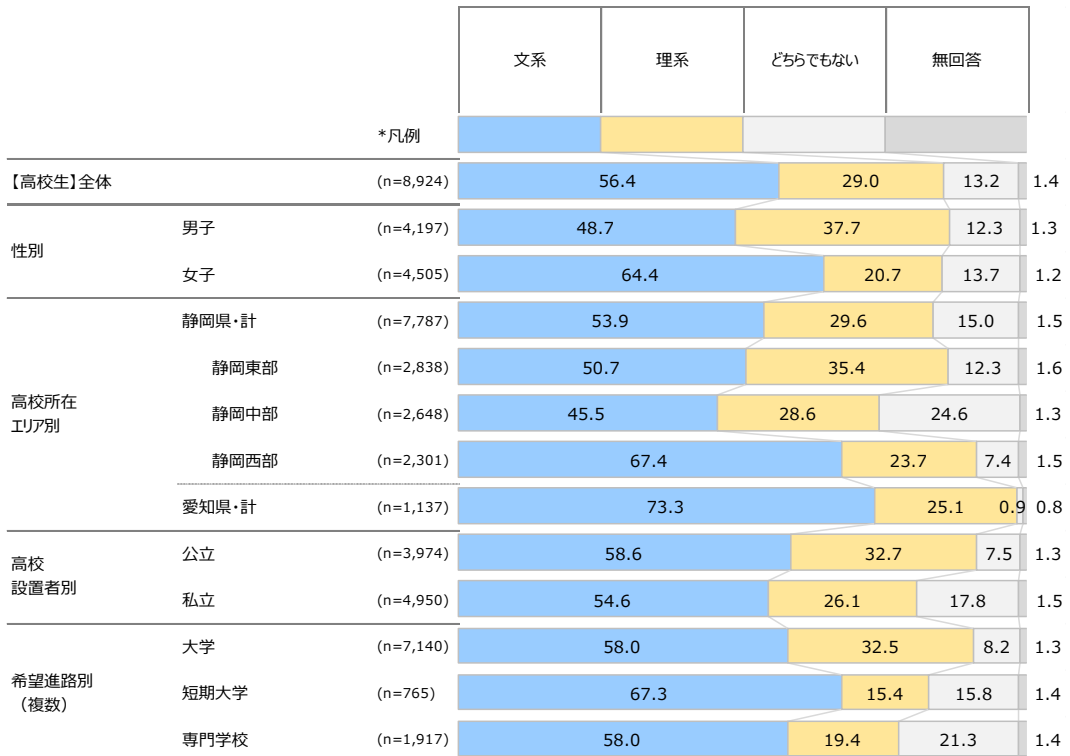
(%)



高校生 F1

■所属クラス（全体／単一回答）

(%)



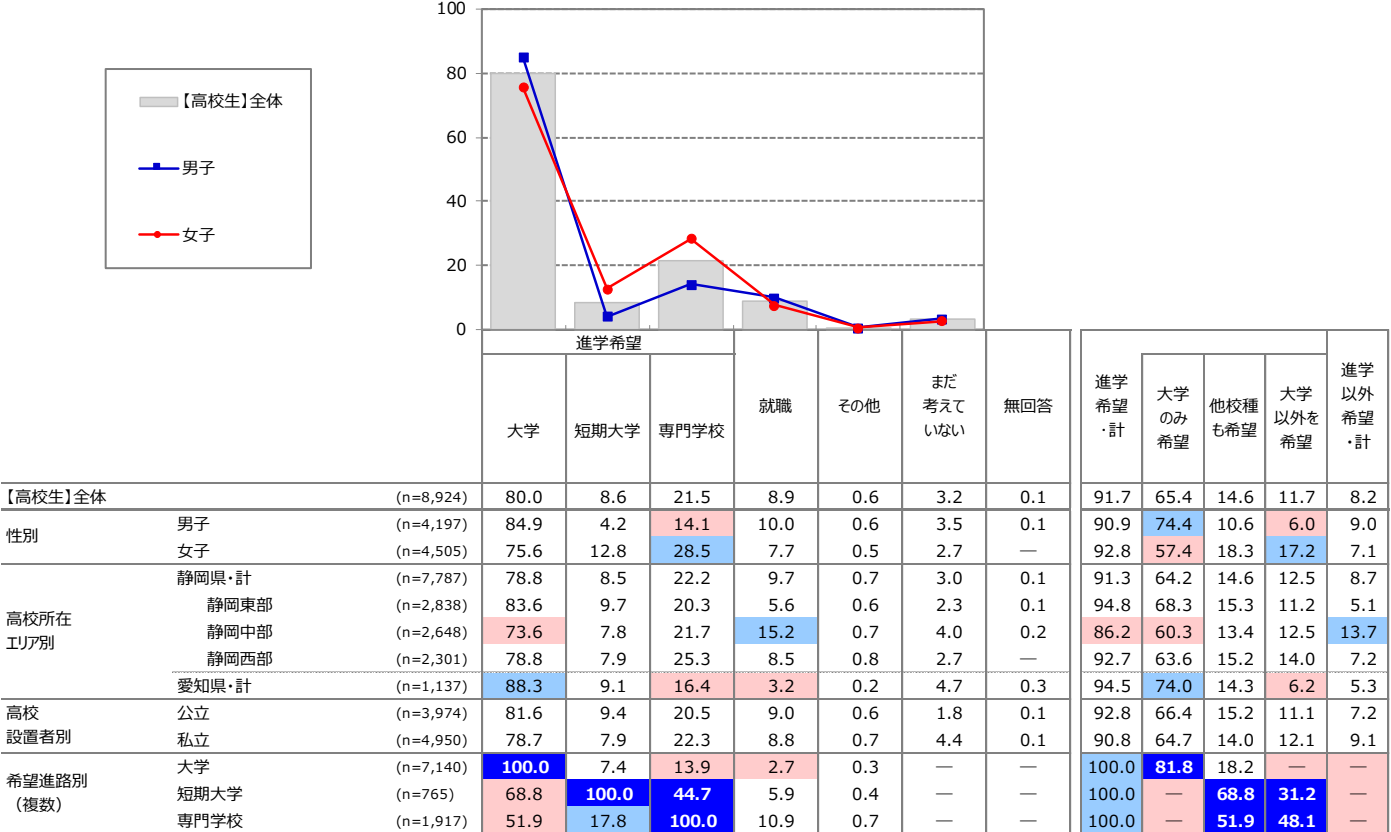
高校生 F2

高校卒業後の希望進路（すべて）

- ▶ 全体の92%が、高校卒業後は「進学希望」。
- ▶ 希望する進学先は、「大学」が80%と最も高く、大きく離れて「専門学校」(22%)が続く。
- ▶ 性別にみると、男子は女子よりも「大学」希望が高くで、「大学のみ」希望の割合をみると男子74%と女子を15ポイント以上上回る。女子は男子に比べ、「専門学校」や「短期大学」希望の割合が高い。
- ▶ 高校所在別にみると、「大学」希望の割合が最も高いのは愛知県（88%）、ついで静岡東部（84%）。
✓ 静岡中部は他層よりも「大学」希望がやや低めで、就職希望が15%と1割を超える。
- ▶ 高校設置者別による違いはあまり見られない。

■高校卒業後の希望進路（全体／複数回答）

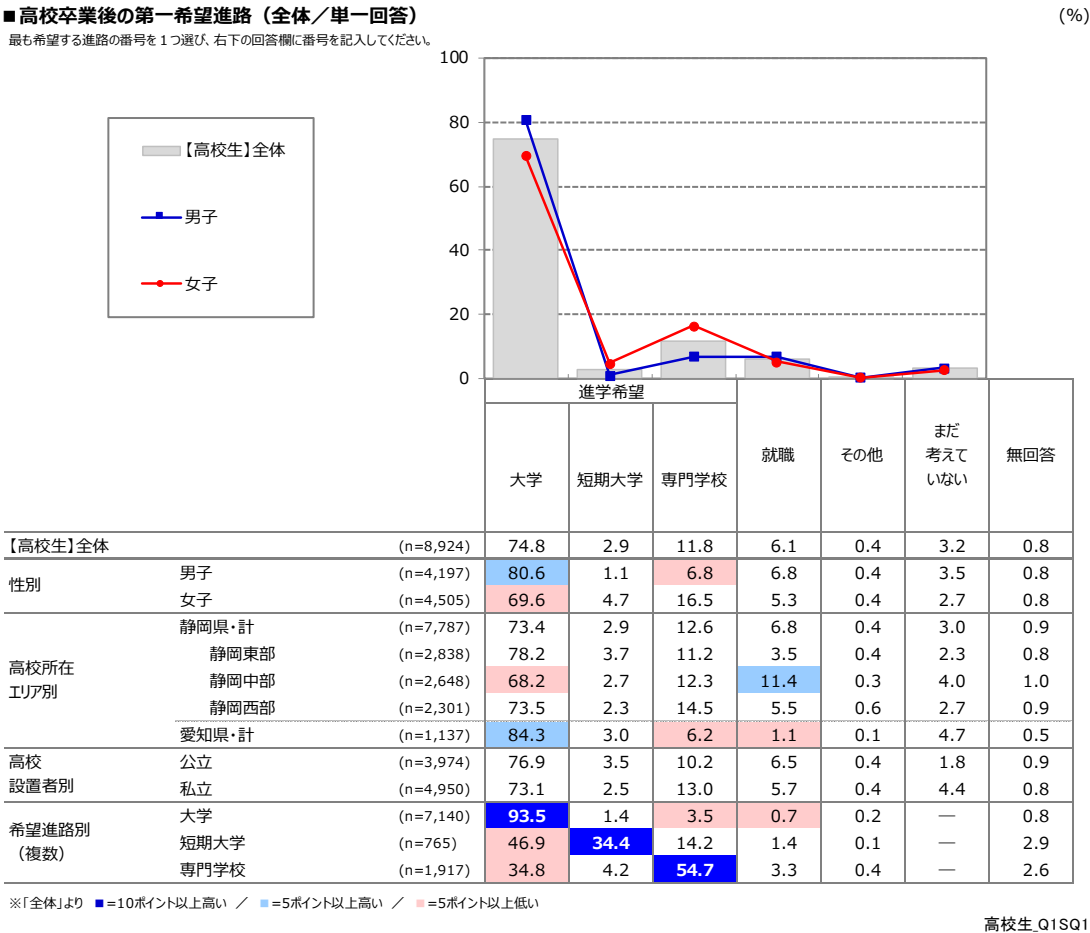
あなたは高校を卒業した後、どの進路に進みたいと思っていますか。以下、あてはまるものすべてに○をつけてください。



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ◆=5ポイント以上高い / □=5ポイント以上低い

高校卒業後の希望進路（第1希望）

- ▶ 全体の75%が「大学」進学を第一希望。
- ▶ ついで「専門学校」（12%）
- ▶ 性別にみると、男女とも第一志望として最も高いのは「大学」。
 - ✓ 男子は、①大学（81%）、②専門学校、就職（7%）と、ほぼ大学に集中。
 - ✓ 女子は、①大学（70%）、②専門学校（17%）
- ▶ 高校所在別にみると、「大学」第一希望の割合が8割を超えるのは愛知県(84%)。
 - ✓ 複数回答の場合と同様、静岡中部は「大学」第一希望の割合が68%と他に比べ低く、就職を第一希望とする者が1割を超える。
- ▶ 高校設置者別による違いはあまり見られない。
- ▶ 希望進路別（複数）にみると、大学を希望していた層では94%が「大学」を第一希望として挙げている。



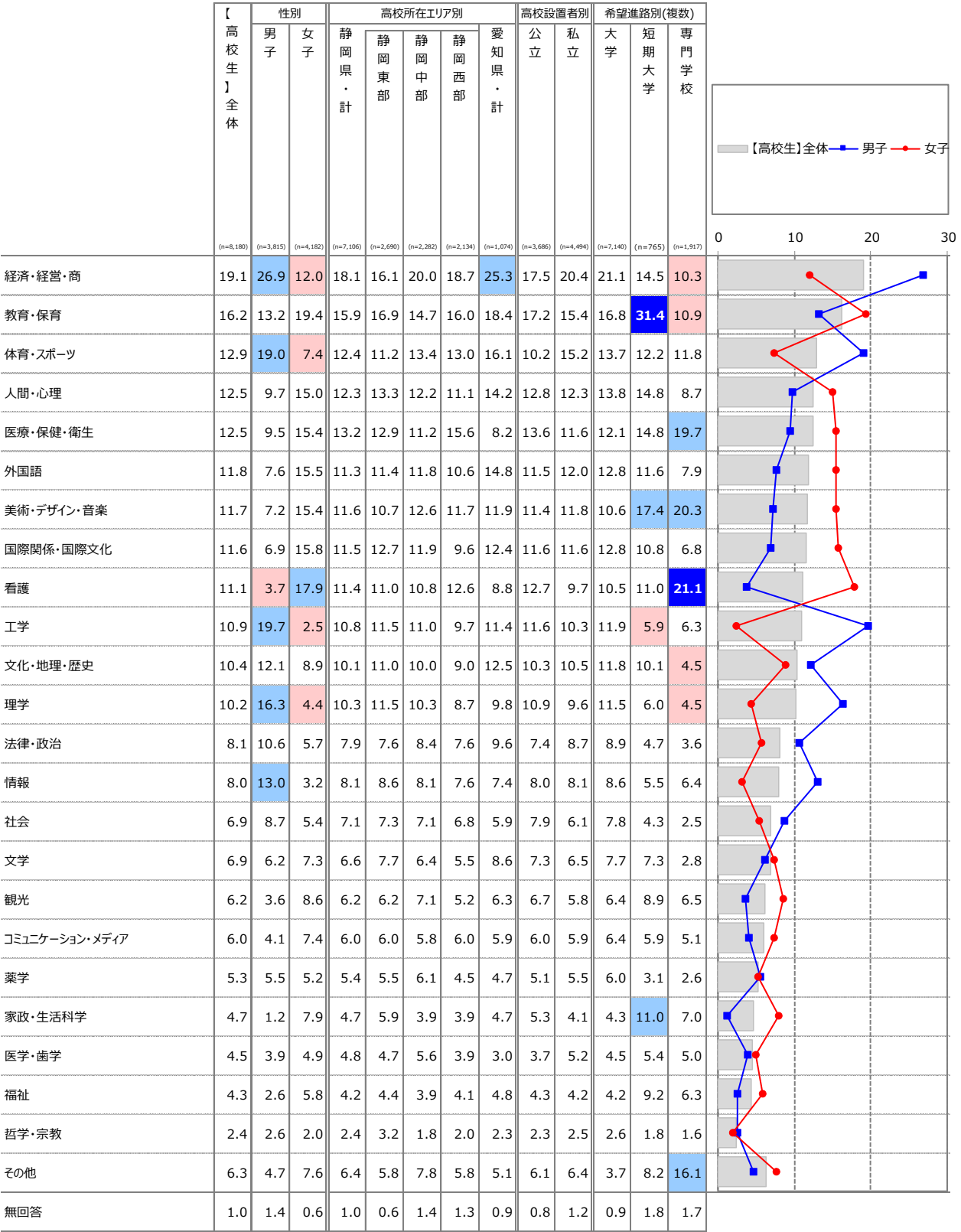
進学先として興味がある分野

- ▶ 進学希望者の興味分野として最も高かったのは、「経済・経営・商」(19%)。以下、②「教育・保育」(16%)、③「体育・スポーツ」「人間・心理」「医療・保健・衛生」(13%) とつづく。
- ▶ 男子は、「経済・経営・商」が最多(27%)。
 - ✓ 次いで②「工学」(20%)、③「体育・スポーツ」(19%)、④「理学」(16%)、⑤「教育・保育」「情報」(13%)
- ▶ 女子は、「教育・保育」が最多(19%)。
 - ✓ 次いで②「看護」(18%)、③「国際関係・国際文化」「外国語」(16%)、⑤「医療・保健・衛生」「美術・デザイン・音楽」(15%)
- ▶ 希望進路別にみると、大学希望者では全体値では上位5項目に入らなかった「外国語」「国際関係・国際文化」が5位にあがってくる。
 - ✓ 「文化・地理・歴史」も同様に、大学希望者での順位が上昇する分野。

■希望進路分野（進学希望者／複数回答）

(%)

あなたは、進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。あてはまるものをすべてに○をつけてください。



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

※「全体」降順ソート

高校生_Q2

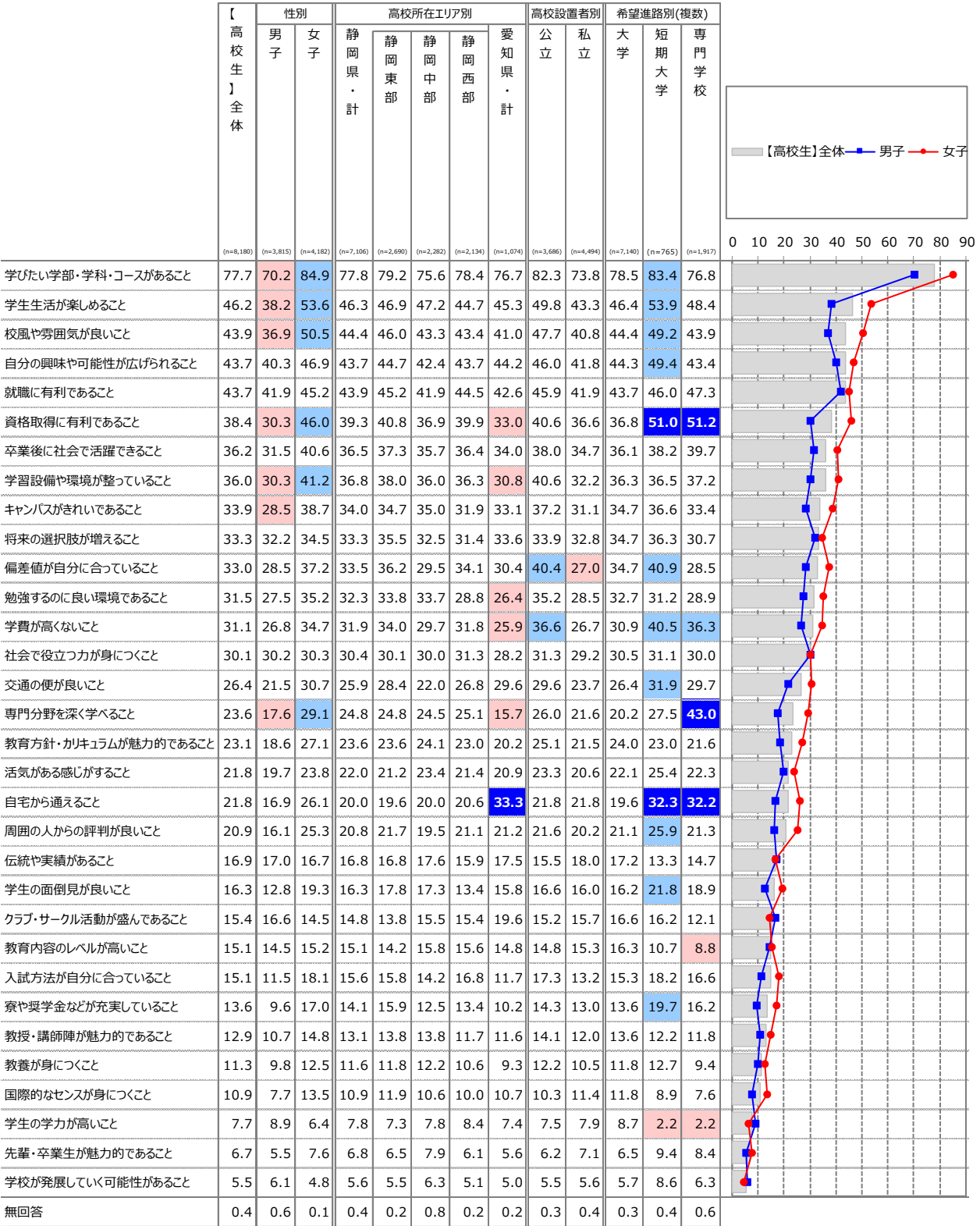
進学先検討時の重視項目（すべて）

- ▶ 進学希望者が進学先を選ぶ際に重視するのは、「学びたい学部・学科・コースがあること」が最多（78%）。
 - ✓ 性別、高校所在エリア別、高校設置者、希望進路別、いずれの層をみても、トップは同様。
- ▶ 以下、大きく離れて
 - ② 「学生生活が楽しめること」(46%)
 - ③ 「校風や雰囲気が良いこと」
「自分の興味や可能性が上げられること」
「就職に有利であること」 (44%)
- ▶ 男女別にみると、全般的に男子よりも女子のほうが重視度が高い。
 - ✓ 「学生生活が楽しめる」「資格取得に有利」は、男女差が15ポイント以上生じる項目。
 - ✓ 反対に、全体値30%以上の項目においてほぼ男女同率なのは「将来の選択肢が増える」「社会で役立つ力が身に付く」など。
- ▶ 希望進路別にみると、大学希望者に比べ、（女子が多くを占める）短期大学希望者では全般的に重視度が高い項目が多くなる。
 - ✓ 大学希望者は上位6項目までは全体値と同様。以降、若干順位の入れ替えはあるがほぼ同傾向。

■進学先検討時の重視項目（進学希望者／複数回答）

あなたが進学先を選ぶ際に、どのようなことを重視しますか。以下、あてはまる項目すべてに○をつけてください。

(%)



※「全体」より ■ =10ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上低い

※「全体」降順ソート

高校生 Q3

進学先検討時の重視項目（もっとも）

- ▶ トップは、複数回答時と同様に「学びたい学部・学科・コースがあること」（33%）
- ▶ 2位以下の順位は入れ替わりが見られる。

②「就職に有利であること」（9%）	（複数回答では同率3位）
③「自分の興味や可能性が上げられること」（7%）	（複数回答では同率3位）
④「資格取得に有利であること」（6%）	（複数回答では6位）
⑤「学生生活が楽しめること」（5%）	（複数回答では2位）

✓ 複数回答時に同率3位の「校風や雰囲気が良いこと」は、7位にダウン。

■進学先検討時の重視項目：最も重視（進学希望者／単一回答）

(%)

最も重視しているものを1つ選び、右下の回答欄に番号を記入してください。

	【 高 校 生 】 全 体	性別		高校所在エリア別						高校設置者別		希望進路別(複数)			重 視 学 項 目 検 討 複 数 の (%)
		男 子	女 子	静 岡 県 ・ 計	静 岡 東 部	静 岡 中 部	静 岡 西 部	愛 知 県 ・ 計	公 立	私 立	大 学	短 期 大 学	専 門 学 校		
	(n=8,180)	(n=3,815)	(n=4,182)	(n=7,106)	(n=2,690)	(n=2,282)	(n=2,134)	(n=1,074)	(n=3,686)	(n=4,494)	(n=7,140)	(n=765)	(n=1,917)	(n=8,180)	
学びたい学部・学科・コースがあること	32.9	29.0	36.7	32.9	33.1	31.6	34.2	32.5	37.1	29.4	34.3	32.3	27.2	77.7	
就職に有利であること	8.5	9.4	7.7	8.3	8.0	8.5	8.5	9.6	7.2	9.6	8.2	7.7	9.2	43.7	
自分の興味や可能性が広げられること	7.2	8.3	6.2	7.0	7.0	7.3	6.7	8.3	6.9	7.4	7.4	5.9	5.7	43.7	
資格取得に有利であること	5.6	4.7	6.5	6.0	6.7	5.0	6.1	3.4	5.5	5.8	5.1	8.6	9.0	38.4	
学生生活が楽しめること	5.4	5.2	5.6	5.3	5.8	5.1	4.8	6.1	5.1	5.6	5.3	7.5	6.0	46.2	
卒業後に社会で活躍できること	4.1	4.3	4.1	4.0	4.1	3.9	4.1	4.7	3.9	4.3	4.0	3.7	5.1	36.2	
将来の選択肢が増えること	3.8	5.0	2.8	3.7	3.5	3.9	3.8	4.3	3.4	4.1	4.0	3.4	3.2	33.3	
学費が高くないこと	3.8	3.2	4.1	3.9	4.1	3.8	3.7	3.3	4.2	3.5	3.6	5.6	5.4	31.1	
社会で役立つ力が身につくこと	3.0	3.8	2.4	3.2	2.9	3.2	3.5	2.3	3.1	3.0	3.0	2.5	2.7	30.1	
校風や雰囲気が良いこと	2.9	2.7	3.2	2.9	3.1	2.7	2.9	3.2	2.4	3.4	2.8	3.9	3.1	43.9	
偏差値が自分に合っていること	2.8	3.4	2.2	2.7	2.7	2.1	3.3	3.3	3.3	2.3	3.0	2.6	1.8	33.0	
専門分野を深く学べること	2.8	2.6	3.0	3.0	2.7	3.5	2.8	1.5	3.3	2.4	1.8	2.1	6.8	23.6	
自宅から通えること	2.5	2.1	2.9	2.3	2.7	1.7	2.6	3.4	2.3	2.7	2.1	3.5	3.9	21.8	
伝統や実績があること	1.8	2.4	1.1	1.8	1.6	2.5	1.5	1.3	1.3	2.2	1.8	1.0	1.1	16.9	
教育方針・カリキュラムが魅力的であること	1.4	1.1	1.6	1.4	1.4	1.6	1.2	1.0	1.6	1.2	1.4	1.6	1.1	23.1	
勉強するのに良い環境であること	1.4	1.3	1.5	1.5	1.5	1.6	1.4	1.0	1.4	1.4	1.4	0.9	1.2	31.5	
学習設備や環境が整っていること	1.3	1.4	1.1	1.3	1.3	1.6	0.8	1.3	1.2	1.3	1.2	0.9	1.3	36.0	
教育内容のレベルが高いこと	1.0	1.0	0.7	1.0	1.0	1.1	0.8	0.8	0.6	1.2	1.0	0.3	0.6	15.1	
クラブ・サークル活動が盛んであること	0.9	1.4	0.4	0.8	0.4	1.1	1.0	1.8	0.4	1.4	1.0	0.4	0.3	15.4	
国際的なセンスが身につくこと	0.7	0.6	0.9	0.7	1.0	0.7	0.4	0.8	0.4	1.0	0.8	0.1	0.4	10.9	
活気がある感じがすること	0.6	0.7	0.6	0.7	0.6	0.7	0.7	0.4	0.4	0.8	0.6	0.5	0.7	21.8	
キャンパスがきれいであること	0.6	0.7	0.4	0.5	0.3	0.5	0.6	1.2	0.4	0.7	0.6	0.4	0.4	33.9	
入試方法が自分に合っていること	0.5	0.3	0.8	0.5	0.4	0.7	0.5	0.5	0.4	0.6	0.6	0.7	0.4	15.1	
教養が身につくこと	0.5	0.7	0.3	0.5	0.4	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6	0.1	0.1	11.3	
交通の便が良いこと	0.5	0.6	0.5	0.5	0.4	0.3	0.8	0.6	0.5	0.6	0.5	0.7	0.3	26.4	
教授・講師陣が魅力的であること	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.7	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	—	0.2	12.9	
学生の学力が高いこと	0.4	0.6	0.2	0.5	0.4	0.6	0.4	0.1	0.4	0.5	0.5	0.1	0.1	7.7	
学生の面倒見が良いこと	0.4	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	0.3	0.5	0.5	0.4	0.4	0.8	0.7	16.3	
寮や奨学金などが充実していること	0.3	0.2	0.5	0.4	0.3	0.4	0.4	0.1	0.2	0.4	0.3	0.5	0.2	13.6	
周囲の人からの評判が良いこと	0.3	0.4	0.2	0.3	0.4	0.4	0.2	0.4	0.3	0.3	0.3	0.5	0.2	20.9	
学校が発展していく可能性があること	—	0.1	—	—	0.1	—	—	0.1	0.1	—	0.1	—	0.1	5.5	
先輩・卒業生が魅力的であること	—	0.1	—	0.1	—	—	0.1	—	0.1	—	—	—	0.1	6.7	
無回答	1.6	1.9	1.2	1.5	1.4	2.1	1.1	1.7	1.4	1.7	1.5	1.2	1.6	0.4	

※「全体」より ■ =10ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上低い

※「全体」降順ソート

高校生_Q3SQ1



新学部に対する評価

＜人文学部＞

興味度：人文学部 人文学科

以下は進学希望者（8180人）に絞った回答結果をみる

- ▶ 「人文学部 人文学科」に対し、進学先として「興味がある」のは進学希望者の3%。
「やや興味がある」を含めた「興味あり・計」は17%。
✓ 人数に換算すると、「興味あり・計」は1383人。
- ▶ 「興味あり・計」の割合は、男子(14%)よりも女子(20%)のほうが高い。
- ▶ 高校所在エリア別による違いはあまり見られない。
- ▶ 高校設置者別にみると、私立よりも公立の方が「興味あり・計」が高め。
✓ いずれも30%前後。
- ▶ 希望進路別にみると、大学希望者と短大希望者の「興味あり・計」の割合が同率（18%）
✓ 大学希望者の「興味あり・計」を人数に換算すると1315人。

■興味度：人文学部 人文学科（進学希望者／単一回答）

卒業後の進路として、東海大学「人文学部人文学科」にどの程度興味がありますか。
最もあてはまる回答を1つ選び○をつけてください。

		興味あり・計					興味なし・計		興味なし・計		興味なし・計		実数
		興味がある	やや興味がある	どちらともいえない	あまり興味はない	興味はない	無回答	興味あり・計	興味なし・計	興味あり・計	興味なし・計	興味あり・計	
*凡例													
【高校生】全体		(n=8,180)	2.8 14.1	23.1	22.0	37.6	0.4	16.9	59.6			1,383	
性別	男子	(n=3,815)	2.6 11.6	23.4	19.7	42.1	0.6	14.2	61.8			540	
	女子	(n=4,182)	3.0 16.7	23.0	24.5	32.4	0.3	19.8	57.0			826	
高校所在 エリア別	静岡県・計	(n=7,106)	2.9 14.3	23.1	22.2	37.1	0.4	17.2	59.3			1,220	
	静岡東部	(n=2,690)	3.0 15.0	24.2	23.0	34.4	0.3	18.0	57.5			485	
	静岡中部	(n=2,282)	3.3 13.2	22.6	20.6	39.5	0.7	16.5	60.2			376	
	静岡西部	(n=2,134)	2.2 14.6	22.3	22.9	37.9	0.2	16.8	60.7			359	
	愛知県・計	(n=1,074)	2.3 12.8	23.1	20.3	41.0	0.5	15.2	61.3			163	
高校 設置者別	公立	(n=3,686)	3.1 16.1	23.3	23.5	33.6	0.4	19.3	57.1			710	
	私立	(n=4,494)	2.5 12.4	23.0	20.7	40.9	0.5	15.0	61.6			673	
希望進路別 (複数)	大学	(n=7,140)	3.1 15.3	23.4	22.2	35.7	0.4	18.4	57.8			1,315	
	短期大学	(n=765)	3.5 14.9	28.0	24.6	28.6	0.4	18.4	53.2			141	
	専門学校	(n=1,917)	1.4 9.7	24.0	22.0	42.4	0.5	11.1	64.4			213	

高校生_Q4

受験意向：人文学部 人文学科

▶ 「人文学部 人文学科」を、「ぜひ受験したい～受験先の候補に入る」と回答した「受験候補・計」は進学希望者の24%。「興味あり・計」を上回る。

✓人数に換算すると、「受験候補・計」は1844人。

▶ 「受験候補・計」の割合は、男女ほぼ同程度。

▶ 高校所在エリア別にみると、最も「受験候補・計」が高かったのは静岡東部(27%)。

▶ 高校設置者別にみると、私立よりも公立の方が「受験候補・計」が高い。

✓いずれも30%前後。

▶ 希望進路別にみると、最も「受験候補・計」の割合が高かったのは短大希望者（29%）

✓大学希望者では26%。人数に換算すると1758人。

▶ 興味度別にみると、興味あり層では74% が「受験候補・計」となる。

✓人数に換算すると947人。

■ 受験意向：人文学部 人文学科（進学希望者／単一回答）※付属校以外より回答

(%) (人)

あなたは東海大学「人文学部人文学科」をどの程度受験したいと思いますか。

最もあてはまる回答を1つ選び○をつけてください。

		受験候補・計									実数		
		受験意向あり・計											
		ぜひ 受験したい	受験したい	受験先の 候補には入る	受験したいと 思わない	無回答		受験 意向あり ・計	受験 候補 ・計	受験 意向あり ・計	受験 候補 ・計		
*凡例													
【高校生】全体		(n=7,827)	0.6 1.2 21.7	75.7			0.7	1.8	23.6	143	1,844		
性別	男子	(n=3,613)	0.8 1.3 22.1	74.8			0.9	2.1	24.2	77	876		
	女子	(n=4,044)	0.4 1.1 21.7	76.3			0.5	1.5	23.2	62	939		
高校所在 エリア別	静岡県・計	(n=6,753)	0.6 1.3 22.2	75.2			0.7	1.9	24.1	129	1,628		
	静岡東部	(n=2,690)	0.7 1.6 24.6	72.5			0.6	2.2	26.9	60	723		
	静岡中部	(n=1,929)	0.6 1.0 21.4	75.8			1.3	1.6	22.9	30	442		
	静岡西部	(n=2,134)	0.5 1.3 19.9	77.9			0.4	1.8	21.7	39	463		
	愛知県・計	(n=1,074)	0.8 0.5 18.8	79.4			0.5	1.3	20.1	14	216		
高校 設置者別	公立	(n=3,686)	0.6 1.7 26.0	71.1			0.6	2.3	28.3	83	1,043		
	私立	(n=4,141)	0.7 0.8 17.9	79.9			0.8	1.4	19.3	60	801		
希望進路別 (複数)	大学	(n=6,836)	0.7 1.3 23.7	73.7			0.6	2.0	25.7	136	1,758		
	短期大学	(n=734)	0.5 2.6 25.9	70.2			0.8	3.1	29.0	23	213		
	専門学校	(n=1,807)	0.3 1.2 14.8	82.4			1.3	1.5	16.3	27	295		
興味度別	興味あり・計	(n=1,285)	2.8 5.8	65.1			26.1	0.2	8.6	73.7	111	947	
	どちらともいえない	(n=1,815)	0.2 0.7 32.7	66.0				0.4	0.9	33.6	16	609	
	興味なし・計	(n=4,695)	0.2 0.1 5.7	93.5				0.5	0.3	6.0	16	284	

※「全体」より ■ =10ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上高い / ■ =5ポイント以上低い

高校生 Q6

入学意向：人文学部 人文学科 ※付属校以外の回答

以下は進学希望者かつ当該学科を受験候補とする者に絞った回答結果をみる

- ▶ 「人文学部 人文学科」を、「ぜひ入学したい+入学したい」と回答した入学意向者は、当該学科を受験候補とする者の18%。
✓人数に換算すると、「入学意向あり・計」は340人。
- ▶ 「入学意向あり・計」の割合は、男子(17%)よりも女子(20%)のほうが高め。
- ▶ 高校所在エリア別にみると、最も「入学意向あり・計」が高かったのは静岡西部（21%）。
✓ 受験候補・計では静岡東部の方が高かったが、入学意向ではわずかに逆転。
- ▶ 高校設置者別にみると、公立、私立とも同程度。
- ▶ 希望進路別にみると、「入学意向あり・計」が最も高いのは短大希望者（23%）、ついで専門学校希望者（21%）。大学希望者では19%。
✓ 大学希望者における「入学意向あり・計」を人数に換算すると325人。
- ▶ 受験意向別にみると、受験意向あり層では69% が「入学意向あり」。

■ 入学意向：人文学部 人文学科（進学希望かつ当該学科受験候補者／単一回答） ※付属校以外

東海大学「人文学部 人文学科」を受験して合格した場合、あなたはどの程度入学したいと思いますか。

最もあてはまる回答を1つ選び○をつけてください。

		入学検討・計							実数	
		入学意向あり・計		併願先の 可否によって 入学を検討 したい	入学先として は考えない	無回答			入学 意向あり ・計	入学 検討 ・計
		ぜひ 入学したい	入学したい							
*凡例										
【高校生】全体	(n=1,844)	3.7	14.8	70.1		11.5			18.4	88.5
									340	1,632
性別	男子 (n=876)	3.4	13.6	72.9		10.0			17.0	90.0
									149	788
	女子 (n=939)	3.8	15.8	67.6		12.8			19.6	87.2
									184	819
高校所在 エリア別	静岡県・計 (n=1,628)	3.5	15.5	69.7		11.2			19.0	88.8
	静岡東部 (n=723)	3.2	15.8	68.0		13.0			18.9	87.0
	静岡中部 (n=442)	2.9	14.3	72.2		10.6			17.2	89.4
	静岡西部 (n=463)	4.5	16.4	70.0		9.1			21.0	90.9
	愛知県・計 (n=216)	5.1	8.8	72.7		13.4			13.9	86.6
高校 設置者別	公立 (n=1,043)	3.1	15.0	71.8		10.2			18.0	89.8
	私立 (n=801)	4.5	14.5	67.8		13.2			19.0	86.8
希望進路別 (複数)	大学 (n=1,758)	3.5	15.0	70.5		11.0			18.5	89.0
	短期大学 (n=213)	4.2	18.8	64.3		12.7			23.0	87.3
	専門学校 (n=295)	3.7	17.6	64.1		14.6			21.4	85.4
受験意向別	受験意向あり・計 (n=143)	28.0	41.3	25.2	5.6				69.2	94.4
	受験先の候補には入る (n=1,701)	1.6	12.5	73.8	12.0				14.2	88.0

※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

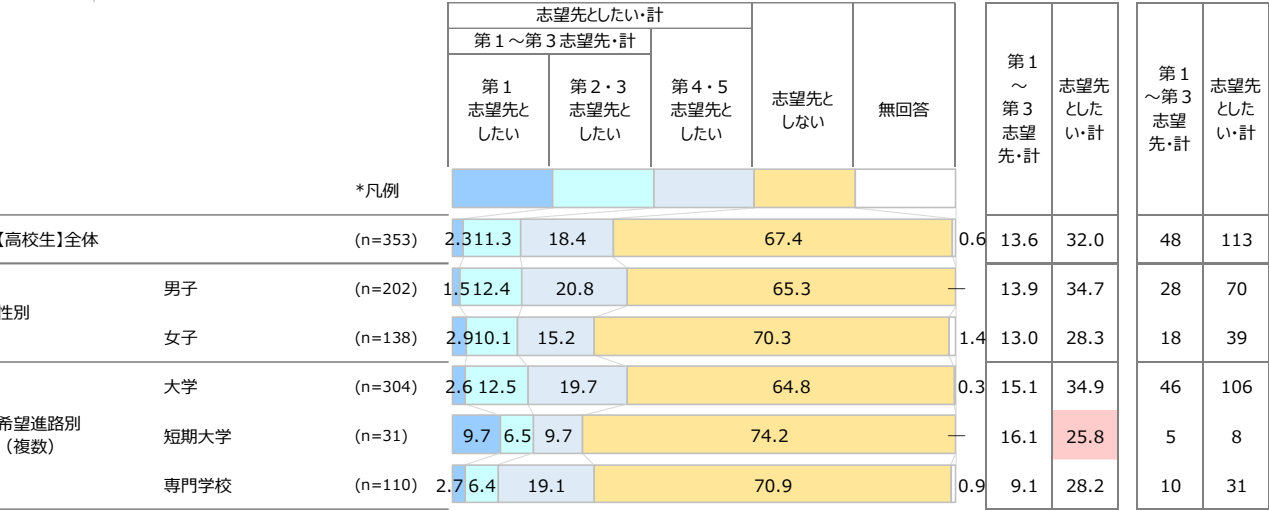
高校生_Q7_1

東海大学の付属高校の生徒には、他高校と多少表現の異なる調査票を配布したため、別途集計した。
(対象は付属校に在籍する進学希望者)

- ▶ 「人文学部 人文学科」を、「第1～第3志望先としたい」と回答した者は、付属校生徒において進学を希望する者の14%。
✓ 人数に換算すると、「第1～第3志望先としたい」と回答した者は48人。
- ▶ 男女差はほぼ見られない。
- ▶ 希望進路別にみると、専門学校希望者のみ「第1～第3志望先としたい」割合が1割を下回る

■ 志望意向：人文学部 人文学科（進学希望者／単一回答）※付属校生徒のみ (％) (人)

あなたは東海大学「人文学部 人文学科」を志望先にしたいと思いますか。
最もあてはまる回答を1つ選び○をつけてください。



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

高校生 Q7.2

上記と前頁記載の結果を合わせ、
人文学部人文学科への入学意向（志望意向）を示した者の総数を算出すると

- ① 付属校以外からの入学意向者数 340人
- ② 付属校からの志望意向者数 48人 →→ ① + ② = 388人

★“人文”に興味／興味のあるジャンル・分野

- ・ 人文学科という学科を初めてきて興味をもった。（静岡西部、女子、入学意向＝◎）
- ・ 人文学部人文学科という新しいものが作られ、色々なものが勉強でき、社会や自分に役立てられそうだから。（静岡中部、男子、入学意向＝○）
- ・ 資料を読んでみて、人文学部に興味が湧いた。（静岡東部、女子、入学意向＝○）

★グローバルな学びができる／幅広い学びが可能

- ・ 留学や外国の人との関わり・グローバルについてとても興味があるから。自分の学びたいことを全て学べと思うから。（静岡西部、女子、入学意向＝◎）
- ・ 私が目標としている国際関係の仕事に役立つような講義や、グローバルな学習があるのでとても興味深いなと思ったからです。（静岡西部、女子、入学意向＝◎）
- ・ 人文学部の「グローバルな学び」や世界の文化や歴史などの幅広く学んでみたいから。（静岡東部、女子、入学意向＝○）
- ・ 新しい学部で、すごく自分の学びの幅が広がりそうだし、楽しそうだから。（静岡西部、女子、入学意向＝◎）

★学びの方針、学びのスタイルに魅力／10の研究講座に興味

- ・ 学びの方針でもっと自由に、もっと面白くできることに魅力を感じたから。自由に学べるところ。（愛知県、男子、入学意向＝◎）
- ・ 現代に合わせた授業にくわえ、プロジェクト型フィールドワークというとても大きなプロジェクトを使った学び、様々な学生のニーズに合わせ授業がキャンパスを選べるものも、良いと思う。（静岡東部、男子、入学意向＝○）
- ・ ハワイや沖縄など他の大学では体験することができないフィールドワークがあるから。（静岡東部、男子、入学意向＝○）
- ・ 静岡だけでなく、他のキャンパスで学ぶことや、学科のちがう講義をオンラインで学べることがすごく魅力的だと思いました。（静岡西部、女子、入学意向＝○）
- ・ 10の研究講座に興味をもち、身につけたいと思ったから。（愛知県、女子、入学意向＝○）

★地元貢献・地域を活性化できそう／地域づくりに興味

- ・ 学んだことを生かしながら自分の住む地域をもっと活性化させることができると思ったから。（静岡東部、男子、入学意向＝◎）
- ・ 地域づくりをプロデュース・マネジメントできるというのに、興味がある。（熊本県、女子、入学意向＝◎）

★静岡県内にできる／家から通える

- ・ 家からも遠くなく、自分の興味のある分野があり、また新しい学校に単純に興味を持ったから。（静岡東部、女子、入学意向＝◎）
- ・ 県内の私立大学で魅力的に感じる大学がなく困っていたけれど、東海大学に興味がある学部が新設されるのなら、自分に合っているのではないかと思ったから。（静岡東部、女子、入学意向＝○）
- ・ 地元にあるという点で魅力的であり、自分の興味のあるカリキュラムで組めるという点で素敵だと感じたから。（静岡中部、男子、入学意向＝○）

学部特徴の魅力度：全体傾向

- ▶ 最も「魅力あり・計」が高いのは、同率で
「b. 学びの方針：学生自身が、学びを、自由に面白く組み立てていくこと」
「d. 学びのスタイル1 遊学プログラム：キャンパス間留学やハワイ留学など、
静岡以外で学べること」(59%)

✓特に「d. 学びのスタイル1：遊学プログラム」は、「とても魅力がある」の割合が28%。
8項目の中で唯一2割台と、強い支持を得ている。

■学部特徴の魅力度＜マトリクス＞（進学希望者／各単一回答）

東海大学の「人文学部人文学科」には下表 a～h の特徴があります。
これらの特徴にどの程度魅力を感じるか、それぞれの特徴ごとに、最もあてはまる番号を1 つ選び○をつけてください。※詳細はお手元の別紙カラー資料をご覧ください。

	魅力あり・計		どちらとも いえない	魅力なし・計		無回答	魅力 あり ・計	魅力 なし ・計
	とても 魅力がある	ある程度 魅力がある		あまり 魅力がない	全く 魅力がない			
*凡例								
(n=8,180)								
b 学びの方針：学びを、もっと自由に、もっと面白くできること	16.3	43.1		27.1	5.9	6.90.7	59.4	12.8
d 学びのスタイル1 遊学プログラム：キャンパス間留学やハワイ留学など、 静岡以外で学べること	27.6	31.5		24.1	8.1	7.90.8	59.1	16.0
c 学びの方針：グローバルな学びを通して、地域に貢献できる力を養えること	13.5	36.1		33.2	8.5	7.70.9	49.7	16.2
f 学びのスタイル3 双方向型オンライン授業：人文学部以外の講義を オンラインで学べること	13.4	31.2		34.1	11.2	9.2 0.8	44.7	20.4
a 静岡に新学部が新設されるということ	12.6	32.0		30.7	12.1	11.9 0.8	44.5	24.0
h 10の研究講座：食文化や水中考古学など10の研究講座で 専門を深く学べること	12.7	28.7		36.1	11.0	10.4 1.2	41.3	21.3
e 学びのスタイル2 プロジェクト型フィールドワーク：プロジェクト型のフィールド ワークができること	11.0	30.1		39.4	10.2	8.4 0.8	41.1	18.7
g 3つの領域の応用科目：「グローバルコミュニケーション科目群」「地域マネジ メント科目群」「クリエイティブカルチャー科目群」の中から応用科目を自由に 選べること	9.5	26.6		42.2	10.8	10.10.8	36.1	20.9

※「魅力あり・計」降順ソート

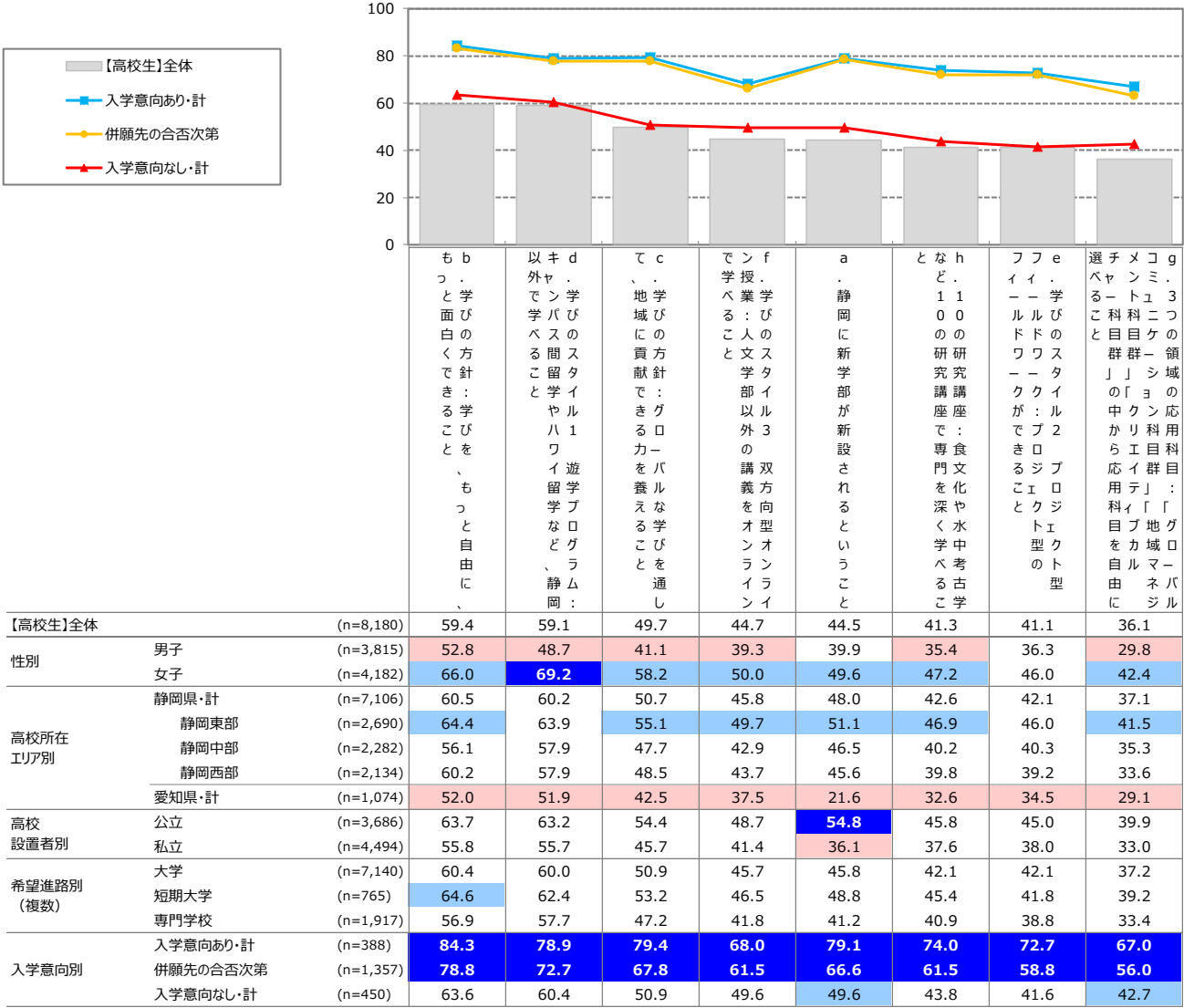
高校生_Q5_1

学部特徴の魅力度

- ✓性別にみると、全ての項目において女子が男子を上回る。
- ✓特に男女差が大きいのは、「d. 学びのスタイル1 遊学プログラム：キャンパス間留学やハワイ留学など、静岡以外で学べること」。女子は7割近いが、男子では若干5割弱。
- ✓入学意向別の傾向は全体傾向と類似。但しそのスコアは強い入学意向を示す層（入学意向あり・計）が圧倒的に高い。
- ✓また、強い入学意向を示す層（入学意向あり・計）と、併願先の合否次第層の傾向も類似。

■学部特徴の魅力度：「各魅力あり・計」（進学希望者／単一回答）

東海大学の「人文部人文学科」には下表 a～h の特徴があります。これらの特徴にどの程度魅力を感じるか、それぞれの特徴ごとに、最もあてはまる番号を1 つ選び○をつけてください。※詳細はお手元の別紙カラー資料をご覧ください。



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い
※「全体」降順ソート



調查票・提示資料

大学に関するアンケート

ご協力をお願い

東海大学では、2022 年 4 月に新たに「人文学部人文学科」の新設を計画しています。
このアンケートは、高校2年生の皆さんに卒業後の進路についての考えをお聞きし、現在計画している内容をより充実したものにするための参考資料とさせていただくものです。
ご回答内容についてはコンピュータで処理され、個人情報を使用されることはございません。本アンケートの趣旨をご理解の上、何卒ご協力をいただけますようお願いいたします。
※このアンケートに記載している新設学部学科の内容は構想中のものであり、今後変更の可能性あります。

2020 年 8 月
東海大学

はじめに、皆さまご自身のことについてお聞きます。

F1. 性別(いずれかに○) 1. 男子 2. 女子 3. その他 4. 無回答

F2. 所属クラス(ひとつに○) 1. 文系 2. 理系 3. どちらでもない

F3. 在籍高校名を記入してください

高等学校

ここからは進学についての考え方をお聞きます。

Q1. あなたは高校を卒業した後、どの進路に進みたいと思っていますか。

1) 以下、あてはまるものすべてに○をつけてください。 ※複数回答可

1. 大学 2. 短期大学 3. 専門学校 4. 就職
5. その他() 6. まだ考えていない

2) 上記1)で複数選んだ場合、最も希望する進路の番号を1つ選び、右下の回答欄に番号を記入してください。

Q2. あなたは、進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。 ※複数回答可

- | | | |
|-------------------|--------------|-------------|
| 1. 文化・地理・歴史 | 2. 法律・政治 | 3. 経済・経営・商 |
| 4. 社会 | 5. 情報 | 6. 観光 |
| 7. コミュニケーション・メディア | 8. 国際関係・国際文化 | 9. 外国語 |
| 10. 美術・デザイン・音楽 | 11. 文学 | 12. 人間・心理 |
| 13. 哲学・宗教 | 14. 理学 | 15. 工学 |
| 16. 医学・歯学 | 17. 薬学 | 18. 看護 |
| 19. 医療・保健・衛生 | 20. 福祉 | 21. 体育・スポーツ |
| 22. 家政・生活科学 | 23. 教育・保育 | |
| 24. その他 () | | |

---次のページにお進みください---

Q3. あなたが進学先を選ぶ際に、どのようなことを重視しますか。

1)以下、あてはまる項目すべてに○をつけてください。 ※複数回答可

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 伝統や実績があること | 2. 活気がある感じがすること |
| 3. 校風や雰囲気が良いこと | 4. 学校が発展していく可能性があること |
| 5. 学びたい学部・学科・コースがあること | 6. 教育方針・カリキュラムが魅力的であること |
| 7. 教育内容のレベルが高いこと | 8. 自分の興味や可能性が広げられること |
| 9. 資格取得に有利であること | 10. 就職に有利であること |
| 11. 社会で役立つ力が身につくこと | 12. 国際的なセンスが身につくこと |
| 13. 教授・講師陣が魅力的であること | 14. 先輩・卒業生が魅力的であること |
| 15. 学生の学力が高いこと | 16. 学生の面倒見が良いこと |
| 17. 卒業後に社会で活躍できること | 18. 将来の選択肢が増えること |
| 19. 学習設備や環境が整っていること | 20. キャンパスがきれいであること |
| 21. 寮や奨学金などが充実していること | 22. 学生生活が楽しめること |
| 23. クラブ・サークル活動が盛んであること | 24. 周囲の人からの評判が良いこと |
| 25. 入試方法が自分に合っていること | 26. 偏差値が自分に合っていること |
| 27. 教養が身につくこと | 28. 専門分野を深く学べること |
| 29. 自宅から通えること | 30. 交通の便が良いこと |
| 31. 勉強するのに良い環境であること | 32. 学費が高くないこと |

2)上記1)で選んだ回答のうち最も重視しているものを1つ選び、右下の回答欄に番号を記入してください。

◆最も重視している(番号)

ここからは、「東海大学の学部・学科」のことについてお聞きます。
別途配布したカラー資料に記載の内容をよくお読みいただきお答えください。

Q4. 卒業後の進路として、東海大学「人文学部人文学科」にどの程度興味がありますか。

最もあてはまる回答を1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|-------------|------------|--------------|
| 1. 興味がある | 2. やや興味がある | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり興味はない | 5. 興味はない | |

---次のページにお進みください---

Q5. 東海大学「人文学部人文学科」には下表a～hの特徴があります。

これらの特徴にどの程度魅力を感じるか、それぞれの特徴ごとに、最もあてはまる番号を1つ選び○をつけてください。 ※詳細はお手元の別紙カラー資料をご覧ください。

人文学部人文学科の特徴		とても魅力がある	ある程度魅力がある	どちらともいえない	あまり魅力がない	全く魅力がない
a	静岡に新学部が新設されるということ	1	2	3	4	5
b	学びの方針 学びを、もっと自由に、もっと面白くできること	1	2	3	4	5
c	学びの方針 グローバルな学びを通して、地域に貢献できる力を養えること	1	2	3	4	5
d	学びのスタイル1 遊学プログラム キャンパス間留学やハワイ留学など、静岡以外で学べること	1	2	3	4	5
e	学びのスタイル2 プロジェクト型フィールドワーク プロジェクト型のフィールドワークができること	1	2	3	4	5
f	学びのスタイル3 双方向型オンライン授業 人文学部以外の講義をオンラインで学べること	1	2	3	4	5
g	3つの領域の応用科目 「グローバルコミュニケーション科目群」「地域マネジメント科目群」 「クリエイティブカルチャー科目群」の中から応用科目を自由に 選べること	1	2	3	4	5
h	10の研究講座 食文化や水中考古学など10の研究講座で専門を深く学べること	1	2	3	4	5

Q6. あなたは東海大学「人文学部人文学科」をどの程度受験したいと思いますか。

最もあてはまる回答を1つ選び○をつけてください。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. ぜひ受験したい | 2. 受験したい |
| 3. 受験先の候補にはなる | 4. 受験したいと思わない |

Q7. 1)東海大学「人文学部人文学科」を受験して合格した場合、あなたはどの程度入学したいと思いますか。最もあてはまる回答を1つ選び○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. ぜひ入学したい | 2. 入学したい |
| 3. 併願先の可否によって入学を検討したい | 4. 入学先としては考えない |

2)上記1)のようにお考えの理由を教えてください。

--- 次のページにお進みください ---

Q8. 東海大学全体に対するご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

質問はこれで終了です。ご協力いただきありがとうございました。

2022年4月開設予定(設置構想中)



東海大学

人文学部

静岡キャンパス(清水校舎)

人文学科

※このリーフレットに記載された内容はすべて構想中のものであり、今後変更となる可能性があります。

静岡に新学部が誕生。

教室を飛び出せ！

学びを、

もっと自由に、面白く。

静岡・清水を起点に、「グローバルな学び」を通して、
地域に貢献できる力を身につける
多様な学びが新たにスタート。

世界の文化・歴史から、
地域の産業や水中考古学まで、
幅広く学んでいきます。

2020年
世界中で暮らし方、働き方、
人との関わり方が大きく変わることになった。
これから私たちはどうやって生きていけばいいのだろうか。

多くの人々が手探りで生活を送る中、
目まぐるしく変わる現代社会、正解のない未来の社会に、
太刀打ちできる学びを提供したい、
東海大学に誕生する人文学部はそう考えています。



東海大学だから実現できる、
スケールメリットを活かした自由な学びのスタイル。

学びのスタイル1

游学プログラム

ハワイ、沖縄、東海大学の他キャンパスで学ぶ

静岡だけにとどまらない学びの場を展開。札幌、東京、湘南、熊本のキャンパス、沖縄の研究所やハワイに短期大学を持つ東海大学ならではの特性を活かし、幅広い専門分野とフィールドを連動します。他のキャンパスで自由に学ぶことが可能です。

学びのスタイル2

プロジェクト型フィールドワーク

より積極的に社会と関わる学びを展開。地方自治体と連携し、地域住民と共にまちづくりを進めたり、環境保全活動などに参加することで、ひとりひとりが責任を持って、いろいろな世代の人たちと地域の課題を解決します。体験を超えて、経験として積み重ねていく実践的な学びこそが将来の力となるのです。

学びのスタイル3

双方向型オンライン授業

激変する現代に対応していくために、場所を越えて知識の幅を広げる最新の学びを展開。23学部を持つ総合大学としての強みを活かし、人文学部以外の教授の講義をオンラインで学べます。就職に役立つキャリア科目や面接試験の練習も、ひとりひとりのスタイルで進めていくことが可能です。

新時代を生きるための新しい学びが、ここにある。

世界は変わろうとしている。今、社会が求めているのは、新しい時代を生きぬく自由な発想力。
東海大学の人文学部では、その力を育むための学びを展開します。

学びをもっと面白くする 3つの領域と10の研究講座

幅広く学ぶ3つの領域 発想力を生み出す応用科目

東海大学の人文学部の専門分野は、「地域マネジメント」「グローバル・コミュニケーション」「クリエイティブ・カルチャー」の3つの領域から構成されます。それを自由に選ぶことで、発想力の基礎となる新たな視点を育んでいくことができます。



学びを深める10の研究講座 自由に選択できる、あなただけのカリキュラム

3つの領域に基づいて、10の研究講座が開講。専門分野を深く学べます。また複数の研究講座を組み合わせれば、自分自身の関心に応じたカリキュラムをつくることも可能。深く、広く、追究するたびに、学びがもっと面白くなる。それが東海大学・人文学部が目指す学びです。

食文化とライフスタイル ●●● 食の歴史と多様性、フードビジネスなど、多面的な学びを通じて、文化を新たに創造する力を身につける。(フードコーディネーター、食と環境)	国際社会と多様性 ●●● 世界の多様な文化と言語を学び、グローバル時代に求められる実践的なコミュニケーションの力を養う。(インバウンド・コミュニケーション、世界の文化とグローバリズム)
日本の文化と歴史 ●●● 新しい社会を創造するために、私たちのルーツから未来へと、広い視野で日本の文化や歴史を学ぶ。(日本人論、生き物文化誌)	地域文化と共創 ●●● 人々との交流を通じて地域特有の文化を再発見し、魅力的な地域社会を共に創り出す力を身につける。(ミュージアム論、地域アーカイブ)
AI時代の人間学 ●●● AI時代の社会に人間が主体的に関わり、情報を正しく有効に活用するために必要なリテラシーを身につける。(映像表現論、データサイエンス入門)	古典の人間学 ●●● さまざまな時代と地域のユニークな書物を読み解きながら、人間と文化への深い理解と洞察力を身につける。(生と死の文化史、神話と美術)
海の文化と環境 ●●● 海をフィールドとして、人間の文化と自然環境の関わりを学び、持続的な人間と自然の共生を考える。(海洋考古学、海洋資源論)	経済とビジネス ●●● 現代ビジネスの実態を学びながら、地域経済の発展に貢献できる基礎力を身につける。(現代ビジネスと法、公共政策論)
観光とホスピタリティ ●●● 「場所」「人」「アクティビティ」から新しいコンテンツをつくり出し、情報を発信する力を身につける。(ウェルネスとセラピー文化、観光人類学)	アート&パフォーマンス ●●● アートやパフォーマンスなどを通して表現力を磨き、多様な人々とのコミュニケーション能力を養う。(文化と現代メディア、エンターテインメント産業論)

●…地域マネジメント ●…グローバル・コミュニケーション ●…クリエイティブ・カルチャー

目指す進路

地域産業である観光・サービス業、海事・流通産業、金融業、マスコミ・マスメディア産業のほか、地方公共団体(自治体職員)、大学院進学

東海大学 御中



東海大学
新学部設置に関するアンケート
－静岡キャンパス：人文学部－

【企業】
調査結果報告書

2021年1月



株式会社リクルートマーケティングパートナーズ



株式会社ディ・プラス

調査概要	3
▶ 回答企業プロフィール	5
✓ 主業種／正社員数	6
✓ 過去3年の新卒採用者の最終学歴	7
✓ 2020年4月の新卒採用状況	8
✓ 2021年4月の新卒採用方針	10
✓ 新卒採用時に対象となる最終学歴	11
▶ 新学部に対する評価〈人文学部〉	13
✓ 設置内容に対する関心度	14
✓ 養成する人物像の必要度	15
✓ 卒業生の採用意向	16
✓ 卒業生の採用見込み人数	17
✓ 新学部の特徴の魅力度	18
一資料一	
調査票・提示資料	21
調査票	
調査時提示資料	

【企業】調査 調査概要

▶ 調査目的

✓ 東海大学が2022年に静岡キャンパス（清水校舎）に設置を計画している「人文学部人文学科」について、東海大学への求人実績がある企業の新卒採用責任者・担当者に意見を聴取し新学部の受容性を確認する。

▶ 調査対象

✓ 東海大学への求人実績がある企業の新卒採用責任者・担当者

▶ 調査方法

✓ 郵送配布・回収によるアンケート調査

▶ 調査期間

✓ 2020年10月30日（金）～2020年11月25日（水）※到着分までを入力・集計対象とした

▶ 有効回収数

✓ 発送数 499社
✓ 回収数 179社 （回収率 35.9 %）

■ 企業所在地（全体／住所を記入回答）

		調査数	構成比
全体		179社	
北海道／東北	北海道	4社	2.2%
	福島	2社	1.1%
関東	茨城県	2社	1.1%
	埼玉県	2社	1.1%
	千葉県	1社	0.6%
	東京都	46社	25.7%
	神奈川県	11社	6.1%
東海／長野	長野県	1社	0.6%
	静岡県	68社	38.0%
	愛知県	15社	8.4%
	三重県	1社	0.6%
関西	京都府	1社	0.6%
	大阪府	6社	3.4%
	兵庫県	3社	1.7%
中国	岡山県	1社	0.6%
	広島県	7社	3.9%
四国	香川県	1社	0.6%
	愛媛県	1社	0.6%
九州	福岡県	3社	1.7%
	佐賀県	1社	0.6%
	宮崎県	1社	0.6%
	鹿児島県	1社	0.6%

北海道／東北・計	6社	3.4%
関東・計	62社	34.6%
東海／長野・計	85社	47.5%
関西以西・計	26社	14.5%

・ 本報告書内では、n 数 = 20以上の表側をコメントの対象としています。



回答企業プロフィール

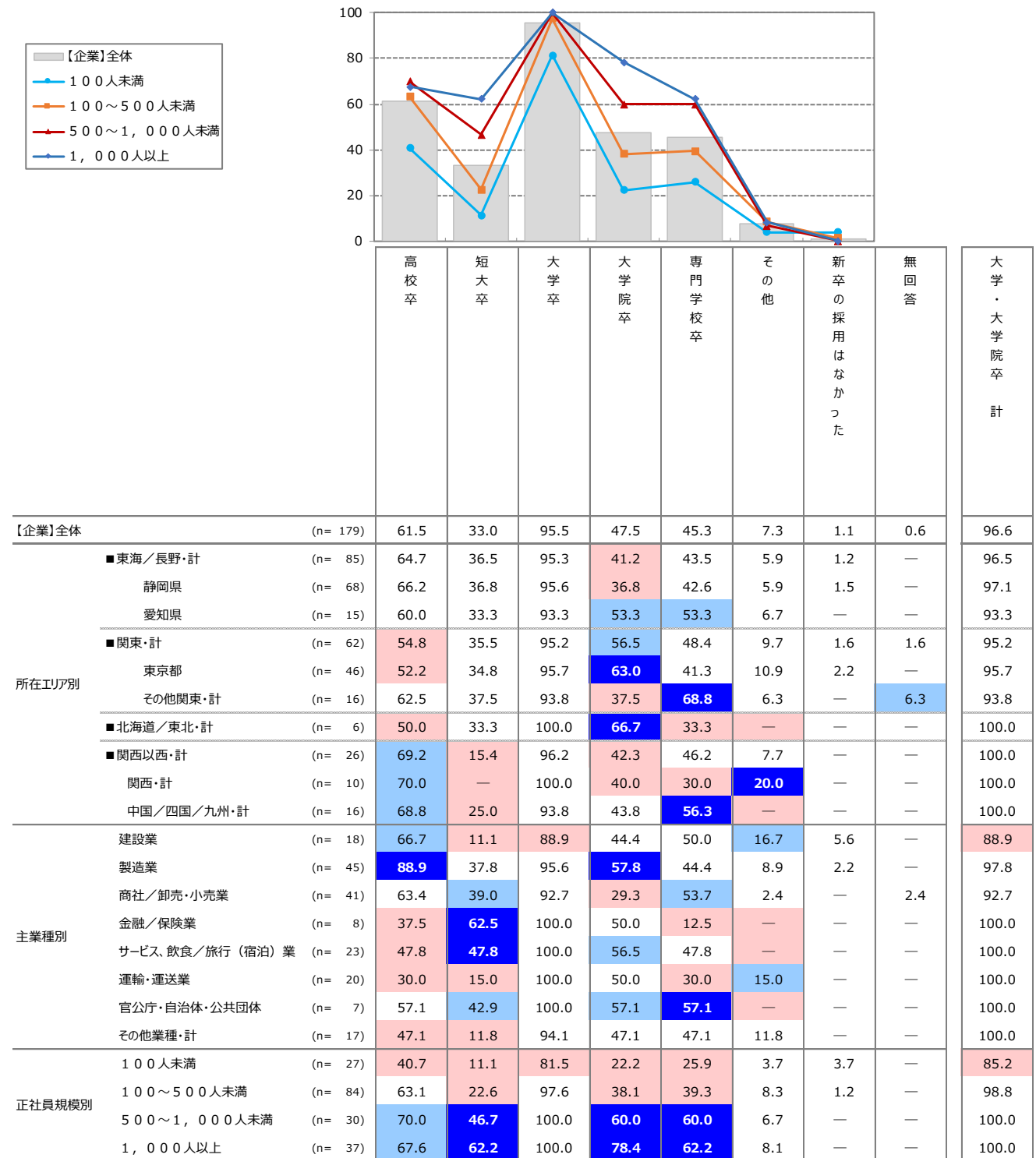
過去3年の新卒採用者の最終学歴

- ▶ 回答企業のほとんどが、過去3年以内に新卒採用を実施。
- ▶ 「大学・大学院卒」を採用した企業は97%。

- ✓ 所在エリア別にみると、「大学卒」はいずれのエリアでも9割を超え、エリア差はあまりみられない。
- ✓ 正社員規模別にみると、「高校卒」以外は、正社員規模が大きくなるほどスコアが高くなる傾向。
 - ・ 500人以上の2層では、すべてが「大学卒」を採用。

■ 過去3年の新卒採用者の最終学歴（全体／複数回答）

(%)



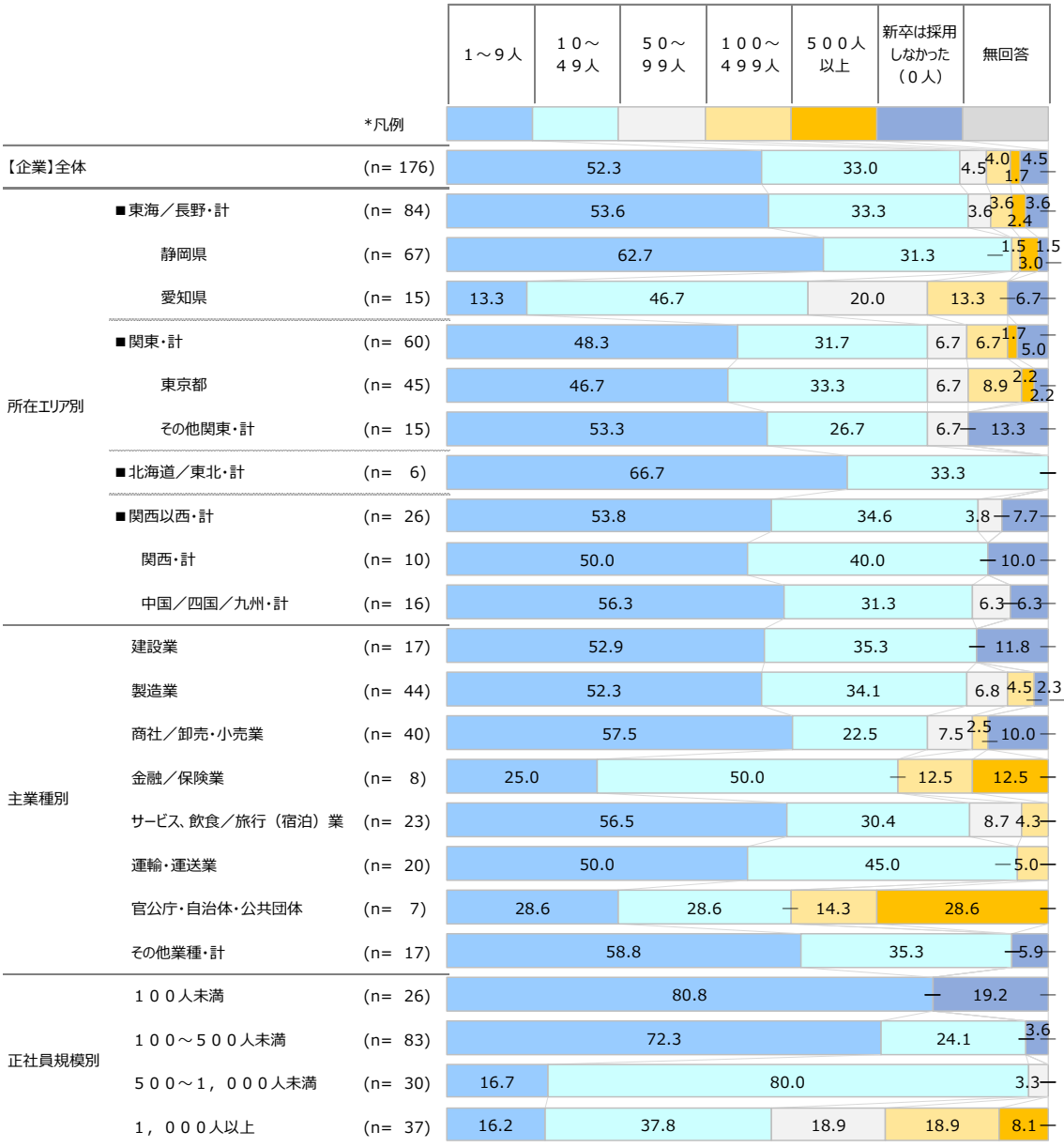
※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

2020年4月の新卒採用状況_1

- ▶ 2020年4月の採用人数をたずねたところ、「1～9人」が5割を超え、次いで「10～49人」(33%)
- ▶ 新卒採用しなかった企業は5%

- ✓ 所在エリア別にみると、静岡県は「1～9人」が63%と全体値を10ポイント程度上回る。
 - ・ 関東・計は全体に比べ「1～9人」の割合が低くなり、50人以上が増える。
- ✓ 正社員規模別にみると、正社員規模が大きいほど採用規模も増加。
 - ・ 100人未満では「1～9人」が8割を占めるが、500人以上の2層では「1～9人」は17%程度となり、ボリュームゾーンは「10～49人」。

■ 2020年4月の新卒採用状況（過去3年以内新卒採用実績企業／単一回答） (%)

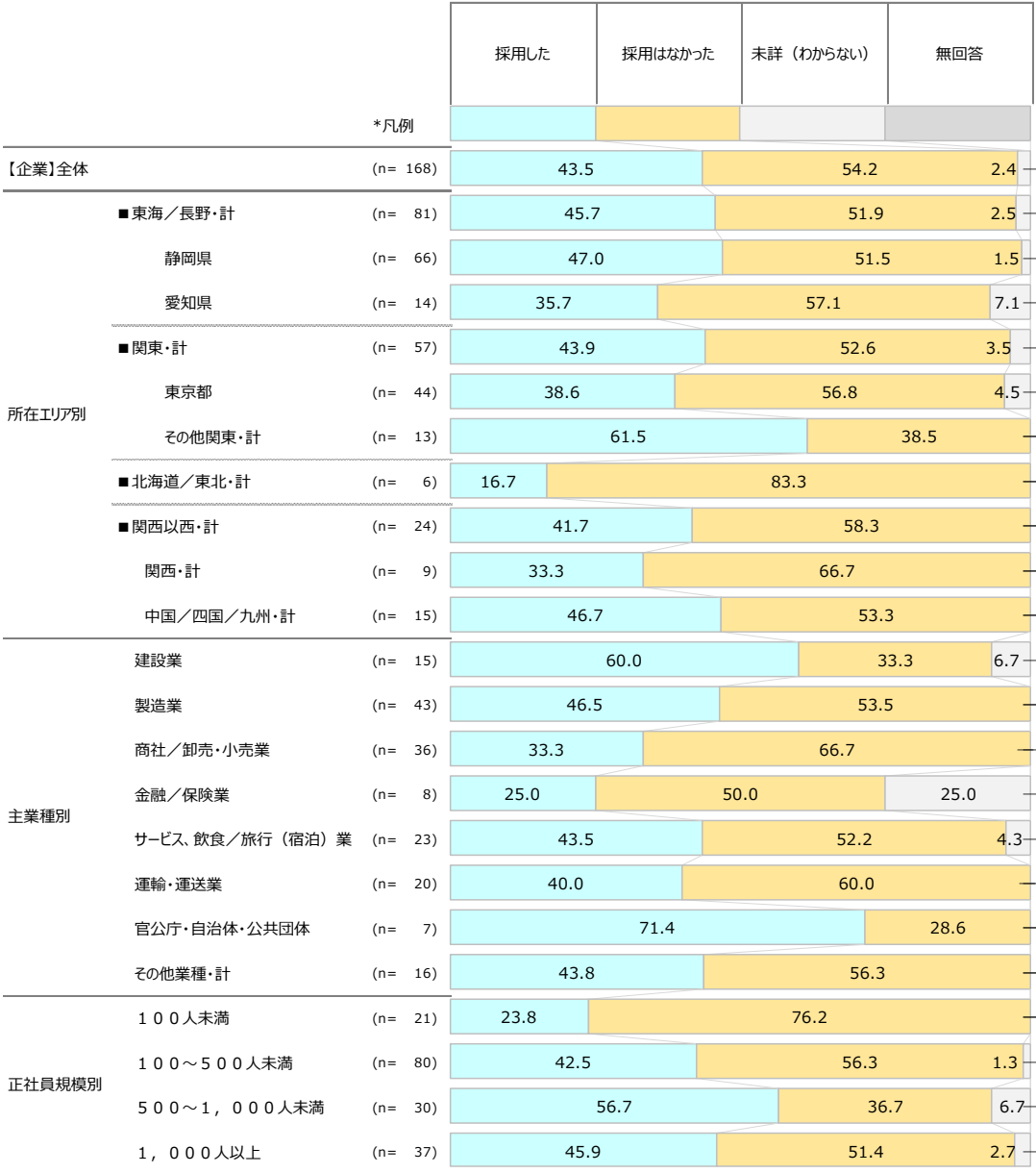


2020年4月の新卒採用状況_2

▶ 全体（2020年4月に新卒採用ありと回答した企業）の44%が「東海大学卒業生を採用した」と回答。

- ✓ 所在エリア別にみると、静岡県では47%が「採用した」と回答。
 - ・ ■東海／長野・計は46%と、■関東・計（44%）や■関西以西・計（42%）よりもやや高め。
- ✓ 正社員規模別にみると、「採用した」割合が最も高いのは500～1000人未満層(57%)。
 - ・ 「採用した」割合が2割台だったのは、100人未満層のみ。

■ 2020年4月入社者における東海大学卒業生の採用有無（大学・大学院卒の新卒採用実績企業／単一回答） (％)



2021年4月の新卒採用方針

- ▶ 2021年4月入社の新卒採用数について、全体の16%が2020年よりも「増える」、55%が「同程度」、20%が「減る」と回答。

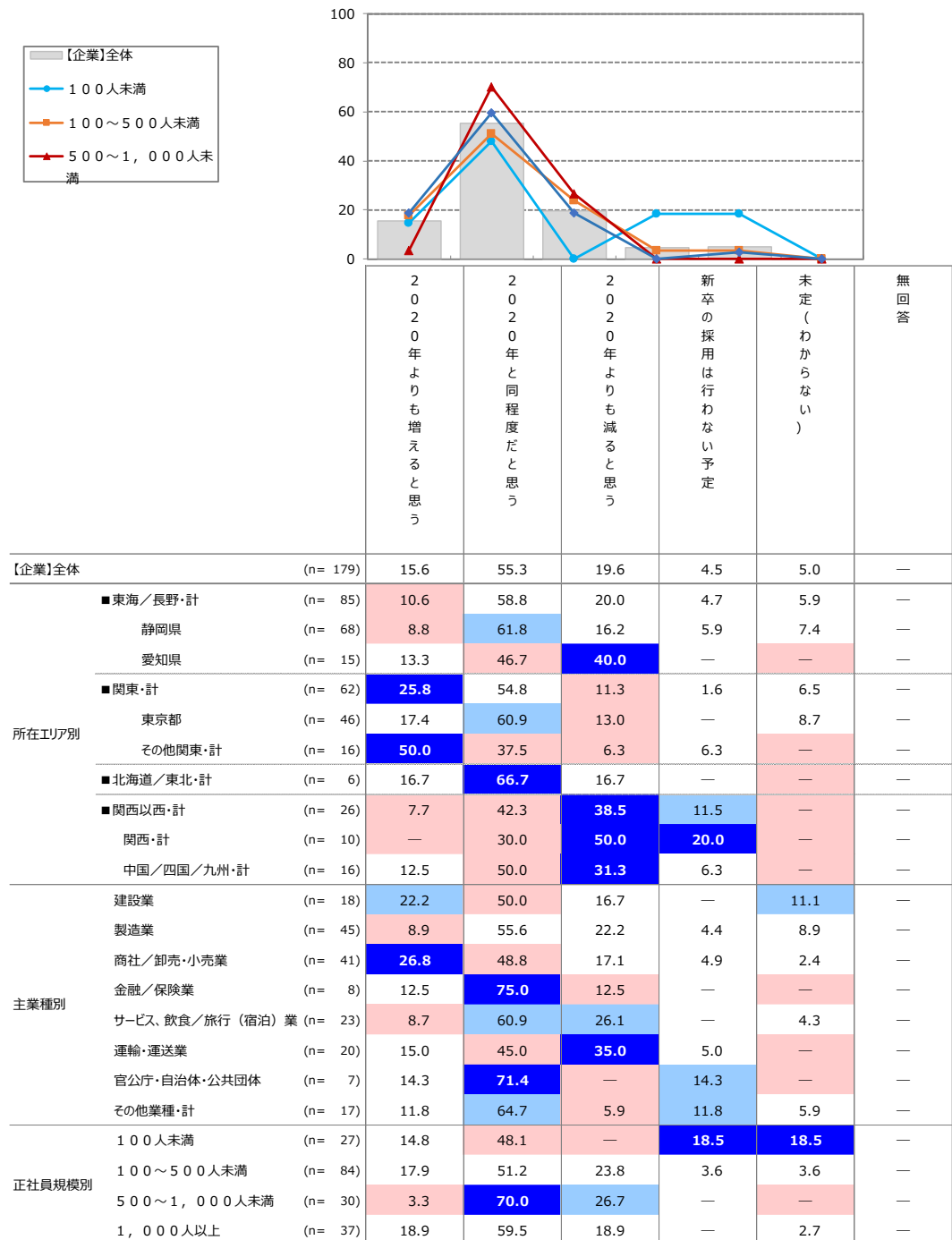
✓ 所在エリア別にみると、全体傾向に比べ「増える」と思う割合が高いのは■関東・計（26%）。

✓ 主業種別にみると、いずれの業種も「同程度」と思う割合がもっとも多いが、商社／卸売・小売業は「増える」が27%と全体傾向に比べ高い。

✓ 正社員規模別にみると、いずれも「同程度」と思う割合がもっとも多いが、500人未満の2層では「新卒採用は行わない」という回答がみられるようになる。

■ 2021年4月の新卒採用についての考え（全体／単一回答）

(%)



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

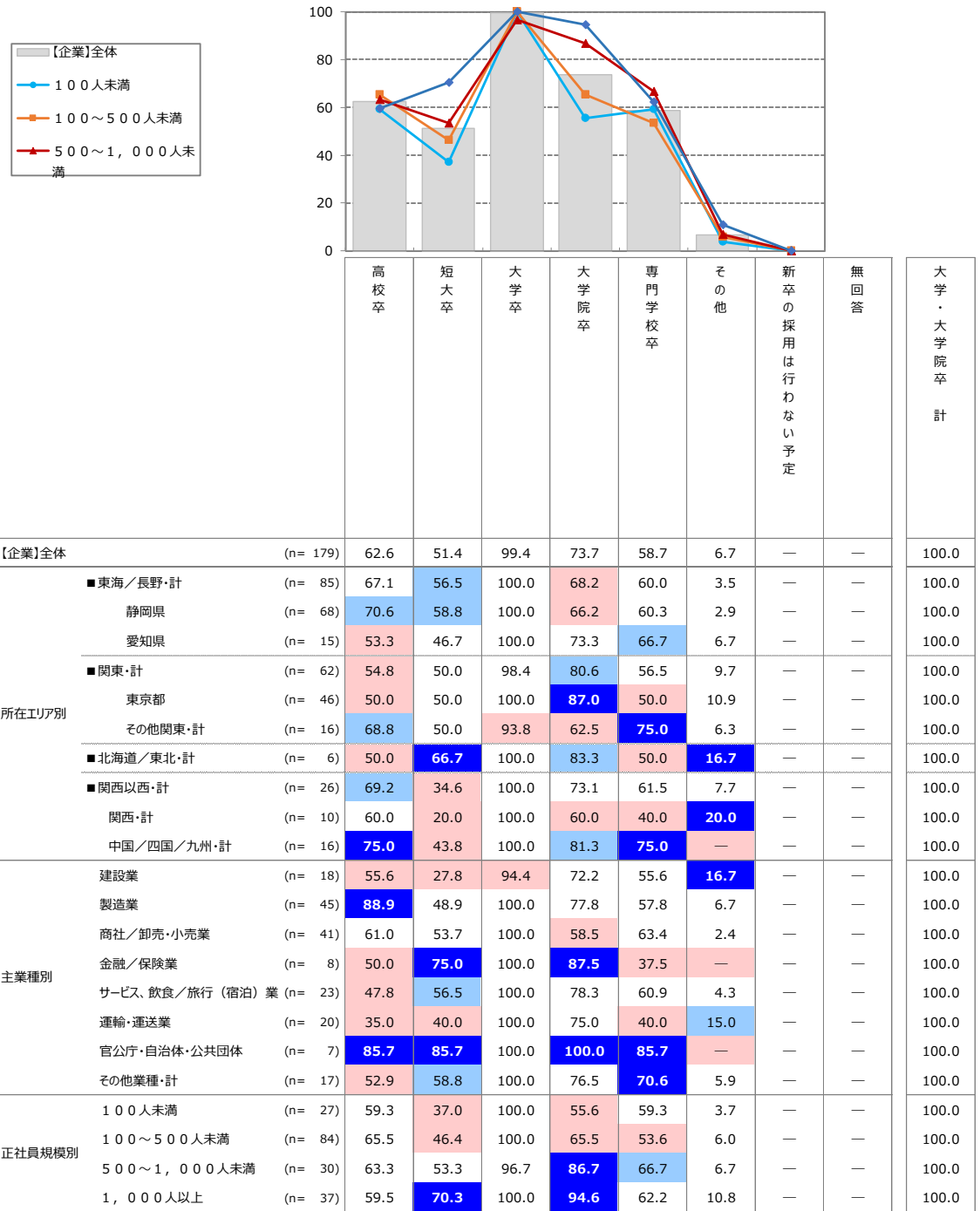
企業 Q6

新卒採用時に対象となる最終学歴

▶ 今後の新卒者の採用にあたり、すべての企業が「大学・大学院卒」の採用を考えている。

- ✓ 所在エリア別、主業種別、正社員規模別のいずれにみても「大学卒」はほぼ100%採用対象。
- ・ 正社員規模が大きくなるほど、「大学院卒」の割合は高くなる。「短大卒」でも同様の傾向。

■ 今後、新卒採用時に対象となる最終学歴（全体／複数回答） (％)



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

企業_Q7



新学部に対する評価

<人文学部>

15

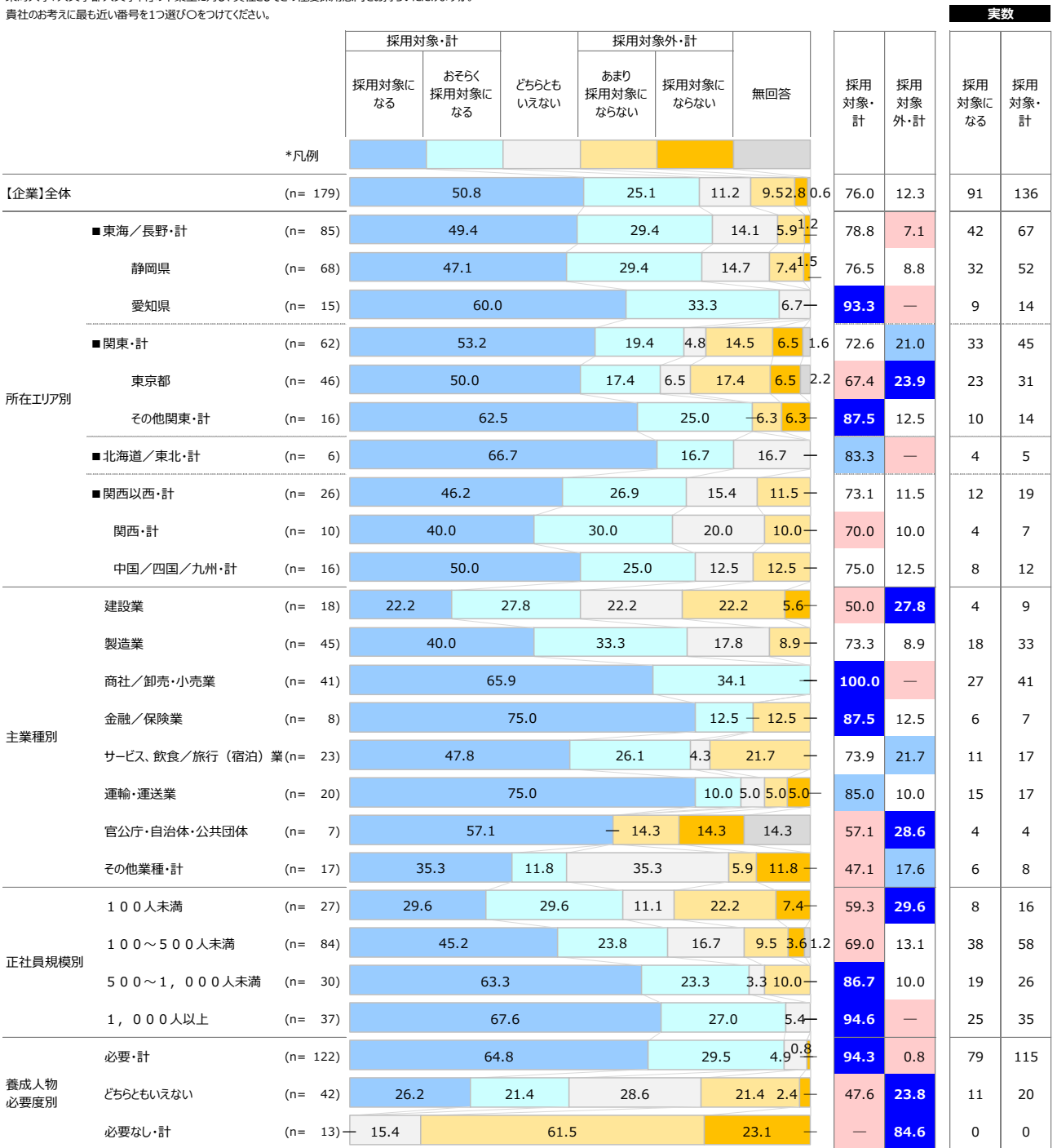
卒業生の採用意向：人文学部人文学科

- ▶ 人文学部人文学科の卒業生に対して、全体の51%が「採用対象になる」と回答。
- ▶ 「おそらく採用対象になる」まで合わせた「採用対象・計」は76%。

- ✓ 所在エリア別に見ると、■東海／長野・計では「採用対象・計」が79%と、他層に比べ高め。
- ✓ 主業種別に見ると、関心度が高かった「商社／卸売・小売業」では、「採用対象・計」が100%。
- ✓ 正社員規模別に見ると、規模が大きくなるほど「採用対象・計」の割合も高く、1000人以上層では9割を超える。
- ✓ 養成人物の必要度別に見ると、必要と思う層における「採用対象・計」は9割を超える。

■ 卒業生の採用意向（全体／単一回答）

東海大学「人文学部人文学科」の卒業生に対し、貴社としてどの程度採用意向をお持ちいただけますか。
貴社のお考えに最も近い番号を1つ選び○をつけてください。



※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

卒業生の採用見込み人数：人文学部人文学科

・ 人文学部人文学科の卒業生を「採用対象外」と回答した企業以外の方に、おおよその採用人数をお答えいただいた

▶ 最も多かったのは「1名」（54%）。次いで「2名」（26%）。

- ✓ 所在エリア別にみると、■関東・計は「1名」の割合が4割台と、他エリアに比べて2名以上の割合が多い。
- ✓ 正社員規模別にみると、規模が大きくなるほど「1名」の割合は減り、2名以上の割合が多くなる。

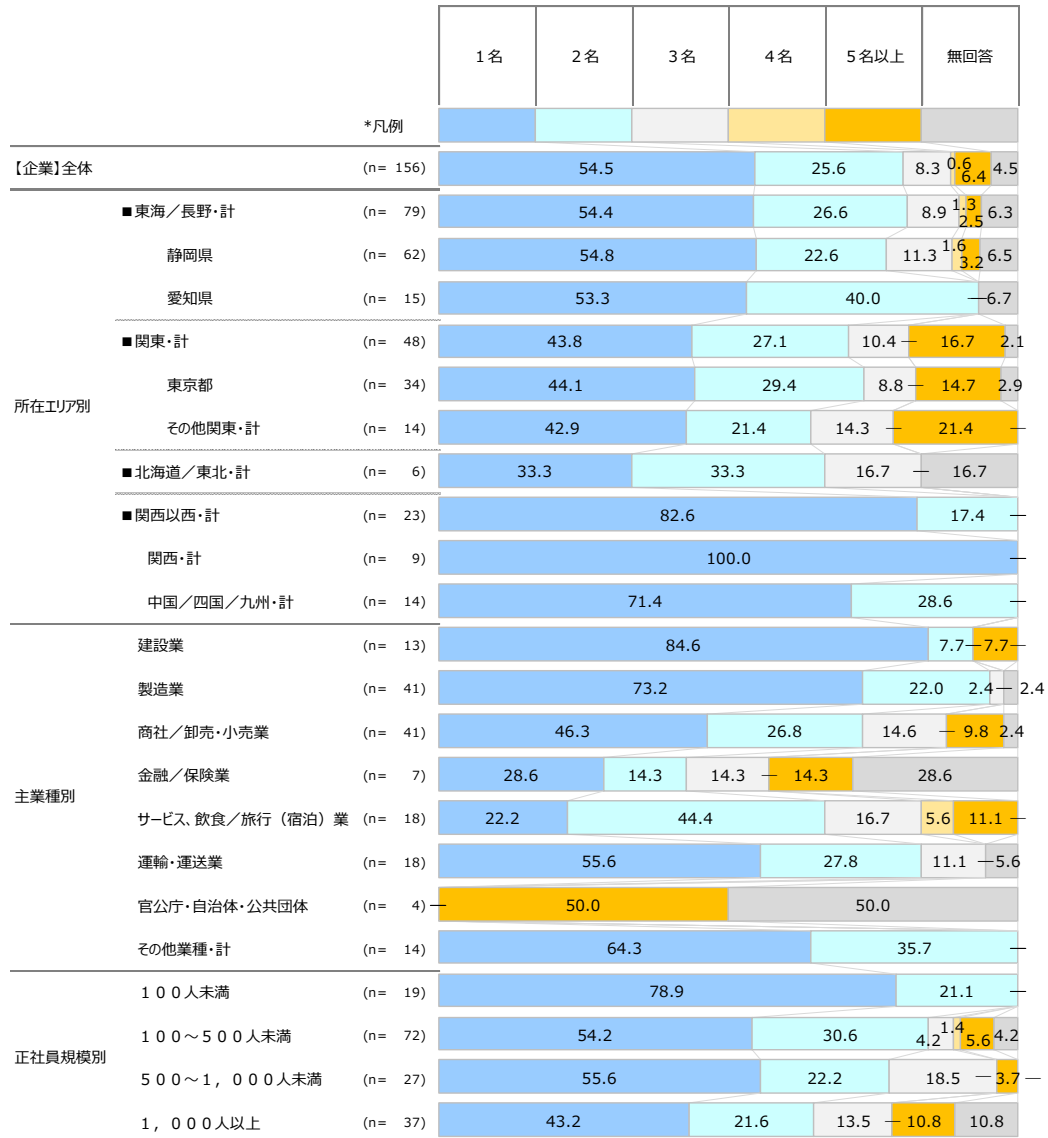
▶ 各カテゴリーの回答件数表を用いて採用見込み人数換算した結果、合計258人と想定定員を大きく上回る見込み。

■卒業生の採用見込み人数（採用意向のある企業／単一回答）

(%)

人文学部人文学科の卒業生について、何名程度の採用が見込めますか。

おおよその人数で結構ですので、貴社のお考えに最も近い番号を1つ選び○をつけてください。



(社)

■回答社数		1名	2名	3名	4名	5名以上	無回答
【企業】全体（人文学部）	(n=184)	85	40	13	1	10	7
■採用見込み人数換算		↓	↓	↓	↓	↓	
【企業】全体（人文学部）	(n=184)	85	80	39	4	50	

※「5名以上」は、一律「5人」として算出しています。

59

(人)
→ 258

人文学部人文学科 特徴の魅力度

- ▶ 人文学部人文学科の特徴の中で「魅力あり・計」の割合が高かったのは
- ① 「c_学びの方針：グローバルな学びを通して、地域に貢献できる力を養えること」(91%)
 - ② 「b_学びの方針：学生自身が、学びを、自由に面白く組み立てていくこと」(88%)
 - ③ 「e_学びのスタイル2
プロジェクト型フィールドワーク：プロジェクト型のフィールドワークができること」(87%)

✓全8項目とも、「魅力あり・計」は5割を超え、企業から一定の支持を受けていることがわかる。

■ 人文学部人文学科の特徴の魅力度<マトリクス>（全体／各単一回答） (%)

東海大学の「人文学部人文学科」には下表a～hの特徴があります。
学生が学ぶ場として、これらの特徴にどの程度魅力を感じているか、それぞれの特徴ごとに、最もあてはまる番号を1つ選び○をつけてください。※詳細はお手元の別紙カラー資料をご覧ください。

		魅力あり・計			魅力なし・計			魅力あり・計	魅力なし・計
		とても魅力がある	ある程度魅力がある	どちらともいえない	あまり魅力がない	全く魅力がない	無回答		
*凡例									
(n=179)									
学部全体（人文学科）	c 学びの方針：グローバルな学びを通して、地域に貢献できる力を養えること	40.8	50.3	6.7	1.1	1.1	91.1	1.1	
	b 学びの方針：学生自身が、学びを、自由に面白く組み立てていくこと	41.3	46.9	8.9	1.7	1.1	88.3	1.7	
	e 学びのスタイル2 プロジェクト型フィールドワーク：プロジェクト型のフィールドワークができること	39.7	47.5	10.6	1.1	1.1	87.2	1.1	
	f 学びのスタイル3 双方向型オンライン授業：人文学部以外の講義をオンラインで学べること	34.6	40.8	19.6	0.6	3.4	75.4	3.9	
	g 3つの領域の応用科目：「グローバルコミュニケーション科目群」「地域マネジメント科目群」「クリエイティブカルチャー科目群」の中から応用科目を選び力をつけていくこと	21.8	53.6	20.7	0.6	2.2	75.4	2.8	
	h 10の研究講座：食文化や水中考古学など10の研究講座で専門を深く学び、力をつけていくこと	26.8	48.0	21.8	2.2	1.1	74.9	2.2	
	d 学びのスタイル1 遊学プログラム：キャンパス間留学やハワイ留学など、静岡以外で学べること	33.0	40.8	21.8	2.2	1.1	73.7	3.4	
	a 静岡県に新設される学部であるということ	24.0	31.3	36.9	5.6	1.1	55.3	6.7	

※「魅力あり・計」降順ソート

企業_Q8_1

人文学部人文学科 特徴の魅力度

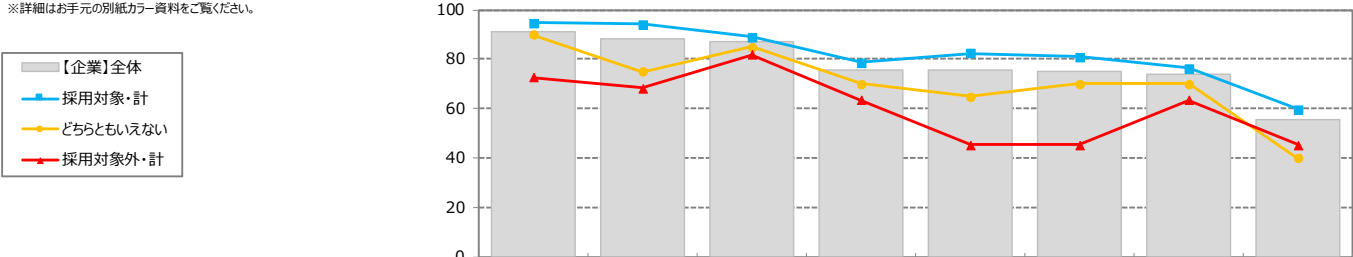
✓採用意向別にみると、採用対象・計が全体値を5ポイント以上上回るのは以下3項目。

- ・「e_プロジェクト型フィールドワーク：プロジェクト型のフィールドワークができること」(94%)、
- ・「g_「グローバルコミュニケーション科目群」「地域マネジメント科目群」「クリエイティブカルチャー科目群」の中から応用科目を選び力をつけていくこと」(82%)、
- ・「h_食文化や水中考古学など10の研究講座で専門を深く学び、力をつけていくこと」(81%)

特に、「g」と「h」は採用対象・計と採用対象外・計でのスコアの差も大きく採用意向との結びつきが強いと考えられる。

■人文学部人文学科の特徴：「魅力あり・計」の割合（全体／単一回答）

東海大学の「人文学部人文学科」には下表a～hの特徴があります。学生が学ぶ場として、これらの特徴にどの程度魅力を感じになるか、それぞれの特徴ごとに、最もあてはまる番号を1つ選び○をつけてください。
※詳細はお手元の別紙カラー資料をご覧ください。



		こ通c とし て学 、び 地 域 方 に 針 貫 ： 献 グ で き ー る バ カ ル を な 養 学 え び る	をb 、 自 学 由 び に の 面 方 白 針 く ： 組 学 み 生 立 自 て 身 て が い く 学 こ び と	の型e フフ ィ学 ーび ルの ドド スワ ワタ ーイ ククル が：2 でブ きロ ブ こ ジ と ク エ ト ク 型ト	ンラf ライ イン 学 ン授 び で業 の学 ：ス ベ人 タ る文 イ こ 部 と3 以 外 双 の方 講 向 義 型 を オ ン	用テ域バg 科イマル 目ブネコ3 をカジミツ の選ルメ びチンニ カヤトケ をー科の つ科目シ け目群ョ 用て研講 い」「科 くのク目 ：こ中 り群「 とかエ」 グ らイ「ロ 応地ー	学古h び学 、な1 カど0 を1の 研つ0 けの究 て研講 い究座 ：講： こ座食 とで文 専化 門や を水 深中 く考	どムd 、： 静キ学 岡ヤび 以の 外バス でスタ 学間イ ベ留ル 学1 こや とハ遊 ワ学 イブ 留ロ 学グ ら	いa う こ静 と岡 県 に 新 設 さ れ る 学 部 で あ る と	
【企業】全体		(n=179)	91.1	88.3	87.2	75.4	75.4	74.9	73.7	55.3
所在エリア別	■東海／長野・計	(n=85)	89.4	87.1	80.0	69.4	72.9	80.0	67.1	77.6
	静岡県	(n=68)	89.7	83.8	76.5	69.1	75.0	77.9	66.2	80.9
	愛知県	(n=15)	86.7	100.0	93.3	66.7	60.0	93.3	73.3	66.7
	■関東・計	(n=62)	90.3	85.5	93.5	80.6	77.4	71.0	77.4	35.5
	東京都	(n=46)	87.0	82.6	91.3	80.4	71.7	69.6	76.1	30.4
	その他関東・計	(n=16)	100.0	93.8	100.0	81.3	93.8	75.0	81.3	50.0
	■北海道／東北・計	(n=6)	100.0	100.0	83.3	50.0	83.3	66.7	66.7	50.0
	■関西以西・計	(n=26)	96.2	96.2	96.2	88.5	76.9	69.2	88.5	30.8
関西・計	(n=10)	100.0	90.0	90.0	70.0	70.0	60.0	70.0	30.0	
中国／四国／九州・計	(n=16)	93.8	100.0	100.0	100.0	81.3	75.0	100.0	31.3	
主業種別	建設業	(n=18)	88.9	83.3	100.0	66.7	72.2	55.6	72.2	38.9
	製造業	(n=45)	93.3	93.3	86.7	73.3	71.1	86.7	77.8	57.8
	商社／卸売・小売業	(n=41)	95.1	95.1	85.4	75.6	73.2	78.0	61.0	53.7
	金融／保険業	(n=8)	87.5	75.0	87.5	75.0	87.5	50.0	50.0	87.5
	サービス、飲食／旅行（宿泊）業	(n=23)	100.0	95.7	100.0	91.3	82.6	78.3	95.7	60.9
	運輸・運送業	(n=20)	90.0	80.0	80.0	75.0	80.0	70.0	85.0	45.0
	官公庁・自治体・公共団体	(n=7)	57.1	57.1	71.4	57.1	57.1	42.9	57.1	57.1
	その他業種・計	(n=17)	82.4	82.4	76.5	76.5	82.4	82.4	70.6	58.8
正社員規模別	100人未満	(n=27)	81.5	85.2	77.8	66.7	70.4	74.1	63.0	48.1
	100～500人未満	(n=84)	90.5	83.3	85.7	72.6	72.6	72.6	71.4	58.3
	500～1,000人未満	(n=30)	100.0	96.7	100.0	90.0	90.0	80.0	90.0	46.7
	1,000人以上	(n=37)	91.9	94.6	86.5	75.7	73.0	75.7	73.0	59.5
採用意向別	採用対象・計	(n=136)	94.9	94.1	89.0	78.7	82.4	80.9	76.5	59.6
	どちらともいえない	(n=20)	90.0	75.0	85.0	70.0	65.0	70.0	70.0	40.0
	採用対象外・計	(n=22)	72.7	68.2	81.8	63.6	45.5	45.5	63.6	45.5

※「全体」より ■=10ポイント以上高い / ■=5ポイント以上高い / ■=5ポイント以上低い

※「全体」降順ソート

企業_Q8.2



調查票・提示資料

東海大学 新学部に関するアンケート

調査ご協力をお願い

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より、本学に対し深いご理解とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、東海大学では、教育・研究環境の一層の充実を図るため、2022 年4月に清水校舎に「人文学部」の設置を計画しております。そこで、このたびの設置計画をより充実させるために、本学への求人実績がある企業の新卒採用ご責任者・ご担当者の皆さまから率直な意見をお聞きし、学部設置の参考にさせていただきたいと思い、アンケートを実施することとなりました。

ご回答内容についてはコンピュータで処理され、個人情報を使用されることはございません。

このような状況下においての依頼となり大変恐縮ではございますが、本調査の主旨をご理解の上、何卒ご協力いただきたくお願い申し上げます。

謹白

2020 年 11 月

東海大学

●調査回答の謝礼 締切日までにご回答いただいた方
全員に謝礼(図書カード 500 円分)をお送りいたします。

●調査締切日 **2020 年 11 月 20 日(金)**:当日消印有効
※同封の返信用封筒(切手不要)にてご投函ください。

謝礼をお送りする際に必要となりますので、下欄へのご記入をお願いいたします
(謝礼の送付がご不要な方は、お名前・ご住所のご記入は結構です)

謝礼不要の場合、
右欄に○印をお願いします→

お名前		貴社名	
謝礼 送付用 ご住所	〒 - 電話 ()		

※本調査の実施は、所定の契約を結んだ上、下記調査会社に業務委託しております。
(調査委託会社)
株式会社ディ・プラス 担当:高石、橋口
住所:〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-3-6 BIZMARKS 麹町 604
電話:03-5776-3805 e-mail:post@dplused.co.jp

はじめに、貴社についてお聞きします。

問1. 貴社の主業種をお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|------------------|--------------|----------------------|
| 1. 農業・林業・漁業・鉱業 | 2. 建設業 | 3. 製造業 |
| 4. 鉄鋼業 | 5. 出版・印刷関連産業 | 6. 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 7. 運輸・運送業 | 8. 航空関連業 | 9. 旅行業 |
| 10. 電気通信業 | 11. 情報処理関連業 | 12. 卸売・小売業 |
| 13. 総合商社 | 14. 飲食店 | 15. 金融業(銀行・信託・証券・貸金) |
| 16. 保険業 | 17. 不動産業 | 18. サービス業 |
| 19. 医療機関(病院) | 20. 福祉関連業 | 21. 学校・教育産業 |
| 22. 官公庁・自治体・公共団体 | 23. その他() | |

問2. 貴社の正社員数をお選びください。(ひとつに○)

- | | | |
|--------------------|----------------|------------------|
| 1. 100 人未満 | 2. 100～500 人未満 | 3. 500～1,000 人未満 |
| 4. 1,000～3,000 人未満 | 5. 3,000 人以上 | |

問3. 貴社で過去3年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。(いくつでも○)

- | | | | |
|---------------------------|-----------|--------|---------|
| 1. 高校卒 | 2. 短大卒 | 3. 大学卒 | 4. 大学院卒 |
| 5. 専門学校卒 | 6. その他() | | |
| 7. 新卒の採用はなかった →問6へお進みください | | | |

問4. 貴社の2020年4月入社の新卒採用状況についてお聞きします。

大学・大学院卒の方の採用数としてあてはまるものをお選びください。(ひとつに○)

- | | | | |
|------------|--------------------------------|------------|--------------|
| 1. 1～9 人 | 2. 10～49 人 | 3. 50～99 人 | 4. 100～499 人 |
| 5. 500 人以上 | 6. 新卒は採用しなかった(0 人) →問6へお進みください | | |

問5. 2020年4月入社における本学卒業生の採用実績としてあてはまるものをお選びください。

- | | | |
|---------|------------|--------------|
| 1. 採用した | 2. 採用はなかった | 3. 未詳(わからない) |
|---------|------------|--------------|

問6. 2021年4月入社の新卒採用数について、現時点でどのようにお考えですか。

貴社の方針に近いものをお選びください。(ひとつに○)

※すでに採用活動が終了されている場合は、貴社状況にあてはまるものをお選びください。

- | | | |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 2020 年よりも増えると思う | 2. 2020 年と同程度だと思う | 3. 2020 年よりも減ると思う |
| 4. 新卒の採用は行わない予定 | 5. 未定(わからない) | |

問7. 今後の新卒者の採用にあたり、どのような「最終学歴」の方の採用をお考えですか。

貴社にとって採用対象となると思われるものをすべてお選びください。(いくつでも○)

- | | | | |
|----------|-----------|-----------------|---------|
| 1. 高校卒 | 2. 短大卒 | 3. 大学卒 | 4. 大学院卒 |
| 5. 専門学校卒 | 6. その他() | 7. 新卒の採用は行わない予定 | |

ここからは、2022年4月に設置予定の「東海大学の新しい学部学科」のことについてお聞きます。
別途お配りしたカラー資料に記載の内容をよくお読みいただき、お答えください。

問 8. 東海大学の「人文学部人文学科」には下表a～hの特徴があります。

学生が学ぶ場として、これらの特徴にどの程度魅力を感じになるか、それぞれの特徴ごとに、最もあてはまる番号を1つ選び○をつけてください。 ※詳細はお手元の別紙カラー資料をご覧ください。

人文学部人文学科の特徴		とても 魅力が ある	ある程度 魅力が ある	どちらとも いえない	あまり 魅力が ない	全く 魅力が ない
a	静岡県に新設される学部であるということ	1	2	3	4	5
b	学びの方針 学生自身が、学びを、自由に面白く組み立てていくこと	1	2	3	4	5
c	学びの方針 グローバルな学びを通して、地域に貢献できる力を養えること	1	2	3	4	5
d	学びのスタイル1 遊学プログラム キャンパス間留学やハワイ留学など、静岡以外で学べること	1	2	3	4	5
e	学びのスタイル2 プロジェクト型フィールドワーク プロジェクト型のフィールドワークができること	1	2	3	4	5
f	学びのスタイル3 双方向型オンライン授業 人文学部以外の講義をオンラインで学べること	1	2	3	4	5
g	3つの領域の応用科目 「グローバルコミュニケーション科目群」「地域マネジメント科目群」 「クリエイティブカルチャー科目群」の中から応用科目を選び力をつけていくこと	1	2	3	4	5
h	10の研究講座 食文化や水中考古学など10の研究講座で専門を深く学び、 力をつけていくこと	1	2	3	4	5

問 9. 別紙資料記載の、東海大学「人文学部人文学科」の内容について、それぞれどの程度関心をお持ちいただけますか。貴社のお考えに最も近い番号を1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 1. 関心がある | 2. ある程度関心がある | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり関心がない | 5. 関心がない | |

問 10. 東海大学「人文学部人文学科」で“養成する人材像”は、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。貴社のお考えに最も近い番号を1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 必要になる | 2. ある程度必要になる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり必要にならない | 5. 必要にならない | |

問 11. 東海大学「人文学部人文学科」の卒業生に対し、貴社としてどの程度採用意向をお持ちいただけますか。貴社のお考えに最も近い番号を1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|-----------------|----------------|--------------|
| 1. 採用対象になる | 2. おそらく採用対象になる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり採用対象にならない | 5. 採用対象にならない | |

問 12. 問 11 で、1～3と回答された場合、人文学部人文学科の卒業生について、何名程度の採用が見込めますか。おおよその人数で結構ですので、貴社のお考えに最も近い番号を1つ選び○をつけてください。

- | | | |
|-------|---------|-------|
| 1. 1名 | 2. 2名 | 3. 3名 |
| 4. 4名 | 5. 5名以上 | |

問 13. 最後に「東海大学」全体に対するご意見・ご要望がございましたら、どのようなことでも構いませんのでご記入ください。

質問はこれで終了です。 ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

2022年4月開設予定(設置構想中)



東海大学

人文学部

静岡キャンパス(清水校舎)

人文学科

※このリーフレットに記載された内容はすべて構想中のものであり、今後変更となる可能性があります。

静岡に新学部が誕生。

教室を飛び出せ！

学びを、

もっと自由に、面白く。

静岡・清水を起点に、「グローバルな学び」を通して、
地域に貢献できる力を身につける
多様な学びが新たにスタート。

世界の文化・歴史から、
地域の産業や水中考古学まで、
幅広く学んでいきます。

2020年
世界中で暮らし方、働き方、
人との関わり方が大きく変わることになった。
これから私たちはどうやって生きていけばいいのだろうか。

多くの人々が手探りで生活を送る中、
目まぐるしく変わる現代社会、正解のない未来の社会に、
太刀打ちできる学びを提供したい、
東海大学に誕生する人文学部はそう考えています。



東海大学だから実現できる、
スケールメリットを活かした自由な学びのスタイル。

学びのスタイル1

游学プログラム

ハワイ、沖縄、東海大学の他キャンパスで学ぶ

静岡だけにとどまらない学びの場を展開。札幌、東京、湘南、熊本のキャンパス、沖縄の研究所やハワイに短期大学を持つ東海大学ならではの特性を活かし、幅広い専門分野とフィールドを連動します。他のキャンパスで自由に学ぶことが可能です。

学びのスタイル2

プロジェクト型フィールドワーク

より積極的に社会と関わる学びを展開。地方自治体と連携し、地域住民と共にまちづくりを進めたり、環境保全活動などに参加することで、ひとりひとりが責任を持って、いろいろな世代の人たちと地域の課題を解決します。体験を超えて、経験として積み重ねていく実践的な学びこそが将来の力となるのです。

学びのスタイル3

双方向型オンライン授業

激変する現代に対応していくために、場所を越えて知識の幅を広げる最新の学びを展開。23学部を持つ総合大学としての強みを活かし、人文学部以外の教授の講義をオンラインで学べます。就職に役立つキャリア科目や面接試験の練習も、ひとりひとりのスタイルで進めていくことが可能です。

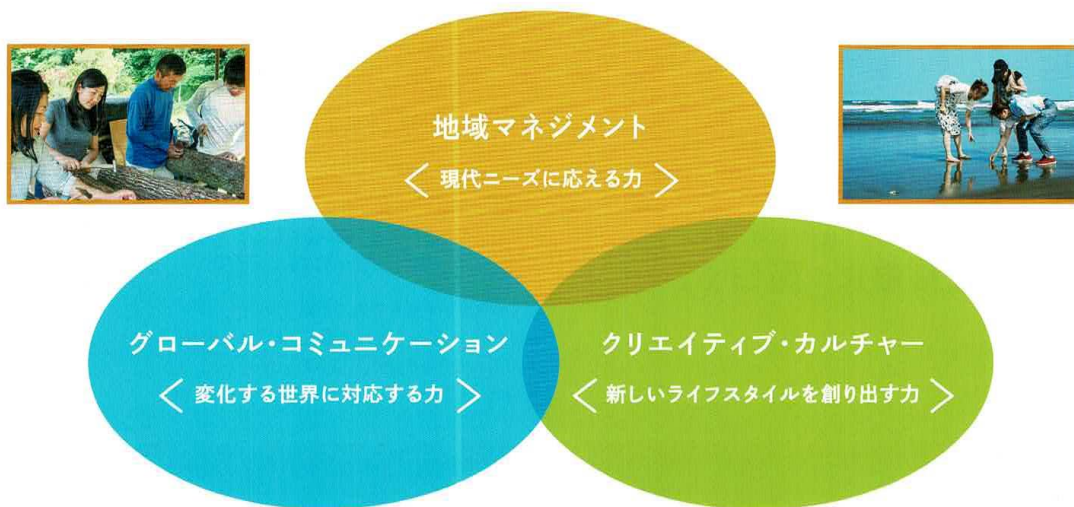
新時代を生きるための新しい学びが、ここにある。

世界は変わろうとしている。今、社会が求めているのは、新しい時代を生きぬく自由な発想力。
東海大学の文学部では、その力を育むための学びを展開します。

学びをもっと面白くする 3つの領域と10の研究講座

幅広く学ぶ3つの領域 発想力を生み出す応用科目

東海大学の文学部の専門分野は、「地域マネジメント」「グローバル・コミュニケーション」「クリエイティブ・カルチャー」の3つの領域から構成されます。それを自由に選ぶことで、発想力の基礎となる新たな視点を育んでいくことができます。



学びを深める10の研究講座 自由に選択できる、あなただけのカリキュラム

3つの領域に基づいて、10の研究講座が開講。専門分野を深く学べます。また複数の研究講座を組み合わせれば、自分自身の関心に応じたカリキュラムをつくることも可能。深く、広く、追究するたびに、学びがもっと面白くなる。それが東海大学・文学部が目指す学びです。

食文化とライフスタイル ●●● 食の歴史と多様性、フードビジネスなど、多面的な学びを通じて、文化を新たに創造する力を身につける。(フードコーディネーター、食と環境)	国際社会と多様性 ●●● 世界の多様な文化と言語を学び、グローバル時代に求められる実践的なコミュニケーションの力を養う。(インバウンド・コミュニケーション、世界の文化とグローバリズム)
日本の文化と歴史 ●●● 新しい社会を創造するために、私たちのルーツから未来へと、広い視野で日本の文化や歴史を学ぶ。(日本人論、生き物文化誌)	地域文化と共創 ●●● 人々との交流を通じて地域特有の文化を再発見し、魅力的な地域社会を共に創り出す力を身につける。(ミュージアム論、地域アーカイブ)
AI時代の人間学 ●●● AI時代の社会に人間が主体的に関わり、情報を正しく有効に活用するために必要なリテラシーを身につける。(映像表現論、データサイエンス入門)	古典の人間学 ●●● さまざまな時代と地域のユニークな書物を読み解きながら、人間と文化への深い理解と洞察力を身につける。(生と死の文化史、神話と美術)
海の文化と環境 ●●● 海をフィールドとして、人間の文化と自然環境の関わりを学び、持続的な人間と自然の共生を考える。(海洋考古学、海洋資源論)	経済とビジネス ●●● 現代ビジネスの実態を学びながら、地域経済の発展に貢献できる基礎力を身につける。(現代ビジネスと法、公共政策論)
観光とホスピタリティ ●●● 「場所」「人」「アクティビティ」から新しいコンテンツをつくり出し、情報を発信する力を身につける。(ウェルネスとセラピー文化、観光人類学)	アート&パフォーマンス ●●● アートやパフォーマンスなどを通して表現力を磨き、多様な人々とのコミュニケーション能力を養う。(文化と現代メディア、エンターテインメント産業論)

●…地域マネジメント ●…グローバル・コミュニケーション ●…クリエイティブ・カルチャー

目指す進路

地域産業である観光・サービス業、海事・流通産業、金融業、マスコミ・マスメディア産業のほか、地方公共団体(自治体職員)、大学院進学

